

85-145

世界百傑傳

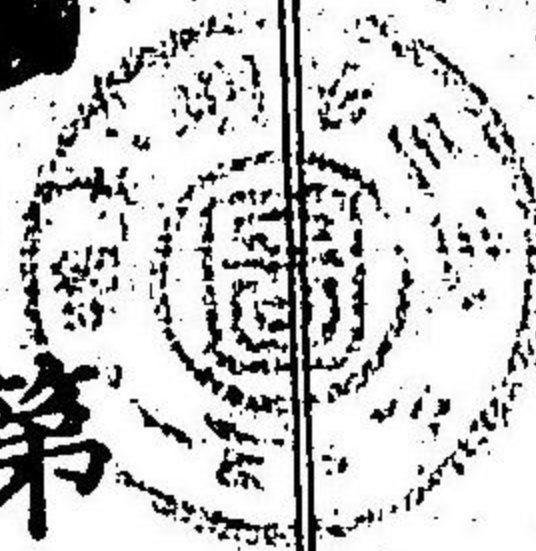
東京

博文館藏版

| | | | |
|---|---|---|---|
| 純 | 蘇 | 大 | 樞 |
| 庵 | 大 | 藏 | 密 |
| 栗 | 德 | 次 | 顧 |
| 本 | 富 | 官 | 問 |
| 鋤 | 緒 | 官 | 官 |
| 雲 | 一 | | |
| 君 | 郎 | 勝 | 安 |
| 題 | 君 | 邊 | 芳 |
| 詩 | 序 | 國 | 公 |
| | 文 | 武 | 題 |
| | | 君 | 辭 |
| | | 序 | |
| | | 文 | |

北村三郎著

編壹第



威

威

威

世界百傑傳序

吾友小村系山與余有同
癖居常惺惺一世尚友
千古嶠岨輾轉半生
未得志石以硯之氣若為

序

小村系山



又三章。著著新帝國策
東洋策以痛福時事
著及那史印度史土耳其
概史以針砭肉食者。今又
著世界百傑傳以極宇

宙之大觀。又林德之氣
憤懣。有凌轆千古併吞
八表之概。世之穢氣山者
以為壯為烈。不後者以為
犯為頑。因思二十餘年

至今在京師提劍督
軍之。題軍務官。出
曰。就國干野。勳血股。
爪。破蜻。蹤羽。四頭。
一
世之英雄。笑對三十。

六少年。長春。人以為壯。為
烈。八九年前。又立京師。
勳名。晦跡。德之世途。破
痛。顏。繁。層。不。甘。敵。凡。日。又
題。于。破。出。曰。大。覺。年。年。盛。

雖小兒在子筆碼崙二子
一去後群兒皆大豚字
內在望王七娘互保焉
寧多：地師上時事與
祗論人以為相為類余

乃笑曰：惺：微惺：如漢
微好漢、錢人觀拂一擊
下笑：未及之以為輕也余
亦知崙山今日之危與
余題此樓憶之日有回
慨焉故錄此事以代序

Handwritten Japanese text in cursive style, likely a preface or commentary. The text is arranged in vertical columns, starting from the right side of the page and moving left. The characters are fluid and connected, characteristic of the 'sōsho' style.

世界百傑傳序

長空ヲ睥睨シテ突兀、絶漠ノ中ニ聳
ル角石塔モ、近テ之ヲ望メハ片石ノ
累積ニ過キス、偉人ノ高ニ踞スルモ
一躍シテ達シタルニアラズ、其ノ儕
輩ノ沈眠シタル深夜ニ於テ、獨リ自
カラ矻々攀援シタルノミトハ是レ
米國ノ詩人ロンダフエルロー氏ノ

句ニアラスヤ、余ハ此句ヲ誦スル毎
ニ、未タ嘗テ倦驚鞭影ニ驚クノ感ナ
クンハアラス、

英傑何人ゾ、彼固ヨリ天分ノ獨リ自
カラ存スルモノアラン、然レモ其ノ
彼等ヲシテ所謂英傑タラシメタル
モノハ、亦タ多クハ人事ニ是レ由ル
ノミ、人事トハ何ソヤ、其ノ猛志硬行

ニ由ルノミ、天分ハ我得テ關スル所
ニアラズ、人事ニ至リテハ豈ニ自カ
ラ發厲憤揚以テ盡碎セサル可ン哉、
博士ジョンソン曰ク、英才トテ一種
ノ才アルニアラス、唯タ尋常人ノ一
方ニ傾瀉シタル力ナリト、言少シク
矯直ニ偏スト雖モ、亦此中ニ誣ユ可
ラサル眞理ヲ包ム、

紫山北村君、頃口百傑傳ヲ著シ、序ヲ
余ニ徵ス。余未タ其ノ書ヲ見ス、焉ソ
之ヲ序スルヲ得ン、然レモ君ノ文豪
蕩ニシテ奇氣饒シ、君カ文ヲ以テ古
今東西ノ英傑ヲ傳フ、想フニ必ラス
其ノ烈々轟々タル神采雄風ヲ描キ
來リ讀者ヲシテ慨然卷ヲ投シテ英
傑我ヲ距ル遠カラサルノ志ヲ起サ

シムルモノアラン、
然リト雖モ英傑豈ニ容易ニ學ヒ易
カラシヤ、其ノ真相ヲ看破シ、以テ修
養ノ資トナスニ到リテハ一ニ讀者
ノ自得ニアルノミ、若シソレ徒ニ其
ノ形跡ニ摸シ、虎ヲ畫テ猫ニ類スル
カ如キアラハ、是レ決シテ著者ノ本
意ニアラス、紫山君弱冠而シテ文章

始ノ下先輩ヲ獲セントス然ソレ動
メテ生マズンハ其ノ遺蹟スル所豈
ニ難リ知リ易カラシ哉百傑傳ニ序
スルニ際レ併セテ書ク君ニ望ム
明治二十三年三月

蘇峰 繼富 第一郎

咏閣龍

匏菴 栗本 鋤雲

漂葉流屍驗有年。磁針不誤達
遙天。蓬萊咫尺猶迷霧。愧殺秦
皇採藥船。

世界百傑傳自序

不登泰山、不知天下之高。登泰山、不登日觀、不知泰山之高也。不觀黃河、不知天下之深。觀黃河、不觀龍門、不知黃河之深也。不觀聖人、不知天下之至。觀聖人、不觀仲尼、不知聖人之至也。個ハ是レ支那人士ノ言ナリ、嗚呼泰山ニ登リテ、其眼中偏ニ一小魯ヲ見ルモノハ、誰レカ此段ノ觀想ナカラシヤ。泰山高シ、然レモ山ノ高キモノハ、何ソ獨リ泰山ニ限ラン。視ヨ巍々トシテ大空ヲ横截シ、嶙峋トシテ曠野ニ屹立シ、七百五十里ノ連續線ヲ畫シ、二万四千尺ヲ過クルノ高峯、四十餘アルモノハ、

喜馬拉亞山ニ非ズヤ。黄河ノ水深シ、然レドモ水
ノ深キモノ何ソ獨リ黄河ニ限ラン、視ヨ渺茫ト
シテ天ヲ浸シ、浩蕩トシテ際涯ナク、黄河ヨリモ
深ク、楊子江ヨリモ大ナルモノハ亞馬遜河ト密
斯悉比河トニ非ズヤ。」
仲尼ノ德至レリ、然レモ聖人ノ聖人タルモノ、豈
必ズシモ仲尼ニ限ラン、視ヨ印度ニ釋迦牟尼佛
アリ、小亞細亞ニ耶穌基督アリ、亞刺比亞ニ馬哈
默德アルニ非ズヤ。」
豈啻ニ然ルノミナランヤ。震天動地ノ豪傑ハ、必
ズシモ拿破崙其人ニ限ラザル也。拔山蓋世ノ英

雄ハ必ズシモ歷山王其人ニ限ラザル也。視ヨ蒙
古ノ平沙ニ成吉思汗ヲ生シタルニ非ズヤ。中央
亞細亞ノ曠野ニ鐵木兒ヲ生シタルニ非ズヤ。」
俾士麥以外ニ政事家ナシト信スルモノハ、日耳
曼人ノ偏心ノミ。加不兒以外ニ、政略家ナシト稱
スルモノハ、伊太利人ノ僻心ノミ。伍爾查格弗以
外ニ外交政畧家ナシト言フモノハ、露西亞人ノ
誇心ノミ。政事家及政畧家ハ、豈必ズシモ此等諸
氏ニ限ンヤ。」
歐洲ノ哲家ニ、韓圖アリ、歌傑爾アリ、然レモ東洋
己ニ老子、莊子、朱晦菴、王陽明アルニ非ズヤ。」

李大白、杜子美ノ後ニ、李大白、杜子美ナシト謂フ
コ勿レ。和馬、美爾頓ノ後ニ、和馬、美爾頓ナシト謂
フコ勿レ。

航海發見家ハ、豈啻ニ閣龍ノミナランヤ。豈啻ニ
華斯、哥德、噶馬ノミナランヤ。工業家ハ、豈獨リ勵
節夫ノミナランヤ。豈獨リ克爾布ノミナランヤ。
想ヒ來レハ、今ヤ宇内ノ大勢、忽焉トシテ一變シ、
五大洲ノ各部ニ於ケル、經天緯地、鑄山煮海ノ大
企業ハ益々進ミテ愈々開ケ、太平洋ノ一面ニハ、
南北米洲大陸連衡同盟ノ大策ハ、已ニ着々其緒
ヲ發シ、米國有識有力ノ名士豪富ハ、競ヒテ奮進

シ、此大業ノ經劃ニ從事セザルハナシ、又亞非利
加ノ殖民、濠洲ノ開拓ハ、駸々乎トシテ、日ニ隆盛
ニ赴カントス。而シテ就中我最近隣ナル一大國
タル、露西亞中央亞細亞ノ鐵道ハ、蜿蜒トシテ長
蛇ノ如ク、益々其歩ヲ馳セ、將ニ浦壘斯德港ニ達
セントシ。東洋全局ノ兵權武力、露國ノ掌握ニ歸
スルノ機、吾人ノ目前ニ逼レリ。支那ノ内地ニ於
ケル、大鐵道敷設ノ大計畫アリ、東洋海陸ノ商權
富力、支那ノ掌握ニ歸スルノ機亦吾人ノ眼前ニ
横ハレリ。此ノ如キ龍蛇飛動、風雨奔騰スル時ニ
當リテ、其國是主義、泛々乎トシテ浮萍枯草モ啻

ナラズ世界風潮ノ緩急ニ任セテ、游泳シ、安眠シ、兵略的進取ノ方針確立セズ、貿易的振張ノ大策一定セズ、朝野ヲ舉ゲテ、虛名ニ屑々トシテ他アルヲ知ラズ、空文ニ汲々トシテ他アルヲ知ラサルモノ、多キハ、問ハズシテ、吾人ノ棲息スル所ノ日本帝國タルヲ知ラン、猛虎空ニ嘯ケハ、百獸震ヒ、迅雷天ニ閃クキハ、百雷吼ユ、苟モ宇内ノ活機一變シ、世界ノ活勢一轉セハ、如何ナル大活劇ヲ東洋ノ局面ニ演出シ來ルベキ乎、余ハ其豫想ノ外ニ出デントスルヲ信ゼント欲ス。

此傳ヲ讀ムモノハ、決シテ——不登泰山、不知天下

之高——ト觀念スルヲ勿レ、決シテ——不觀黃河、不知天下之深——ト觀念スルヲ勿レ、茫々タル宇宙、盡乾坤大ナリ、大千界廣シ、有爲丈夫、豈功名ヲ建ツルノ時ナカラシヤ、豈企業ヲ興スノ地ナカラシヤ、各々我が天稟特殊ノ精神ヲ發揮シ、天稟特殊ノ氣象ヲ激勵シ、大英雄ト爲リ、大勇敢者ト爲リ、大政事家ト爲リ、大聖哲ト爲リ、大農ト爲リ、大工ト爲リ、大商ト爲リ、大醫ト爲リ、大詩人ト爲リ、大企業家ト爲リ、鴻烈ヲ一世ニ振ヒ、雄勳ヲ萬世ニ立ツヘシ、一國一人ニ由テ興ル、彼ノ碌々タルモノ、何ソ齒牙ニ挂クルニ足ラン。



——獨上高樓望八都。黑雲散盡月輪孤。茫茫宇宙人
無數。幾個男兒是丈夫。——

明治廿二年晚冬。常州大洗客舍。碧海風濤擊
天處

紫山漁民 北村三郎識

一 帶上高樓發人經理之故盡其輪職之人亦由人
 無數幾個男兒是丈夫也
 明治廿二年九月廿日人說谷合所繪其繪
 天 處

東京 豐田 繪

像 肖 之 蘇 耶



像 肖 之 尊 釋





世界百傑傳卷一

例言

- 一英雄ハ、管ニ一時ニ於テ拔山蓋世ノ威勳ヲ建テタルモノニ止ラズ、萬世功名的社會ノ大人ト爲スニ足ルベキモノヲ掲グ、
- 一政事家ハ、管ニ一時ニ於テ内治外交ノ績ヲ效シタルモノニ止ラズ、萬世政治的社會ノ木鐸ト爲スニ足ルベキモノヲ掲グ、
- 一兵家ハ、管ニ一時ニ於テ攻城野戰ノ功ヲ奏シタルモノニ止ラズ、其兵畧萬世火鐵的社會ノ泰斗ト爲スニ足ルベキモノヲ掲グ、
- 一教家ハ、管ニ自個ノ哲學及神學ヲ發明シタルモノニ止ラズ、其哲學神學ノ主義ヲ應用シテ世界ヲ濟度シ、聖哲的社會ノ至人ト爲スニ足ルベキモノヲ掲グ、
- 一學士ハ、管ニ社會ニ獨立シテ一家言ヲ樹テタルモノニ止ラズ、其學理及文章以テ之ヲ不朽ニ傳フルニ足リ、學術文學的社會ノ本心ト爲ス

ニ足ルベキモノヲ掲グ、

一航海勇敢者ハ、嘗ニ冒險的ノ運動ヲ爲シ、大發見ヲ爲シタルモノニ止ラズ其事業、後世ニ利シ、世界ニ利シタル勇敢者社會ノ稱首ト爲スニ足ルベキモノヲ掲グ、

一農商工家ハ、嘗ニ其事業ノ偉大ナル、其生活ノ豐富ナルモノニ止ラズ後世農商工社會ノ龜鑑ト爲スニ足ルベキモノヲ掲グ、

一國ヲ世界百傑ノ撰定ハ、決シテ容易ナル業ニ非ズ、豈之ヲ荷モスベケンヤ、今マ記者漫ニ之レカ撰定ヲ試ム、或ハ未タ不完全ヲ免レザルモノ之レアラン識者幸ニ遺漏ヲ正シ、誤謬ヲ指摘セラルレハ、誠ニ記者ノ幸也、

明治廿三年三月

編 者 識

世界百傑傳卷一日次

第一編

英雄——功名的社會

成吉思汗、鐵木真ノ傳

- 第一章 鐵木真ノ系統、生活及其氣息
- 第二章 鐵木真、韃靼諸部ヲ統一ス
- 第三章 鐵木真、花剌子模國ヲ征略ス(其一)
- 第四章 鐵木真、花剌子模國ヲ征略ス(其二)
- 第五章 鐵木真、唐古特(夏)及金ヲ攻伐ス
- 第六章 鐵木真ノ法律及兵制
- 第七章 鐵木真ノ行政及政略
- 第八章 鐵木真ノ人才網羅
- 第九章 鐵木真ノ逸事及雜聞

目次

三

第二編

政事家——政治的社會
比君士斐兒德侯埤士禮立ノ傳

- 第一章 埤士禮立ノ系統、生活及其氣象
 - 第二章 埤士禮立ノ文才
 - 第三章 埤士禮立ノ辨論
 - 第四章 埤士禮立ノ政略
 - 第五章 伯林會議ノ概況
 - 第六章 埤士禮立ノ夫人
 - 第七章 埤士禮ノ逸事及雜聞
- 附 維廉義瓦爾特額特頓ノ傳
- 第一章 額拉特斯頓ノ系統、志行、生活及其氣象
 - 第二章 額拉特斯頓ノ文章及其辨論演說

第三編

兵家——火鐵的社會

武田信玄ノ傳

- 第一章 信玄ノ系統、志行及其歷史
- 第二章 河中島ノ戰況
- 第三章 信玄ノ希望及計畫
- 第四章 信玄ノ兵制及兵略
- 第五章 信玄ノ謀臣
- 第六章 信玄ノ逸事及雜聞

附 上杉謙信ノ傳

- 第一章 謙信ノ系統、生活及其歷史
- 第二章 謙信ノ氣象、風采及其逸事

第四編

宗教家——聖哲的社會

釋迦牟尼佛ノ傳

- 第一章 釋迦ノ系統、生活、氣象及其成佛
- 第二章 釋迦ノ教化及其哲學主義
- 第三章 印度ニ於ケル佛教ノ盛衰
- 第四章 佛教ノ傳播及其勢力

第五編

航海發見家——冒險的社會

基督勃隆龍ノ傳

- 第一章 閩龍ノ容貌、氣象及其教育、生活
- 第二章 閩龍ノ災厄及其遊說
- 第三章 閩龍ノ航海及新地ノ發見
- 第四章 閩龍ノ歸航及再回ノ航海

第五章 閩龍ノ退職及其逝去

勇敢的發明家——博望侯張騫ノ傳

- 第一章 張騫ノ畧傳
- 第二章 張騫西域諸國ニ通ズ
- 第三章 支那ト西域諸國トノ關係

第六編

學士——學術的社會

純全的哲家——繼阿爾克、威廉弗弗特立秘歌傑爾

ノ傳

- 第一章 歌傑爾ノ系統、教育及其生活
- 第二章 歌傑爾ノ著書
- 第三章 歌傑爾ノ哲學主義

純全的哲家——老子ノ傳

第一章 老子ノ系統及其風采氣象
 第二章 老子ノ學說及主義

世界百傑傳卷一 目次終

世界百傑傳卷一

北村三郎著

第一篇

英雄——功名的社會

成吉思汗 鑢木眞ノ傳

第一章

鑢木眞ノ系統、生活及其氣象

鐵腕トシテ蒼空ヲ横絶スルモノハ、興安嶺ノ大山脉ナリ、浩々トシテ平沙
 限リナク、食ニ人ヲ見ザルモノハ、戈壁ノ大沙漠ナリ、古人ノ所謂——利
 鐵骨ヲ穿テテ驚沙面ニ入ル——トハ、豈道般ノ光景ヲ描キ出シタル語
 非ズヤ、人ハ云フ、深山大澤、龍蛇ヲ生スト、記者ハ、奇男子、偉丈夫ノ浮華
 社會ニ生シ、トシテ信セズ、哥塞牙ノ小島ヨリ生レ來リテ、歐洲ヲ席捲シ

鑢木眞ノ系統、生活及其氣象

タルモハ、ハ、拿破侖勃勃奈巴的タルヲ知ルベシ、拿破侖ハ、孤村ニ生長シ、
テ、五洲ヲ、經緯シタルモハ、ハ、耶穌基督タルヲ知ルベシ、

嗚呼拔山蓋世ノ英雄タル、轉乾旋坤ノ政事家タル、——即チ亞細亞ノ全洲
ヲ香ミ、新都ヲ中央亞細亞ノ野ニ建テ、光威ヲ歐洲ニ振耀シタル豪傑成
吉思汗、鐵木眞ガ、韃靼ノ地曠野人烟稀レナル處山川相縈回スル處ニ生
レタルハ、亦偶然ナラザル也。

成吉思汗、姓ハ奇握溫諱ハ、鐵木眞、其父ヲ也速該ト稱シ、母ヲ月倫ト稱ス
元史ニ據レハ、支那南宋ノ高宗紹興三十二年壬午、即チ西曆千百六十二
年——我ガ二條帝應保二年——斡難河邊不囉罕山ノ一支タル迭里温
孛答山下ニ生ル、(西人ノ著ハシタル鐵木眞傳ニ、或ハ鐵木眞ノ生レタ
十五年ト爲スモ、アリ、其既一ニシテ足ラザ)適々父也速該塔塔兒部
ヲ攻メ、其酋鐵木眞ヲ獲タリ、因テ之ヲ鐵木眞ト名ク、
韃靼ノ地タル、戈壁ヲ以テ中心ト爲シ、南北二部ニ分ル、北部ハ、古ノ所謂

ル匈奴北單于ノ庭ニシテ、蒙古ノ時、泰赤烏札木哈、乃蠻、蔑里乞ノ部落此
ニ居リ、互ニ其雄長ヲ爭フ、(即チ今ノ外蒙古略)南部ハ、古昔匈奴南單于ノ
庭ニシテ、中世烏丸、鮮卑ノ居ル所ナリ、蒙古ノ時ニ、薛撒別吉、薛撒大丑之
ニ據レリト云フ、(即チ今ノ内蒙古五十旗、及ヒ直隸省中)風俗簡朴、氣象強悍、
騎射ニ長シ、游牧ヲ業ト爲ス。

鐵木眞ノ時ニ當リテ、韃靼ハ、女眞即チ金ニ屬セリト雖、國內相統一セ
ズ、乃蠻、蠻里乞、泰赤烏、札木哈、克列塔塔兒、蒙古ノ諸部落紛々トシテ、一
ニ割據シ、虎視龍蟠、各々其威ヲ張レリ、若シ能ク此等ノ諸部落ヲ統合シ
之ヲ打テ、一彈丸ト做シ、之ヲ鍊リテ、一團体ト爲セハ、其威力ハ、雄大ナル
由テ、以テ字内ヲ包舉スルニ足ルヘシ、而シテ、群雄林ノ如キ中ニ立チテ、
其眼光遠ク、世界ノ外ニ逸シ、歐洲及ヒ亞洲ヲ經畧スルヲ企圖セシモ
ノハ、止ダ一人アルノミ、一個ノ鐵木眞アリシノミ、

木鐵眞、年十三ニシテ、父也速該ヲ喪ヒ、母月倫ト共ニ閑居シ、其師カラシ

ハールニ就キテ船客ヲ請セリ、時ニ同族赤烏部長、恍惚ナルモニアリ
 強悍ニシテ、武ヲ用ヒケレハ、四方多ク之レニ勝シ、鐵木眞ノ近侍脱燧火
 兒眞モ亦將ニ去ントス、鐵木眞之ヲ留メシガハ、彼レ勸カズシテ曰ク
 深池已ニ乾キ、堅石亦碎シ、留ルモ亦何ヲカ爲サン
 力微ニシテ、父祖ニ隸屬セシ諸種民ヲ統御スルコ足ラサリケレハ、舊民
 遺臣、往々四散スルニ至レリ、若シ英才卓識ノ師傅、血氣勇武ノ忠臣ニ
 善ク、鐵木眞ヲ擁護シ之ヲ維持スルコナカリセハ、其國ハ忽チ覆滅ス
 ルニ至リシナルヘシ

是時ニ當リテ、鐵木眞ノ麾下、別薩里河ニ居リ、札木哈部ノ人、禿台察
 兒、玉律哥、泉ニ居リ、互ニ隙アリ、禿台察兒親ラ薩里河ニ來リ、別薩
 馬ヲ掠メテ去リケレハ、擲只別大ニ怒リ、射テ之ヲ殺セリ、已ニシテ札木
 哈、聲援テ、泰赤烏部ニ請ヒ、兵三萬ヲ率ケテ、蒙古部ヲ滅セント欲ス、鐵木
 眞之ヲ聞キ、大ニ同盟諸部ノ兵ヲ集メ、十三翼ヲ設ケ、札木哈ト、答蘭版朱
 思ノ野ニ戰ヒ、遂ニ之ヲ敗ル、是レテ韃靼戰爭ノ始ト爲ス、鐵木眞ノ才幹
 勇武ヲ顯ハス、實ニ是ヨリ始マレシ

第二章

鐵木眞、韃靼諸部ヲ統一ス

星斗滿空、不如一月、衆角滿野、不如一麟——鐵木眞ハ實ニ群雄ニ脱
 出シタル傑物ナリ、レナリ、當時、蒙古部中ニアリテ、土地廣ク、威力強ク、從
 民最モ衆キモノハ、泰赤烏部ヲ以テ稱首ト爲セシカ、其族照烈部ノ酋長
 玉律ナルモノ、泰赤烏ノ爲メニ虜ニセラレ、遂ニ哈海答魯ト相謀リ、所部
 ヲ率テ、鐵木眞ニ來歸シ、泰赤烏ヲ殺シテ、自ラ效サン、トテ、誓ヒ、鐵
 木眞、乃チ之ニ謂テ曰ク
 我方ニ熟眠セリ、汝、幸ニ我ヲ覺セリ、今、日
 リ、車轍ノ通スル處、人跡ノ至ル處、皆當ニ之ヲ蹂躪シテ、以テ、汝ニ與フヘ

シ、ト然レトモ二人其首ヲ實行スルヲ能ハスシテ復々叛キシガ塔
 海答魯中途ニ於テ、泰赤烏部ヲ爲シテ殺サレ、照烈部、遂ニ亡フルニ至レリ、
 鐵木真、人ト爲リ、英邁ニシテ、雄略アリ、其己レヲ處スルヤ、嚴直方正ナレ
 且、人ヲ遇スルヤ、寬弘大度ナリ、且ツ其部下ヲ眷愛シ、厚ク勳勞ヲ賞セシ
 テ以テ、人心悅服、之レガ用ヲ爲サントテ、樂マザルナシ、

英雄必樂圖不
 乘機者非英雄
 之士

是時塔兒塔兒部ノ酋長、蔑兀真、笑里徒、金人ニ背キシカハ、金主璟、丞相完
 顔襄チシテ之ヲ征セシム、鐵木真、機ニ乘シテ、厥起シ、幹難河ヨリ進ミ、納
 刺禿失圖ノ野ニ遊擊シ、大ニ之ヲ破リ、盡ク輜重及家畜等ヲ奪ヒ、タリ、金
 主鐵木真ノ功ヲ賞シ、之ニ察兀禿魯ニ、猶ホ招討使ノ如シ、ト授ケ、
 四邊ヲ征セシム、鐵木真是レヨリ、大ニ威カヲ著ヘ、勇兵ヲ養フ、ト得タリ、
 克烈部長、脫里ハ、忽兒札胡思益祿ノ子ナリ、金ノ封爵ヲ受ケテ、注罕ト稱
 ス、初メ其叔父菊兒ト、嫌隙ヲ生シ、戰敗レテ、追ハレシガ、也速該ノ聲援ヲ
 得テ、位ニ復セリ、已ニシテ、其弟也力可哈刺ノ爲ニ攻メラレ、伶仃孤苦據

ル所ナシ、各地ニ流寓シテ、僅ニ其生活ヲ全クスル、ト得タリシガ、鐵木
 真、之レヲ容レ、其產ヲ分チ、遂ニ注罕ノ位ヲ復セシム、ト鐵木真、竊ニ注
 罕ト共ニ力ヲ戮セテ、鞏固ヲ統一スルノ志アリ、適々乃蠻部長、不魯欲罕
 兵ヲ器ケテ、鐵木真ヲ攻メント欲ス、鐵木真乃チ注罕ト之ヲ擊チ、黑辛八
 石ノ野ニ至リ、其先鋒也的脫孛魯ヲ擒ニス、已ニシテ、乃蠻ノ驍將曲薛吾
 撒八刺、象ヲ率ヒテ來ル、注罕ノ兵、其襲擊スル所ト爲リテ、敗績セシガ、鐵
 木真、博爾朮、木華黎、博羅渾、赤老溫ノ四將ヲ遣ハシテ、之ヲ援ハシメ、遂ニ
 之ヲ走ラス、鐵木真ノ弟、哈撒兒、再々ヒ乃蠻部ヲ忽蘭蓋、側山ニ伐チ、盡ク
 其諸將族衆ヲ殲シ、屍ヲ積ミテ、京觀ト爲ス、乃蠻ノ氣勢、是レヨリ少シク
 挫クト云フ、

泰寺烏ノ部長、沆忽、鐵木真ノ威力日ニ熾シナルヲ見テ、之ヲ忌ミ、兵ヲ器
 ケテ來リ、侵セシガ、鐵木真、幹難河邊ニ遊ヘ、戰ヒテ、大ニ之ヲ敗リ、斬獲甚
 シ、衆シ、是ニ於テ、哈答斤部、撒只兀部、桑魯班部、塔兒塔兒、弘吉刺部等、鐵木

眞ガ乃蠻ヲ破リタルヲ聞キ、要然トシテ驚キ、阿雷泉ニ會シ、鐵木真ヲ襲撃スルノ策ヲ議セシガ、獨リ弘吉刺部長迭夷事ノ成ルベカラザルヲ知リ、其誓ニ背キ、潛ニ使ヲ遣ハシテ、其謀ヲ鉄木真ニ告ケタリケレバ、鐵木真乃チ汪罕ト共ニ虎圖澤ヨリ迎ヘ、擊テ、孟亦列河ニ戰ヒテ、復々大ニ之ヲ敗レリ、己ニシテ、朶魯班亦乞刺思哈答斤、火魯刺思塔兒塔兒散只兀ノ諸部、健河ニ會シ、共ニ札木合部ヲ立テ、局兒罕ト爲シ、進ミテ鐵木真ヲ襲撃セシガ、鐵木真逆ヘテ、海刺兒帖尼火魯罕ノ地ニ戰ヒ、札木哈ヲ走ラズ、弘吉刺部出テ、降リ、四方鐵木真ノ威ニ風靡セザルハナレ、
 初メ、蔑里乞部長脱々、鉄木真ト茂那察山ニ戰ヒテ敗北セシモ、此ニ至リテ、乃蠻部長不魯欲罕ト相約シ、朶魯班塔兒塔兒哈答斤散只兀ノ諸部ト相同盟シテ來リ攻ム、鐵木真汪罕ト軍ヲ率井テ、大ニ關奕壇ノ野ニ戰ヒ、終ニ之ヲ敗ル、時ニ札木哈部兵ヲ起シテ、乃蠻ヲ援ケシガ、其敗ル、ニ及ヒテ、乃チ還ル、己ニシテ汪罕譏ヲ信シ好ヲ敗リ、鉄木真ヲ害セント

謀ル鐵木真乃チ汪罕ヲ釋ナテ之ヲ走ラセシガ汪罕遂ニ乃蠻部ノ將ノ爲ニ殺サル

鐵木真ノ威武蒙古地方ニ振ヒ、諸部落殆ント其鋒ニ當ルモノナシ、獨リ乃蠻大陽罕強硬不屈ニシテ之レニ抗セントス、鐵木真大ニ部將ヲ帖麥該河ニ會シ、乃蠻ヲ擊ツノ策ヲ議セシカ、群臣馬ノ瘦タルヲ以テ、秋ヲ待ント欲ス、鐵木真ノ弟幹赤斤進ミテ曰ク、事ヲ成スハ、斷ニアリ、何ソ馬ヲ以テセンヤ、ト別里古台モ亦曰ク、乃蠻我孤矢ヲ奪ントス、是レ我ヲ小トスルモノニ非ズヤ、我輩死ヲ決シテ以テ彼レガ強ヲ負ミ備ヘサルヲ攻メハ、之レニ克マン、ト必セリ、ト鐵木真大ニ悅ビ、兵ヲ建武該山ニ駐メ、先ツ虎必來哲伯ノ二將ヲ遣ハシテ先鋒ヲラシム、大陽罕接臺山下ヨリ來テ、沆海山ニ營シ、蔑里乞部長脱々、克烈部長阿憐大石、狼刺部長忽都花別吉、其他凭魯班塔兒塔兒哈答斤散只兀等ノ諸部ト兵ヲ併セテ、勢頗ル熾シナリ、鐵木真遊ヘ暇ヒテ、大ニ之ヲ敗リ、遂ニ大陽罕

ヲ擒ニス、諸部ノ軍一時ニ潰散シ、死傷スルモノ算ナシ、餘衆悉ク降ル。是ニ於テ陰山以北復々鐵木真ニ抗敵スルモノナキニ至レリ。」
 鐵木真已ニ乃蠻種民ヲ破リテ、全局ノ勝ヲ占メ、朶魯班塔兒塔兒哈答吉、散只克ノ四部ヲ降シ、復々蔑里乞部ヲ征シ、其所屬帶兒兀孫ノ女忽蘭ヲ納レテ、哈敦ト爲ス。是ニ於テ鐵木真大ニ諸將群臣ヲ斡難河ニ會シ、汗位ニ即キ、成吉思可汗ト號ス。令テ下シテ衆ニ告ケテ曰ク——嗚呼汝等衆汗、久シク我ニ戎馬ノ間ニ從ヒ、萬兵ヲ指揮シ、備サニ艱苦ヲ嘗メシガ、今ヤ僅ニ休息スルイテ得タリ、嗚呼汝等衆汗、我指揮ヲ受ケテ王事ニ勤勞シ、我ヲシテ中ヲ建テ種ヲ立テ古昔大汗ノ業ヲ繼カシム、是レ固ヨリ人謀ヲ得タルニ由ルト雖也、天意ノ之レニ歸スルニ非ザルヨリハ、安ク能ク此ニ至ルイテ得ンヤ、今ヨリ馬蹄車轍ノ至ル所ヲ種メ、悉ク之ヲ併吞シ、英名ヲ千載ニ傳ヘ、汝等衆汗ト之ヲ共ニスベシ、汝等衆汗、其レ之ヲ聽ケ——ト乃テ國中勳勞ノ臣、各爵ヲ進メテ、巴圖魯那顏ト爲シ、大ニ同盟諸國ニ寶

フ、實ニ西曆千二百六年、我國土御門帝元久二年ナリ——金章宗泰和六年、宋寧宗開禧二年ニ當ル。

第三章

鐵木真、花刺子模國ヲ征服ス (其二)

提兵百萬、西湖上立馬、吳山第一峯——トハ是レ小丈夫ノ語ハ、區々ハル、吳山、豈鐵木真ノ爲ニ之ヲ語ルニ足ンヤ、鐵木真已ニ最爾タル蒙古ノ小部落ヨリ起リテ、群雄ヲ驅駕シ、種粗ヲ統一スルニ至リタレド、之ヲ以テ自ラ足レリトセズ、益々四方ヲ經營セントスルノ志アリ、是ニ於テ、其基業ヲ鞏固ニシ、政略ト兵力トヲ並用シ、種族ノ同盟ヲ聯結シ、法律ヲ設テ、兵制ヲ整ヒ、躬行衆ヲ率フテ、各部族ノ標準ト爲レリ。」

鐵木真已ニ大強國ヲ建立シ、公然金ノ東縛ヲ脱シ、南侵ノ謀ヲ講ス、是レヨリ先キニ金主術紹王、允濟位ニアルヲ五年、將士ノ名望ヲ失ヒ、大將胡沙虎ノ弑スル所ト爲リ、其子豐王珣立テ是レヲ宣宗ト爲ス、宣宗ノ時ニ當リテ、鐵木真兵ヲ三道ニ分テ、並ニ進ミ、燕南、山東、河北五十餘郡ヲ取リ、障ヲ燕北ニ留メケル、金主、岐國公主及ヒ男女五百、馬三千ト、金帛トヲ以テ之レニ獻シ、漸ク和ヲ乞ヒシカニ、兵驕ク勢盛マリ、財用亦匱乏シテ中都ヲ守ルコト能ハズ、燕ヲ棄テ、汴ニ遷リ、丞相完顏、福興ヲ留メ、大子守忠ヲ輔ケテ燕ニ居ラシム、鐵木真兵ヲ遣ハシテ、之ヲ圍ミ、遂ニ之ヲ陷キリ河東ヨリ河ヲ渡テ南シ、汴ヲ距ルコト二十里ニシテ去レリ、

千二百十八年、鐵木真更ニ意ヲ轉シテ西征ヲ企圖セリ、此時中央亞細亞ノ地ニ於テ、二大帝國アリ、曰ク黑契丹、曰ク花刺子模是レナリ、——黑契丹ハ、遼ノ宗室、耶律大石——字ハ重德——ノ創立スル所ナリシガ、北都支那ニ割據セル契丹人及金人ノ爲ニ滅ホサレシヲ以テ、耶律大石ハ、其

殘兵ヲ率キテ土耳其機斯坦ニ走リ、畏吾爾人ノ所領ナル噶什喀爾、葉爾羌和闐ノ三府ヲ周匝セル地、即チトランス、オクサナ州及花刺子模ヲ畧シテ新帝國ヲ建立シ、西藏ヨリドヤニイラン——河名——及ヒ西比利亞ノ諸山脈ニ達スルノ地ヲ統ヘ、グル汗ト稱セリ、然ルニ千百三十六年、耶律大石卒シ、其子孫皆庸劣コシテ、父祖ノ基業ヲ繼クモノナク、國勢忽チ衰ヘタリシカニ、畏吾爾ノ汗、トランス、オクサナノ汗及ヒ花刺子模ノ士丹等ハ、此機ニ乘レテ、皆其旗籍ヲ脱セリ、

千二百年、花刺子模汗トクシテ卒シ、其子馬哈默德之ニ嗣キ、花刺子模、西花拉散及イラン、アドヤニミテ併有シ、自ラ花刺子模ノ士丹ト稱シ、更ニ巴爾克、マサンゾラン、ケルマン等ヲ畧シ、疆土ヲ擴張セリ、馬哈默德自ラ謂フク、我が力最早ヤ、黑契丹ヲ征服スルニ足レリト、千二百八年ヲ以テ、師ヲ率キテ黑契丹ヲ攻メシモ、大ニ敗績シ、股肱ノ臣一人ト共ニ囚虜ト爲レリ、其臣、竊カニ奇策ヲ運ラシ、馬哈默德ヲ脱セシメタリ、馬哈默德僅ニ免

レ、國コ歸リタル後チ、其進貢國タルトランス、オクサナ汗阿士曼ト同盟
 シ、再々ヒ黑契丹ヲ伐テ、ガ、此役幸ニ捷利ヲ得テ、敵ノ地オトラルニ至
 ルマテ之ヲ畧有セリ、千二百十年、阿士曼、其都府撒馬爾罕駐在ノ馬哈默
 德ノ代理公使ヲ惡ミ、黑契丹ヲ率スルニ至リシカバ、馬哈默德大ニ怒リ
 撒馬爾罕ヲ拔キ、阿士曼ヲ誅シ、其領地ヲ併セ、都ヲ撒馬爾罕ニ遷セリ、後
 チ千二百十二年ヨリ同十五年ニ至ルマデ、ゲール國ヲ攻メ、又ギズスヲ
 併畧シタリ、然ルニ馬罕默德ハ其疆域益々廣大ニシテ、其ノ兵四十萬ニ
 至リシモ、其國本微弱ニシテ、内部ノ空氣頗ル腐敗シタリキ、

大政事家必立經
 濟之大本不立經
 濟之大本者非大
 政事家

鐵木真ノ國ヲ興スヤ、大ニ貿易ヲ保護シ、其貿易ニ因テ、游牧民ニ必要ノ
 物品ヲ購求シ、且ツ外國ノ事情ヲ探偵セリ、鐵木真ハ之ヨ由テ、馬哈默德
 ノ國政衰廢シ、秩序紊亂セシメ、知リ、其親戚及ヒ官司諸將軍等ニ命メ
 花喇子摸ニ於テ產スル所ノ奇品ヲ購求スルカ爲ニ、其部下ノ回々教徒
 一二人ヲ撰ビ、之ト共ニ赴カシム、

此時商隊ノ人員凡ソ四百五十八

ナリト云フ、

商隊已ニ花喇子摸ノ國境オトシ、府ニ抵リシニ、府知
 事イナヤケク、商隊所載ノ價格最モ貴キ物件ヲ劫掠セン、

チ欲シ、命メ
 ア商買等ヲ捕ヘ、之ヲ馬哈默德ニ報シテ曰ク、

彼等ハ皆間諜ナリ、彼
 等ハ皆商買輩ノ與リ知ル所ニ非ザル事件ヲ探訪シ、亦恐嚇シテ成吉思
 汗、猛虎ノ如キ勢ヲ以テ侵入スベシト云ヒ、又府民夢ニダモ豫想セザル
 ノ襲撃近キコアラント云ヒ、大ニ人民ヲ驚カセリ、之ヲ要スルニ、成吉思
 汗、我國ノ情勢ヲ察シ、且ツ其捷路ヲ搜索セシメ、

カ爲ニ、商隊ニ屬シ、間
 諜ヲ送リシヤ必セリ、

ト馬哈默德之ヲ聞キ、直ニ令メテ商隊ヲ屠殺
 セシメタリ、

鐵木真之ヲ聞キ、兵ヲ馬哈默德ニ出サント欲シ、當時屈出律ノ統轄スル
 所ノ黑契丹ヲ略セシメ、

カ爲ニ、千二百十八年ヲ以テ、哲伯將軍ヲシテ
 之ヲ討タシメ、之ト同時ニ土耳其人某及ヒ蒙古人二名ヲ馬哈默德ニ遣
 ハシ、商買屠戮ノ罪ヲ責メ、其償ヲ促サシム、

馬哈默德大ニ怒リ、密ニ鐵木

異ニ對シテ其答詞ヲ爲サザルノミナラズ反テ其使節ヲ斬リ屬吏二人ノ鬚ヲ斬リ之ヲ返セリ是ニ於テ馬哈默德兵ヲ撤馬爾罕ニ集メ將ニ屈田律ノ領地ニ入リテ其兵ニ合セントス時ニ蔑里乞種民ハ蒙古人ノ爲ニ驅逐セラレタリトノ飛報アリ因テ兵ヲ募ンカ爲ノコ其ノ出師ヲ止メリ是レヨリ先キニ蒙古ノ將軍哲伯ハ黑契丹ニ入寇シ屈田律ヲ捕ヘテ之ヲ誅シ其地ヲ併畧セリ——黑契丹ハ當時農業商業並ニ隆盛ニシテ亦兼テ器械製造ノ術ニ達セリ

此時馬哈默德ハ撤馬爾罕ヨリ北ニ向ヒテ進軍シ蒙古ノ軍ヲ擊ツ蒙古軍勇ヲ敵シテ力戰シ馬哈默德ノ左翼ヲ破リ轉シテ中軍ヲ衝キシコチエヌルウツヤン右翼ノ軍ヲ指揮シテ蒙古軍ヲ破リケレハ戰勢一變シ苦戰劇闘殆ント黄昏ニ達シタリ——馬哈默德此戰ニ辟易シ深ク蒙古軍ノ驍勇強悍ヲ驚嘆シ悚然トシテ近臣ニ爾ヲ曰ク——吾レ未ダ嘗テ此ノ如キ優等ノ兵ヲ見ズ——ト

馬哈默德真偽傳
續也耳

千二百十八年ノ末鐵木真親ヲ將トシテ花刺子摸ニ向ヒテ進ミ翌年夏歐別斯河岸ニ至リ陣ヲ駐メ馬匹ヲ養成シ秋ノ來ルヲ俟テ前進シテ馬哈默德之ヲ聞キ恐懼震悚ノ色アリ管ニ大兵——麾下ノ見兵四十萬——ヲ擁シテ敵兵ヲ卻クルヨチ欲セザルノミナラズ部下ノ兵ヲトランスオクリナ花刺子摸ノ二府ニ駐メ躬ヲ戰地ヨリ退キ鐵木真ガ遼遠ノ山河ヲ跋涉シ來リテ兵馬共ニ疲ルノ弱點アルモ之レカ機ニ乘スルトナ知ラズ亦セイフンシイフンニ河ノ水利アルモ此要地ニ據リテ之ヲ拒クトナ爲サザリキ蓋シ馬哈默德ハ一タヒ蒙古軍ニ當リシヨリ以來膽已ニ破ハレ氣已ニ挫ケテ一戰セントスルノ心ナカリシナリ

鐵木真又無斷

鐵木真ナクシテ鐵木真ハ歐別斯河岸ヨリセイフン河ニ向ヒテ進軍セシガ到處其鋒ニ擾ルモノナク恰モ無人ノ境ニ入ルカ如シ鐵木真ハオトラルニ接スルニ及ビテ馬哈默德ノ兵ノ堡塞ニ據ルトナ探知シトラ

ンスオクサナ製鑿ノ準備ヲ整ヒ兵ヲ分ナテ四圍ト爲レ察合蓋及ヒ窩
 淵蓋ヲオトフルニ北赤ヲセイフツ河ニ沿下シテチエンド府ニ三分
 隊ヲベナケンドニ派シ各部ニ命スルニコイフン河沿岸ノ諸府ヲ陷レ
 ンヲ以テシ親ヲ本軍ヲ率ホテ布哈爾ニ向ヒトランスオクサナ州ノ
 一大部ヲ遮斷シテ以テ敵ノ應援ヲ妨クルノ策ニ出デタリ
 察合蓋ハ攻圍六ヶ月コレヲオトラル城ヲ拔キ人民ヲ驅逐シ北赤ハチ
 エンドニ向ヒレグナクノ住民ヲ殺戮シ更ニウズケンドチエンド養古
 干府等ヲ蹂躪セリ第三分隊ハ五十騎ヨリ編成シベナケントニ向ヒ之
 ヲ陷レリ

千二百二十年三月鐵木真其子拖雷ト共ニ布哈爾ニ至リ敵兵ヲ攻撃セ
 シガ敵兵都城ヲ防カント欲シ府外ニ突出シドチエフンニ至ルニ及ヒ
 プ伏兵ノ爲ニ要塞セフレテ全軍皆殲滅セリ鐵木真布哈爾ヲ征服セシ
 ヲ撤馬爾罕ニ向ヒ先ツ近隣ヲ巡行シテ敵ノ壘寨ヲ觀察シ第三日コ

及ヒテ俘虜ヲ先キニシ蒙古軍之レニ尾シテ府下ニ逼リシガ城兵勇ヲ
 破リテ突出スルモノアリ蒙古軍併リ退キテ之ヲ誘ヒ伏兵ヲ設ケテ之
 ヲ破リ掠奪算ナシ城兵多クハ是レカンカルイ人土耳機人種
 ナリシガ之ヲ見テ氣力大ニ沮喪シ家族ヲ率ホテ出テ降レリ鐵木真
 第四日ヲ以テ大ニ攻撃ヲ加ヘント欲セシガ撤馬爾罕ノ「カヤ」審判官
 及「ムフナー」官法師等ヲ從ヘ轅門ニ來リテ赦宥ヲ乞ヒケレハ鐵木真慰
 籍シテ之ヲ許ス是ニ於テ撤馬爾罕城門ヲ開キテ降レリ實ニ千二百二
 十年四月一日ナリキ

鐵木真ノ撤馬爾罕ニアルヤ馬哈默德ハ退キテチフシエフニ向ヒシガ
 巴コシタイラクアチエミニ退クノ議ニ決セリ馬哈默德巴爾克ニア
 シ始メテ布哈爾及ヒ撤馬爾罕ノ陷チリシヲ聞ケリ其麾下多クハ土
 耳機人土耳其人ニシテ之レニ將タル者ハ馬哈默德ノ母ツウルヤン
 ノ親戚ナリシガ乃チ陰カニ馬哈默德ヲ害センヲ謀ル馬哈默德之ヲ

覺シ夜ニ乘シテ潛カニ住幕ヲ出テ他所ニ轉セリ翌日其幕ヲ闢レハ羽
箭ノ集マルヲ蟬ノ如クナリト云フ馬哈默德終ニニシヤブルニ退避
セシガ蒙古軍已ニ花刺散ニアリト聞キ急ニ游獵ニ托シテニシヤブル
ヲ發シイヌクニ赴キケル

鐵木眞不魯普用
典又善將將

是レヨリ先キニ鐵木眞ハ馬哈默德ノ遁逃セルト聞キ三万騎ヲ哲伯及
速不蓋ヲ能クシメ馬哈默德ニ當ラシメタリ哲伯及ヒ速不蓋ハテルメ
ドノ邊ニ於テデエフン河ヲ渡リ遂ニニシヤブルニ達シ府民ヲ屠戮シ
是レヨリ路ヲ兩道ニ取リ速不蓋ハダメガン及ヒヒムナムニ哲伯ハマ
ザンデランニ向テ進ミレイ府ニ接シテ再々ヒ相會セリ
馬哈默德ノニシヤブルヲ發スルヤカズビンニ赴キ留マリテ以テ兵力
ヲ張ント欲セシガレイ府已ニ蒙古軍ハ有ト爲リ其住民暴殺ノ報ニ接
シ愕然トシテ爲ス所ヲ知ラズ公卿大夫將校士卒各自ニ一身ヲ保ント
ヲ謀リ皆四方ニ飛散セリ是ニ於テ馬哈默德ハ帕古達ニ赴カントセリ

ガ遂ニ方向ヲ轉シテギリヤンニ至リ是レヨリ裏海ニ沿ヒテマザンデ
ランニ走リシガ此地ニ於テ蒙古軍復々其州ニ侵入シテ首府アモル並
ニ貿易市場アストラバドヲ蹂躪シ其地ヲ奪取セリト聞キマザンデラ
ン州ノ酋長等馬哈默德ニ勸メ暫ク裏海ノ一島ニ避ケシメント欲ス馬
哈默德其説ヲ納レ常ニ帳幕ニ起居シ其糧食及ヒ一切ノ需用一ニ之ヲ
マザンデランノ住民ヨリ仰キ快々トシテ樂マズ變々トシテ病ニ臥シ
終ニ歿死ス實ニ千二百二十一年二月十日ナリキ嗚呼兵馬ノ雄ヲ擁シ
土地ノ大ニ據リ自我獨尊自ラ居リ一旦鐵木眞ノ軍ニ當ルニ及テ一敗
氣ヲ屈シ再敗膽ヲ喪ヒ終ニ末路此ニ至ル馬哈默德ハ其レ衰本初一輩
ノ人ナル也哉

第四章

鐵木真花刺子摸國ヲ征略ス (其二)

此時ニ當テ、鐵木真ハ風雲叱咤ノ勢ニ乘シテ、撒馬爾罕ヲ拔キ、陣營ヲナ
 フシテ、近傍ニ張り、馬匹ヲ養ヒテ、千二百年ノ秋ニ至ル。適々馬哈
 默德ノ諸子、花刺子摸ニ來リ、兵ヲ募ルト聞キ、乃チ朮赤察合臺及ヒ窩
 濶臺ヲ花刺子摸ニ遣ハシ、又花刺子摸ヨリ花刺散ニ至ルノ走路ヲ遮斷
 セシガ爲ニ、花刺子摸原ノ南端ニ於テ、別ニ兵ヲ駐メテ之ヲ扼セシガキ
 ニラル。ウツヤン、ネツサニ來リ之ヲ見テ、麾下ヲ勵マシ、擧テ蒙古軍ヲ破
 リ、是レヨリニシヤブルヲ經テギズニニ赴キ、專ラ兵伍ノ編成ニ從事セ
 リ。ギズニハ馬哈默德ガチエラルヲ封セシ地ナリ。

馬哈默德ノ諸子、花刺子摸ヲ脱スルノ後、幾モナクシテ、朮赤五萬ノ兵
 ニ將トシテ、ウルゲンチニ逼リ、之ヲ攻ム。然ルニ此役ヤ、朮赤ト察合臺ト
 ノ間ニ罅隙ヲ生シ、二將ノ號令相矛盾セリ。城兵是ニ由テ、蒙古軍ニ降ル

「チ肯ンセズ、鐵木真之ヲ聞キ、ウルゲンチ城ノ攻圍ヲ以テ窩濶臺ニ任
 セシガ、窩濶臺其兄弟ノ不和ヲ解キ、新ニ軍伍ヲ整ヒ、大舉攻城ノ隙ヲ一
 定シ、遂ニ之ヲ陷キル。」

朮赤察合臺及ヒ窩濶臺ノ花刺子摸ヲ攻ムルニ當リテ、鐵木真ハ、親ヲ別
 軍ニ將トシテ、アルノドニ進ミ、攻圍十日ノ後、激戰シテ之ヲ拔キ、更ニ兵ヲ
 巴達克山及ヒ其隣近ニ分遣シテ、之ヲ蹂躪セシメ、翌春ヲ待テ、チエフン
 河ヲ涉リ、進ミテ巴爾克ニ向ヒシガ、其住民ハ財寶ヲ鐵木真ニ獻シ、以テ
 降服ノ意ヲ表セリ。鐵木真命シテ住民ヲ屠戮セシメ、大ニ掠奪ヲ縱コシ
 タリ。

初メ哲伯及速不盛マヤンデランヨリ退クヤ、浮首アリ、曰クチエラルウ
 ツデン、捷利ヲ獲タリト、鐵木真之レヲ聞キ、七万ノ兵ヲ拖雷ニ授ケ、花刺
 散ニ遣ハセリ。拖雷ハアモイノ邊ニ於テ、チエイフン河ヲ渡リ、千二百二
 十一年二月、嘿爾秘ニ至リ、是レヨリニシヤブルニ赴キ、途上各府ヲ攻ム

住民皆奮取勇ヲ鼓シ、蒙古軍ニ抗シタリケレハ、蒙古軍ノ死スルモノ亦少カラズ、鐵木真ノ婿トカチヤル亦之ニ死セリ、蒙古軍先ツ進ミテ、ヤブルノ管下ヲ蹂躪シ、然ル後、弩三千、投石器三百、施火石油、並等ヲ用ヒテ之ヲ圍ミ、圍城後二日、即チ千三百二十一年四月七日、チ以テ全ク城濠ヲ埋メ、翌日、濬カニ隧道七十ヲ穿テ、一萬ノ蒙古軍ヲ城内ヲ突入セシメ、大ニ之ヲ破ル、住民力竭キテ、遂ニ降シ、拖雷大ニ屠戮ヲ縱ニシ、其頭顱ヲ以テ三角塔ヲ築カシメタリ、嗚呼其屠殺ノ慘狀亦想フベシ、

拖雷ニシヤブルヲ發シ、希拉特ヲ攻ムル丁八日ニシテ、之ヲ拔キ、其住民ノ死ヲ宥シ、唯チエラル、ウツゲンノ屬軍一萬二千人ヲ屠リ、父ノ軍ニ合センカ爲メニ、クレカンニ向ヒテ出發セリ、初メチエラル、ウツゲンハ兵七萬騎ヲ率キテ、喀布爾及ヒハミアンニ向ヒテ進ミシガ、蒙古ノ將、クツウクハ、三萬ノ兵ヲ督シ、一ハチエラル、ウツゲンノ器動ヲ窺ヒ、一ハ鐵木真ノ後援ニ備フルカ爲メ、ハミアンニ陣ヲ張レリ、チエラル、ウツゲン諸

軍ニ令シテ、之ヲ擊タシム、兩軍奮闘、日出ヨリ日暮ニ至リテ、勝敗未タ決セズ、クツウク兵士ニ命シテ、藁人數千ヲ作り、獸毛ヲ被ラシメ、或ハ死屍ヲ以テ其不足ヲ補ヒ、之ヲ糧車ノ後ニ駢列セリ、敵軍之ヲ見テ、果シテ蒙古軍ノ加ハルモノト誤認シ、チエラル、ウツゲンニ勸メテ、速ニ之ヲ退カシム、チエラル、ウツゲン肯ンセズ、益々兵氣ヲ鼓舞シテ、奮戦セシム、蒙古軍ノ進ミテ敵ノ左翼ヲ衝キシガ、飛箭紛々トシテ驟雨ノ如ク、兵又相接スル時ニ當リテ、チエラル、ウツゲンハ、呼囉ヲ吹キテ、號令ヲ傳ヘ、騎兵ヲ放チテ衝突セシメ、叱咤戰ヲ督セリ、但タ見ル、吶聲崩雷ノ如ク、烟焰天ニ限リ、兵士ノ出沒スル、恰カモ虎豹ノ躍ルニ異ナラズ、時ニチエラル、ウツゲン別軍ヲ派シテ、蒙古ノ走路ヲ遮斷セシム、蒙古軍、其重圍ニ遇ハンコトヲ恐レテ、遂ニ潰敗セリ、チエラル、ウツゲンノ奇捷ハ、實ニ善ク敵ノ死命ヲ制シタリ、嗚呼父馬哈獸德ヲシテ、剛毅不屈、其子ノ如クナラシメバ、彼レ未ダ一敗地ニ塗レテ、忽チ大國ヲ敵人ノ手ニ委ヌルニ至ラザルベシ、

是時鐵木眞ハ拖雷察合臺及ヒ窩淵臺等ノ軍ヲ合セ親テ之ヲ督シ、
 フルウツヤンノ陣ニ向ヒテ戰ヲ挑ミレガ、チエラルウツヤンハ蒙古ノ
 大軍雲霞ノ如キヲ見テ、到底其敵スベカラザルヲ知リ、退キテギズニ
 陣シ、後チ又印度河上ニ退キ、印度ニ陣シ、左右翼ヲ張リ、テ弦月狀ヲ成セ
 鐵木眞曉ニ乘シテ之ヲ襲撃シ、勢疾風猛雨ノ如ク、進ミテ兩翼ヲ破ル
 チエラルウツヤン僅ニ寡兵ヲ率キテ中軍ニアリシガ、機ヲ窺ヒテ圍ヲ
 潰シ、特里ニ向ヒテ遁ル。鐵木眞兵ヲ遣ハシテ之ヲ尾撃セシメダレ、其
 踪跡ヲ得ズ、遂ニ師ヲ班セリ、時ニ千二百二十二年ナリキ、
 初メ鐵木眞窩淵臺ヲシテギズニテ攻メシム。窩淵臺人口ノ查點ヲ名ト
 レテ、住民ヲ府外ニ聚メ、之ヲ屠殺セリ、唯々其死ヲ宥サレテ蒙古ニ送致
 セラレタルモノハ、藝術家及ヒ職工アルノミ、
 希拉特ノ人民ハチエラルウツヤンガ捷利ヲ獲タルヲ聞クト、同時ニ蒙古
 ノ壓抑ヲ脱セント欲シ、同府ニ駐劄スル蒙古官吏ヲ殺セリ、鐵木眞之ヲ

聞キ、イリツチカダイチ希拉特ニ遣ハシ、其住民ヲ勦滅セシム、イリツチ
 カダイハ併略地方、壯丁五萬ヲ募リ、攻圍ノ土工ヲ起シ、竟ニ之ヲ破ル、實
 ニ千二百二十二年六月ナリ、イリツチカダイハ府民ヲ屠リ、暴行七日ニ
 及ビタリト云フ、

鐵木眞ハ窩淵臺イリチカダイ並ニチエラルウツヤンヲ追撃セル兵士
 ノ歸ルヲ俟テ徐ニ軍ヲ班セシガ、其蒙古ニ遠スルヲ得タルハ、實ニ千
 二百二十五年二月ナリトス、

鐵木眞花刺子模ノ東部ヲ征略スルニ當リテ、蒙古ノ名將、哲伯及速不該
 ハ、馬哈默德ノ踪跡ヲ追ヒレガ、之ヲ索ムルニ由ナシ、イラシ、アザミニ駐
 ワテ之ヲ劫掠シ、又シム、カズピン等ヲ攻メ、是レヨリダウリスニ向ヒテ
 進ミレガ、クフリスノ住民ハ、之ヲ迎ヘ、幣帛馬匹、其他家畜ヲ獻シテ、掠奪
 ノ禍ヲ免ルヲ得タリ、已ニマテ蒙古軍、兵ヲ裏海ニ返シ、土耳其曼人及
 ヒクルト人ヲ從ヘ、之ヲ以テ兵力ヲ増シ、ムガソ原ニ至テ、冬月ヲ送ント

セシガ、更ニ塞ヲ冒シテ軍ヲ發シ、クレーンニ進ミ、千二百二十一年二月、クレーンノ兵ヲ特付里斯ノ近傍ニ破リ、再々ヒタフリスニ來リテ贖幣ヲ求メ、又メガフ府ヲ襲ヒテ之ヲ滅シタリ。

哲伯及ヒ速不臺ハ、回々教主ナツシルノ領地ヲ侵サント欲シ、軍ヲ進メシモ、道路ノ險阻ナルヲ以テ、軍ヲ返シ、ガタゲンニ向ヒテ發セシガ、其府民ノ抗敵セシヲ以テ、全府ヲ焚キ、住民ヲ屠レリ、是レヨリアルデヒリニ向ヒ三タヒタフリスニ來リ、其人民守備ヲ嚴ニシ、之ニ抗セシカハ、蒙古軍攻メテ之ヲ陥ル、時ニ千二百二十二年九月ナリ、哲伯及ヒ速不臺ハ其近隣ヲ蹂躪セント欲シ、ガタゲン府ニ向ヒ贖金ヲ得テ、クレーンニ赴キ、敵兵三萬ヲ襲殺シ、是レヨリセルワン州ニ赴キ、シエマフヲ掠奪シ、ルメントヲ奪ヒテ北行セリ、——時ニアタネ「レエギン」セルカシアン「ポ」シロフツイ種民相同盟シテ抗敵スルニ遇ヒ、兩軍ノ勝敗未タ決セズ、蒙古軍、是ニ於テ慣用ノ險計ヲ用ヒ、使テ道ハポ「ロフツイ」人ヲ給キテ

蒙古軍の侵入と其の略奪

シロフツイ——蒙古人ハ「ポ」ロフツイ人ト同胞ナリ、故ニ之ト戰フコト欲セズ、今ヨリ互ニ相親睦シテ兄弟ノ交ヲ結ハシメテ盟ス、——ト財寶及ヒ藥服ヲ贈レリ、「ポ」ロフツイ人忽チ其術中ニ陥リ、彼ノ「アタネ」人セルカシアン人等トノ契約ヲ謝絶セリ、蒙古軍、此機ニ乘テ容易ニ敵軍ヲ破リ、之ヲ征服セリ、而シテ「ポ」ロフツイ人ハ蒙古軍ノ約ヲ信シ、彼我ノ和約全ク成レリト信シ、漫然トシテ警備ヲ忽ク各々歸路ニ就キシガ、蒙古軍、突如トシテ之ヲ追撃シ、其大半ヲ屠リ、露國ノ邊境ニ逼レリ、蒙古軍復々露西亞諸公ノ兵ト對陣シ、故ラニ伴リ退キテ、之ヲ「ポ」ロウエツ原ニ誘ヒ、カルカ河邊ニ於テ交戦シ、大ニ露軍ヲ破ル、實ニ千二百二十四年五月ナリ。

蒙古軍長驅ノ勢ニ乘リテ、土尼伯爾ニ至リ、同河ヲ下リテ、哥里米ニ侵入シ、當持ゲタヤ人ニ屬シ、黑海ノ南岸ト其北岸トノ貿易市場アリシニ、シノ府ヲ併略セリ、——巴ニシテ蒙古軍、勃爾、俄利亞ノ地ヲ襲ヒ、敵ニ伏兵

蒙古軍の侵入と其の略奪

二九

中ニ勝致シテ大ニ之ヲ破ル、當時勃爾俄利亞ノ大軍其死ヲ免ル、トテ得タルモノ、僅ニ四千人ニ過キサリ、ト云フ、蒙古軍是レヨリ陣ヲ収メテ歸途ニ就ケリ、機敏活動、閃電ノ如シ、蒙古軍ノ舉止亦喜ブベシ、

第五章

鐵木眞唐古特(夏)及金ヲ攻伐ス

石火莫及電光閃通、——トハ鐵木眞ノ開ナリ、一方ニハ博虎居龍ノ技ヲ出シ、一方ニハ震天動地ノ響ヲ運ラズ、何ア其ノ活脫ナルヤ、初メ鐵木眞千二百十一年三月ヲ以テ支那經略ノ師ヲ發シ、其子朮赤察合臺窩闊臺拖雷等ト共ニ金人ト戰ヒ、屢々之ヲ破リ、北京ヲ陷キ、未ダ幾ナラズ、鐵木眞花剌子摸征討ハ舉アリ、千二百十七年、再將朮華黎ヲ遣東ヨリ召遣

シ、之レヨ王爵ヲ賜ヒ、支那征討ノ總督ト爲シ、金地併畧ノ功ヲ完結セシトテ託シ、游牧民兵二万五千並ニ契丹人及ヒ金人ヲ以テ編成シタル二軍ヲ附セリ、

朮華黎ハ是歲ヲ以テ金ニ入ル、是レヨリ先キニ金人蒙古軍ノ退クニ乘シテ、黄河ヲ濟リ、河北ノ諸州ヲ復セリ、但シ北京及ヒ支那ノ北部ハ依然トシテ蒙古人ノ有コト歸セリ、朮華黎ハ屢々其失ヒタル舊領各城寨ヲ恢復セント欲セシモ、其督スルノ兵甚タ寡ナク、攻略意ノ如クナラザリシ、然レモ金人十四年ノ攻撃ニ對シテ志屈シ、氣挫ケ、終ニ黄河以北ヲ棄テ、退キテ精兵二十餘萬ヲ河内ニ聚メ、分テ潼關ノ險隘ヲ守ラシメ、リ、猛鷲ナル蒙古軍ニシテ、其西面ヨリ侵入セハ、金ノ南都ヲ衝ク、肯テ難シトセザル所ナリ、而シテ千二百二十二年八月鐵木眞馬哈獸德ト兵戈ヲ接ユルコ際、金人使ヲ汗コ遣ハシ、和ヲ請セント欲シ、此歲金ノ新使、又繼キ至ル、然レモ鐵木眞使節ヲ接スル毎ニ、益々其要求ノ事項ヲ倍

セシメタリケレハ、和議竟ニ成ラザリキ、此時木華黎、濟南東平等ヲ略シ、
 進テ黄河ニ至リ、托克托城ノ近傍ヨリ該河ヲ渡リ、唐古特國(夏)ニ向フ、唐
 古特國王蒙古軍來ルト聞キ、大ニ驚キ、援兵五萬及ヒ贈物ヲ致シテ之ヲ
 慰セリ、木華黎、援軍ヲ得ルヤ、南馳シ延安ヲ圍ミ伏シ、城外ノ豁谷ニ所コ
 設ケ、敵兵ヲ誘テ、大ニ之ヲ破ル、然レモ延安城堅固ニシテ、容易ニ拔クベ
 カラズ、乃チ之ヲ棄テ、山西ノ南ニ進撃セリ、千二百二十三年、木華黎、卒
 シタルガ爲ニ、蒙古軍暫ク其攻撃ヲ中止セリ、(利兒氏一書ニ曰ク、木華黎、亂
 殺多智略、統督射、挽弓二石強、與博爾木、博爾忽、赤老温、事太祖、俱以忠勇
 稱、號假里班、律、猶華、晉、四傑也、其征戰功多、封魯國王、位忠義、子字魯嗣)
 已ニシテ、鐵木眞、花刺子摸ヲ討滅シテ、凱旋スルヤ、更ニ唐古特國——即
 チ夏——ヲ征服セント欲シ、千二百二十五年ノ冬、精兵ヲ率テ進軍セ
 リ、是レヨリ先キニ、鐵木眞、軍備ヲ整フルニ際シ、金人ヲ驅逐シテ併呑シ
 タル地ニ於テ、穀粟及ヒ綿帛等ノ貯蓄ナキヲ憂ヒシガ、諸將皆曰ク、支那
 ノ居民ハ、汗ノ爲ニ、未ダ一毫ノ利益アルヲ見ズ、華口之ヲ屠殺シテ牧地

耶律楚材有經濟

オ

ヲ招クノ愈レリト爲スニ、若カズト、耶律楚材其論ノ、非理ヲ駁シ、豐饒ノ
 地及産業アル人民ヨリ得ル所ノ利益甚ク多ク、地租、商品税、酒税、酸税、鹽
 税、鐵税等ノ租税ヲ賦課セ、概算銀五十萬兩、絹布八萬疋、穀粟四十萬石
 ノ歲入ヲ見ルベキトテ、明證セリ、鐵木眞乃チ耶律楚材ニ命テ租税徵收
 ノ議ヲ實施セシメントセシガ、後チ窩濶登即チ太宗ノ時ニ至リテ始メ
 テ成就セリト云フ、——千二百二十六年二月、鐵木眞進ミテ唐古特ノ地
 ニ入リ、背後ニ警兵一旅團ヲ備ヘ、察合臺ヲシテ之ヲ督セシム、到處火ヲ
 放テテ殺戮ヲ逞クシ、住民ノ山谷ニ避クルモノモ亦兵刃ニ觸レザルモ
 ノナシ、鐵木眞、別ニ一軍ニ命シテ都城寧夏ヲ圍マシメ、自ラ州郡ヲ蹂躪
 シ、轉シテ金地ニ赴キマシ、
 千二百二十七年、青州城、蒙古ニ降ル、城兵防戦スル一歲餘、糧食空乏、進退
 措ク所ヲ知ラズ、城將李全、勢支フベカラザルヲ以テ、衆ヲ舉ゲテ降ル、五
 月、鐵木眞、金地ニ侵入セシガ、其兵漸ク進ミテ平涼及ヒ鳳翔ニ達シ、鐵木

眞、自ヲ暑熱ヲ六盤山ニ避ク、此時唐古特ノ都城寧夏ハ重圍ノ中ニ陷キ、國王李脫ハ都城ヲ棄テ、讓與シ、降服ヲ約セリ。(將一書ニ曰ク、時諸將材固取書數部、大黃阿膠而已、既而軍士病疫、唯得大黃可愈、趙材用之所活萬人。)尋テ鐵木眞重病ニ罹リ、病入リ八日ニシテ崩ス、實ニ千二百二十七年八月十六日ナリ。

突厥在歐中

鐵木眞病薨ニ臥シ、死且夕ニ迫リ、諸將ヲ會シ、金ヲ伐ツノ策ヲ説キテ曰ク、——金ノ兵、潼關ヨアリ、南ハ連山ニ據リ、北ハ大河ヲ限ル、今マ遠ニ之ヲ拔クベカラズ、故ニ須ク道ヲ宋ニ假ルベシ。宋ト金トハ世讐アリ、必ズ我が請求ヲ拒絕セサルベシ、是ニ於テ、我兵ヲ唐鄧ニ下シ、直チニ汴京ヲ擣クベシ、汴京急迫ナレハ、金人必ズ兵ヲ潼關ニ徵メ、援軍ト爲スヤ必セリ、然レ且彼レ數万ノ衆ヲ以テ千里赴援セハ、人馬疲弊シテ用ユルコ足ラズ、果シ然ラハ我敵ヲ破ルヲ甚メ難カラズ。——ト且ツ鐵木眞ハ、唐古特國王約ヲ履ミ、其都城ヲ蒙古ノ手ニ交付スルノ日ニ至ルマデハ、遊遊ヲ秘スベキヲ以テセリ。

鐵木眞、在位二十二年、壽六十六、起盤谷ニ葬ル、世祖至元二年ノ冬、追諡シテ、聖武皇帝ト稱シ、廟ヲ太祖ト號ス、鐵木眞、四子アリ、長ヲ朮赤ト曰ヒ、勇武ニシテ善ク戰フ、二ヲ察哈臺ト曰ヒ、性愼密ニシテ衆ノ畏服スル所ト爲ル、三ヲ窩濶臺ト曰ヒ、四ヲ拖雷ト曰フ、窩濶臺嗣キ立テ、是レチ太宗ト爲ス。

太宗、成吉思可汗ノ遺志ヲ奉シ、政略ト兵力トヲ並用シ、好チ宋ニ通シ、金ト同盟ノ患ヲ除キ、遂ニ金ヲ滅ボス、大弟拖雷ノ子、世祖忽必烈ニ至リテ、宋ヲ滅ボシ、支那全國ヲ經略セリ。
初メ鐵木眞ノ驍將哲伯及ヒ速不臺ハ、諸國ノ諸公ヲ破リテ、歸路ニ就キ、露西亞地方ノ事情ヲ具狀セリ、是ニ於テ鐵木眞、征西ノ策ヲ定メ、朮赤ヲ以テ征西都督ト爲セシガ、朮赤親モナクシテ、鐵木眞モ亦尋テ崩セ、カ故ニ、露國ハ二百年間、東縛ノ禍ヲ以テ數年ノ後ニ延ブルヲ得、然レ且千二百三十七年、及ブ、竟ニ蒙古ニ屈服セテ

第六章

鐵木眞ノ法律及兵制

所謂善國策力

鐵木眞、政柄ヲ掌握スルノ初メニ當リテ、之レカ法律ヲ制定セリ、其法律タル、專ラ仁義道德ヲ主トシ、人民ノ生命及ヒ資産ヲ保護シテ、社會ノ弊風ヲ匡正シ、威權ノ強盛ヲ致セリ、亦政府ノ權力ト審判ノ公平トヲ以テ、刑罰ヲ省キ、暴惡ヲ防キ、由テ以テ未開蕃民ノ騷擾禍亂ノ一大原因タル遺恨復讐ノ念ヲ斷ダシ、各々汗コ心服シテ離叛スルコトナカラシメタリ。

鐵木眞ハ從來竊古人ノ積弊タル、偷盜強奪姦淫若クハ暴行ノ如キ諸罪惡ヲ懲罰センカ爲ニ、之レカ刑律ヲ設ケタリ、即チ偷盜著ルシキモノ例セハ馬匹駱駝等ヲ竊ムモノハ死刑ニ處シ、小盜ニシテ盜品三倍——或ハ九倍云フ——ノ價ヲ償ヒ得ザルモノハ管刑ニ處シ、杖七十乃至七百ヲ加フ、又私姦ヲ處スルコト死刑ヲ以テシ、姦夫ヲ現行ノ場所ニ於テ誦

フルキハ、之ヲ殺スノ權利ヲ與ヘタリ、又間諜詐僞及ヒ妖術ヲ以テ他人ヲ害スルモノ、放蕩無賴ニシテ天理ニ悖レル快樂ヲ縱ニシ、其證據ノ發露セルモノ、賄賂ヲ貪ルモノハ皆死刑ニ處セリ、又裁判ニ就キテ之ヲ云ヘハ明確ナル證據アルカ、或ハ罪犯者自ラ供白スルニ非ザレハ、裁斷スルコトナク、若シ罪ヲ掩ハントスルモノアルキハ、之ヲ拷問ニ附セリ、要スルニ鐵木眞ノ蕃民ヲ統御シ、内治ヲ整理スルヤ、事々物々秩序アラザルハナク、處置公平ヲ主トシ、人民ヲ保護スルヲ以テ急務トシ、各道諸府ノ警備嚴肅ナルカ爲ニ、橫恣暴戾ノ徒漸ク其跡ヲ歛メ、旅客商賈自由ニ往來スルコトヲ得テ、從來ノ戒心顧慮ヲ免レタリ、其他貿易ヲ便利ニシ、分隊ヲ各道ニ屯駐シ、以テ往來ノ警察ヲ擔任セシムルカ如キ、其注意周到ニシテ、遺ス所ナキヲ見ル。

鐵木眞、又善ク心ヲ兵制ニ用ヒ、游牧ノ人民ヲシテ各々兵役ヲ負擔シ、幼時ヨリ武藝ヲ練習シ、之ヲ以テ精銳ノ兵ヲ編制シ、尙武ノ人民ヲラシメ

且ツ部下ノ諸將ニ授ケルニ攻城野取ノ良法ヲ以テセリ其才略ノ傑出亦實ニ想見スルニ足ル

鐵木眞ノ號令タル其左右ニ侍セル傳令使之ヲ方夫長及ヒ各種民ノ酋長ニ傳ヘ之ヨリ部下ニ達セシム而シテ諸將ニ命シ他ノ士卒ヲ引見スルヲ嚴禁セリ又長官ノ命ニ背クモノヲハ之ヲ嚴罰ニ處セリ鐵木眞常ニ戒メテ曰ク——縱ヒ十萬ノ兵ニ將タルモ君命ヲ奉セザルモノハ刑罰ヲ加ヘ或ハ死ヲ賜フベシ——ト又將校一地ノ守護ヲ任スルモノハ裁可ヲ得ザレハ他ヲ援フカ爲メナルモ敢テ任所ヲ離ルハテ許サズ亦他ノ援ヲ受クルヲ禁シ若シ此法例ニ違フモノアルハ死刑ニ處セリ

出師及ヒ交戦ニ際シテハ諸軍ヲ監査シ兵器及ヒ其他行兵用品ヲ檢シ怠慢ヲ罰シ良兵若シ弱スルハ救恤ヲ加フルヲアレバ將校ハ縱令ヒ窮スルモ君恩ヲ仰クノ外他ノ救恤ヲ受クルヲ得ズ

武器ハ弓矢斧槍等ニテ別々鐵棒ヲ帶フルモノアリ其他兵士ハ各々

鐵針糸及ヒ篩等ヲ具セリ兵士ニシテ裝具ノ整頓セルモノハ稍々曲レル劍ヲ帶ビ胃ハ革ニテ鐵條ヲ施シ又精兵ハ鐵胃ヲ用ヒシモノアリ騎兵ハ駿馬ヲ用ヒ分テ輕裝重裝ノ二ト爲セリ輕裝騎兵ハ先鋒ニ當リ弓矢ヲ連射シ敵ノ隊伍ヲ乱シテ我重裝騎兵ノ馳作ニ便ニシ若シハ敵兵ヲ追躡ス

出師ニ當リテ武器ノ外ニ小形ノ帳幕皮袋二個及ヒ鍋等ヲ携ヘ皮袋ハ飲水及ヒ乾酪ヲ貯ヘルカ爲ニシ其出陣中稍閑暇アレハ鍋ヲ用ヒテ肉菜等ヲ煮ルモ若シ行軍急ナルハ此乾酪ヲ以テ食料ト爲セリ

蒙古人城寨攻圍ノ方法ハ希臘人若シハ羅馬人ニ異ナルヲナシ妄ニ敵ノ物件ヲ掠奪スルヲ禁シ之ヲ犯スモノハ死刑ニ處セリ但シ其抄掠物件ニ至リテハ均一ニ之ヲ兵士ニ分配シ其幾分ヲ以テ抄掠稅ト爲シ汗ニ納ムルノミ蒙古人及ヒ其屬下ノ游牧民ハ族籍武士ニシテ其壯丁ハ皆之ヲ採用シテ兵士ト爲セリ是レ鐵木眞ノ蒙古人ヲ以テ隸僕ト爲ス

「ヲ禁セシ所以ナリ、鉄木眞ハ、兵士ヲ養フニ、資財ヲ費ス「ナシ、而シテ其
兵士ハ、管ニ汗ヨリ俸給ヲ受クル「ナキ、ノミナラズ、却テ馬匹及ヒ其他
ノ家畜及ヒ獸毛等ヲ以テ、年貢ヲ納メ、縦令ヒ戰地ニ赴クモ、若クハ敗獵
ニ赴クモ、其貢稅ヲ免ル、「「ナント云フ」

第七章

鐵木眞ノ行政及政略

鐵木眞、又善ク政治「ナリ、才ニ長シ、國家ノ基礎ヲ鞏固ニシ、威力ノ雄大ヲ圖
レリ、其行政ノ大休、鉄木眞之ヲ其子ニ委任セシメ、亦ハ汗ノ私産ヲ
管理シ、察合臺ハ、裁判及ヒ詞訟ノ審理ニ任シ、——鉄木眞、察合臺ノ天性
公平無私ニシテ、思想緻密ナルヲ知リ、之レニ法制施行ノ監察ヲ任ス、管

時、法制ノ整理ヲ得タルモ、ハ、實ニ察合臺ノ勳功ニ由ル、又財政ヲ掌ル、
而シテ拖雷ハ、軍事ヲ督セリ、公會長、諸將及ヒ宰相、卿「デワン（議院）ノ議定
官、總帥大夫等ノ職掌權限タル、今日盡ク之ヲ審ニスル「ト能ハズト雖、
其職制秩然トシテ備ハリシ「ト疑フベカラズ、——其他參謀本部、驛遞ノ
監督、戰時死傷ノ護救等、政務ノ種類ニ從ヒ、官職ノ設ケ極メテ多カリシ
ト云フ」

明君賢將能以上
實爲問者必成大
功此兵之要三平
解特而動也成官
思汗得此實矣

今日國善活用
鐵木眞之術者

鐵木眞、最モ用間ノ術ニ長ズ、其將ニ兵ヲ起サントスルヤ、必ズ先ツ敵ノ
内情ト、其兵備如何トヲ探偵シ、勉メテ彼ト密交シ、彼ノ部下ニ於テ、若シ
不服ノモノアルハ、餌ヲ以テ之ヲ我ニ誘致シ、官位ヲ授ケテ之ヲ寵
遇セリ、其戰ヲ開クノ前ニ臨ミテ、書ヲ敵國ノ君主ニ贈リ、其降服臣從ヲ
勸諭ス、其文簡ナリト雖、巧ニ神明ノ保佑ニ托シ、人ヲシテ畏怖尊敬ノ
念ヲ發セシム、故ニ鐵木眞ニ臣服シ、納貢ヲ諾スルモノハ、結約シテ、人質
ヲ遣リ、國中民戸ノ檢査ヲ許シ、州部ノ政事ヲ以テ、蒙古ノ吏員ニ委シ、國

産ハ十分ノ一家畜ハ百毎ニ一頭ヲ以テ貢税ニ充テ人民ハ十人毎ニ一人ヲ以テ公役ヲ負擔セシム

鐵木真ヲ用兵ノ術ナル開戦ノ初メ兵士ヲ分派シテ敵兵ヲ攻撃シ彼ヲシテ惶惑措ク所ヲ失シ其端倪ヲ知ラサラシム或ハ敵兵ヲノ誘亂セシムルノ策ヲ用ヒ敵ニシテ抗争セザレハ益々内地ニ長驅シテ百物ヲ破毀シ家畜ヲ掠奪シ住民ヲ殺戮シ敵ノ壘寨及ヒ城内ノ屯兵ニ當ラシメ以テ不虞ニ備ヘタリ而シテ前衛及ヒ側面ノ分遣隊ハ劫掠ヲ爲スナク專ラ斥候警衛ニ任セリ

鐵木真ノ行政及政略
鐵木真ノ行政及政略
鐵木真ノ行政及政略

堅城ヲ攻ムルニ當リテハ先ツ其近地ヲ蹂躪シ以テ城兵ノ糧道ヲ絶テ又敵出テ戦ントスル時ハ之ヲ誘殺シ以テ城兵防禦ノ勢ヲ殺クノ策ニ出テタリ後ニ壘寨ヲ城ノ周圍ニ築シ俘虜若クハ土民ヲ役レテ其工事ニ當ラシメ已レハ力ヲ吝ミ之ヲ節スルニ汲々タリ

鐵木真ハ支那及ヒ波斯ニ於テ老練ノ建築家ヲ得當時著名ナル軍用器

械ヲ造ラシメ其城寨ヲ毀ツヤ水火ノ力ヲ並用セリ蒙古人ハ石脂油希臘火、火箭等ノ用法ニ通シ以テ敵ノ館舍ヲ燒キ又水利ニ由リ之ヲ放決シテ城寨ニ灌クノ術ニ達シ並ニ抗穴及ヒ墜道ヲ作レリ

敵兵ノ來リ侵スヤ攻圍掠奪及ヒ牧畜等ノ爲ニ散布セル分隊忽チ集合聯結シテ直ニ一軍ヲ倣シ其軍ハ一般ニ騎兵ヨリ成リ前衛及ヒ斥候ハ皆精銳ノ兵タリ蒙古人敵ヲ滅ボスニ當リテ專ラ奇計ヲ用ヒ兵力ニ頼ルニ甚ク稀ナリ若シ敵兵多ク當ルベカラザルヲ見レハ退キテ離間ノ策ヲ運ラシ其戰ヲ交ユルニハ專ラ敵ヲ圍繞スルヲ勉メ敵兵剛勇ニシテ動容易ニ抜クベカラザルヲ見レハ伴リ退キテ之ヲ我軍ニ誘ヒ其接近スルヲ俟テ矢石ヲ亂射シ敵ノ死傷多キカ若クハ隊伍ノ紊ルヲ見レハ忽チ方略ヲ變シ進撃シテ遂ニ之ヲ破レリ又或ハ故ヲ退キ敵兵ヲシテ追擊セシメ正奇變化進退出沒鬼神ノ測ルベカラザルカ如ク風雨ノ俄ニ至ルカ如ク其剛ク拔ルヲ俟テ輕裝ノ兵ヲシテ特ニ備ケル

所ノ健馬ニ換ヘシメ、或ハ突戰シ、或ハ側面ニ延キテ、敵兵ヲ圍ミ、矢石ヲ
 亂射シテ漸次ニ之ニ迫リ、竟ニ短兵接戰ニ及ヒテ其戰局ヲ結ブニ至ル
 〔チ察シ、諸兵各々信號ヲ用ヒ、運動極メテ徑捷ナリ、將官ハ隊伍ニ在テ戰況
 之ヲ死刑ニ處セリ……〕

嗚呼、鐵木眞、成吉思汗ノ韃靼人、民ヲ打テ、一彈丸ト做シ、游牧人民ヲ鍊
 リテ、一團體ト爲シ、帝國ヲ建立シ、一世ヲ統治シタル所以ノモノハ、實ニ
 善ク、法律制度ヲ活用シタルニ由ル、而シテ其經略迅速活潑ニシテ、其戰
 功鴻略廣大無邊ナルモノハ、實ニ善ク、士ヲ養ヒ、武ヲ鍊リ、精銳ナル兵制
 ヲ編成シタルニ由ル、然レ、臣韃靼ヲ統ベ、支那ヲ吞ミ、中央亞細亞ヲ捲キ
 光威ヲ宇内ニ輝カセタル所以ノモノハ、獨リ法律兵制ノミニ非ズ、他ニ
 一大基礎ノアルアリ、何ツヤ、曰ク善ク其人ヲ用ヒタルニアリ、鐵木眞モ
 亦自ラ之ヲ知レリ故ニ曰ク、——現時國勢大ニ振ヒ、天下震動シタル所
 以ノモノハ、全ク人才ヲ撰ブノ妙ヲ得タルニアリ、後世若シ施政ニ純兵

ニ適當ノ人才ヲ撰ブ、一ヲ知ラ、ハ帝國ノ隆盛果シテ千載ノ久シキニ傳
 フベシ、——ト又鐵木眞ガ子孫ニ貽シタル政事及ヒ宗教ニ關スル法例
 ノ第四ニ曰ク、

成吉思汗ハ、其後世子孫ニ戒メ、徒ニ位號ヲ飾ルヲ禁シ、唯タ汗ト
 稱セシム、又臣民ニ接スル談論ノ間ニ於テ、汗ヲ指稱スルニ實名ヲ以
 テセシム、彼レ此慣習ヲ起セシ所以ノモノハ、蓋シ後世子孫、諂佞ヲ愛
 スルノ弊風ニ陥ランヲ愛フレハナリ、彼レ謂ラク位號ヲ飾レハ、自
 ラ驕奢ニ耽リ、政治腐壞シ、竟ニ斃竇百出シテ底止スベカラサルノ極
 ニ陥ラン、花刺子模ノ蘇爾丹ノ亡ビタルハ、即チ其覆轍ニシテ、彼レハ

〔地上之神影〕ノ爵ヲ以テ自ラ誇レリト云フ、
 嗚呼、鐵木眞、成吉思汗ノ規模ノ悠遠ナル、膽略ノ雄大ナル、豈前古ヲ凌
 キ來今ヲ曠シクスルモノニ非ズヤ、
 擊破列翁ノ兵ヲ用ヒ、武ヲ輝カシ、歐洲ヲ俯捲シタルヤ、雄ハ則チ雄ナリ

ト雖厄、生前身ヲ瘴烟蠻雨ノ一孤島ニ寄セテ、無限ノ悲慨ヲ遺シタルニ非ズヤ、該撒兒ノ武略文勳、一世ヲ駕御シタルヤ、智ハ則チ智ナリト雖厄一壯士ノ爲ニ暗殺セラレ、憐レ墓ナキ最後ヲ遂ケタルニ非ズヤ、歷山王ノ歐亞ヲ併吞シ、宇内ヲ震盪シタルヤ、烈ハ則チ烈ナリト雖厄、其死未ダ幾ナラズシテ、其大帝國ハ四分五裂シタルニ非ズヤ、然ルニ鐵木眞成吉思、可汗ノ事業タル、拿破侖、該撒兒、歷山王ノ上ニ出テ、其兵略、政略、智謀、膽力亦遠ク之レニ超エ、帝國ノ基礎、鞏固ニシテ、容易ニ破壊セザリシナリ、然ラハ、則チ鐵木眞成吉思、可汗ハ、世界豪傑ノ中ニ於テ、殆ント他ニ其比ヲ見サルモノト、謂ハザルベカラズ。

鐵木眞ガ政事及ヒ宗教ニ關スル法例ヲ子孫ニ貽シタルモノ、概テ左ノ如シ

(第一)——天地ヲ創造シタル一ノ上帝ヲ畏敬スル事、上帝ハ即チ生死禍福ヲ與ヘ、我カ祈ル所ヲ取捨スルモノナリ、一旦苟モ上帝ノ唯一

ニシテ二ナキヲ知ラバ、宗派ヲ容忍シ、事物知覺ノ向フ所ニ任スベシ

(第二)——回々教ノ大僧正、哥蘭經文ヲ誦スルモノ、回々教僧、遺骸ヲ洗淨スルモノ、信神祈念ノ聞エアルモノ、司法官、醫員、或ハ乞丐等ハ租稅、勞役及ビ公衆ノ爲メニスル義務ヲ免ル、事

(第三)——諸侯將軍ハ「クリルター」——議會——ニ於テ撰立セラレ、ニ非ザレハ、汗ト爲ルヲ得ズ、若シ此禁ヲ犯スモノハ、死刑ニ處セラルベシ、公撰ニ由テ汗タルモノハ、成吉思可汗ノ一族中、教育最モ全ク、智識最モ博ク、才能最モ著シキ超群ノ人ニ限ルベシ、若シ法度ノ大本ニ違フカ爲メニ、汗ノ尊位ヲ剝カル、モノハ、其親戚及扈從ヲ併セテ、之ヲ獄ニ下スベシ、但シ其一族ヲ幽囚スル所以ノモノハ、一コハ彼等此ノ不幸ナルヲ釀成シタルノ罪ヲ罰シ、一コハ彼等來恨ヲ報セントスルノ念ヲ絶ツカ爲メナリ、而シテ汗ノ位ヲ失ヒタ

ルモノ、及び之レト艱苦ヲ同シクシタルモノ、必ズ衣食ヲ給シ
普通ノ物件ハ、決シテ欠乏スルコトナカラシム、然レモ他ヨリ此等ノ
國賊ト交通スルコト許サズ

〔第四〕——ハ以上ニ掲ケタルヲ以テ、此ニ贅セズ

〔第五〕——蒙古ニ於テ、固有ノ文字ナキカ故ニ、成吉思汗ハ、畏吾兒ノ
仮名ヲ取り、兒童ヲシテ之ヲ學ハシメ、彼ノ「ヤサ」又ハ「ウルグ、ヤサ」ト
題セル律令ヲ蒙古語ニテ編輯セシメタリ、此律令ヲ銅板ニ鑄刻シ
平時ハ之レヲ秘藏シ、汗即位ノ日、又其他ノ大事アル時ハ、諸侯相會
同シテ「ヤサ」ヲ閱シ、事ヲ裁決セリ、——此慣例ハ、今尙ホ波斯ニ存セ
ル

鐵木真、律令中、川兵上ニ關シ、交戰及ヒ圍城ノ法ヲ明示スルモノアリ、
而シテ汗ノ子孫、長ク「ヤサ」律令ヲ遵奉シテ止マザルコト、猶ホ回回教民ノ
哥爾經文ニ於ケルカ如ク、且ツ時日ヲ定メ、命シテ之ヲ群衆中ニ朗讀

セシムト云フ

第八章

鐵木真ノ人才網羅

鐵木真、初メ蒙古ニアリ、畏爾クル小部落ヲ以テ、四面群衆ノ間ニ介立シ
百戰以テ其勇ヲ挫ジキ、千策以テ其膽ヲ奪ヒ、或ハ之ヲ籠絡シ、或ハ之ヲ
驅逐シ、遂ニ韃靼ヲ統合シテ以テ霸業ヲ建テ、更ニ進ミテ中央亞細亞ノ
野ニ横行シ、一草一木モ其威ニ靡カザルハナク、歐洲ノ東南部ヲ略シ、鴻
功偉烈、峻略絶群、前古ニ其比ヲ視ズ、故ニ其奇才ヲ網羅シ、異能ヲ収攬ス
ルコト、亦最モ多シ、故ニ今マ更ニ之ヲ史傳ニ徵シ、世人ヲシテ其一斑ヲ知
ラシムト云フ

江海ノ量、亦大ナリ然レハ、江海ノ量ハ、時アリテ盡ク、唯ク天地ノ量ハ、浩々トシテ無邊ナリ、濶々トシテ無限ナリ、鐵木眞ハ、其レ天地ノ量ナリ、敷、開國以來、用ヒシ所ノ人物、雲ノ如ク雨ノ如ク、猛士謀臣、勝テテ數フベカラズ、第一蒙古本部ノ人アリ、第二漢人アリ、第三江南人——中國宋金ノ人——アリ、第四唐兀人アリ、第五汪古人アリ、第六畏兀吾人アリ、第七柯耳魯人アリ、第八回鶻人アリ、第九烏思藏人アリ、第十高昌人アリ、第十一青海人アリ、第十二康里人アリ、第十三阿速人アリ、第十四欽察人アリ、第十五回々人——波斯人ヲ指ス——アリ、第十六大食人——亞刺比亞人——アリ、第十七尼波羅人アリ、第十八猶太人アリ、第十九佛教——五印度西番土伯特——人アリ、第二十木速蠻教——西人ノ所謂ル木速魯蠻、即チ回回宗——アリ、第二十一巴里可溫教——耶穌教ヲ指ス——アリ、五洲ノ人物、器ゲテ以テ之ヲ我が心符ト爲シ、我が股肱ト爲シ、我が腹心ト爲シ、其才ヲ用ヒ、其能ヲ盡サシメ、其力ヲ展ヘシメザルハナシ、嗚呼其

規模ノ大ナレ、亦宜ナラズヤ

鐵木眞、耶律楚材ヲ亡國ノ餘ニ擧ケテ、直ニ之ヲ宰相ニ任シ、其ニ經綸ノ策ヲ講ゼリ

耶律楚材ハ、遼ノ東丹王——渤海國都扶餘城、黑龍江畔ニアリ、即チ遼代ノ東丹國ナリ——主突欲八世ノ孫ニシテ、金ノ尙書右丞履ノ子ナリ、鐵木眞、支那ヲ經略スルニ及ヒテ、遼ノ宗室ヲ訪ヒ、楚材ヲ得、其人ト爲リ、ヲ知リ、命シテ左右ニ置キ、以テ其參謀メラシメタリ、楚材、天資英邁、博シク群書ヲ究メ、天文、地理、律曆、釋老、醫卜等、悉ク之ヲ知ラザルハナシ、夏人常八斤ナルモノ、能ク弓ヲ造ルヲ以テ、鐵木眞ニ知ラル、告ゲテ曰ク、——國家方ニ武ヲ用ユ、耶律楚材ハ、儒者ナリ、今日果ノ何ノ用ニ供スル乎——ト楚材曰ク、——弓ヲ治ムルモノハ、尙ホ弓匠ヲ用ユ、天下ヲ治ムルモノハ、豈天下ヲ治ムルノ匠ヲ用ヒザルベケンヤ——ト鐵木眞、之ヲ聞キ大ニ喜ビ、寵遇甚ク厚シ、楚材、風岸孤峭、鬚鬢蒼々、如ク顔

色嚴毅、容貌淵雅、語論明斷、人ノ意表ニ出ズ、鐵木眞、遠征スル毎、必ず先ツ楚材ヲ從ヒ、星位ヲ召シテ、其得失ヲ言ハシメ、亦其占筮スル所、信ニ然ルヤ否ヤヲ審査スルニ、羊支ヲ灼カシメ、以テ自家政略ノ具ト爲セリ、蓋シ羊支ヲ灼クハ、中央亞細亞人民ノ筮法ニシテ、今日尙ホ存セリト云フニ

鐵木眞、楚材ヲ以テ、窩濶臺ニ語テ曰ク、此人ハ天ハ我家ニ賜フモノナリ、爾後軍國ノ經營、悉ク之ニ任スベシ、ト窩濶臺立テ、亦楚材ニ信任ス、楚材身ヲ以テ天下ノ大事ニ當リ、毎ニ國家ノ利害、生民ノ休戚ヲ述ベ、辭色懇切ナリ、窩濶臺嘗テ曰ク、汝又百姓ノ爲ニ哭スル耶、ト楚材格言アリ、曰ク、與一利、不若除一害、生一事、不若滅一事、平生妄ニ言笑セズ、其人ニ接スルヤ、温恭ノ色、言外ニ溢ル、太宗ノ三年、始テ中書省ヲ設ケ、從官ノ名ヲ改ム、楚材中書令ト爲ル、其法律制度ノ改革、創定、楚材ノ籌畫スル所ノモノ、甚ク多シ、鐵木眞、窩濶臺及

ヒ忽必烈ノ經略事業、耶律楚材與リテ、最モ力アリ、亦東洋ノ一大偉人ナラズヤ

郭寶石、金ノ將、華州鄭縣ノ人ニシテ、唐ノ中書令郭子儀ノ後裔ナリ、ト降虜ノ中ヨリ擢シテ、之ヲ將帥ニ任シ、共ニ中原ヲ經略スルノ策ヲ講シ、奄木海、姓ハ八剌忽、解氏、蒙古都ノ人ナリ、ト擧グテ、隨路砲手達魯花赤ト爲シ、砲政ヲ掌ラシメ、タルカ如キ、善ク人ヲ識リ、善ク人ヲ用ヒ、善ク人ヲ任ズルノ規模、如何ヲ推想スルニ足レリ、太宗窩濶臺、善ク其遺訓ヲ奉シテ、遠人ヲ用ヒタリ、西曆千二百四十一年、月祖伯ノ汗、拔都ボルカル、即チ波蘭、征伐ノ日、嘗テ蒙古ニ事ヒタル英國人ヲ使節トシテ、ボルカルノ王ニ降服ヲ勸メシトアリ、世祖忽必烈ニ至リテ、益々其規模ヲ擴張シ、奇才ヲ網羅スル、一層祖宗ノ上ニ出デタリ、阿老瓦丁、姓ハ回々氏、西域木發里ノ人ナリ、ト亦思馬因、姓ハ回回氏、西域旭烈ノ人ナリ、ト嘗テ回回砲手總督ト爲シ、襄

陽ノ役、是ヲ以テ速ニ其功ヲ奏セリ、塔塔統阿——畏兀人——ヲ以テ會
 計印章ノ事ヲ掌ラシメ、那麻——姓ハ伽乃氏、北印度伽彌業兒ノ人ナリ
 ——ヲ以テ國帥ト爲シ、天下ノ釋教ヲ掌ラシメ、愛薛——西域弗林ノ人、
 即チ猶太國ナリ——ヲ以テ星曆醫藥ノ事ヲ掌ラシメ、又回々司天監ノ
 官屬ヲ設ルニ及ビテ、回回人札馬刺丁——此人ハ西曆千二百七十一年
 始テ元ニ事フ——ヲ以テ提點ト爲シ、迦魯納答思——畏兀人——ノ印
 度及ヒ諸國ノ語ニ通スルヲ以テ、司賓ノ官ト爲シ、外國表章ノ事ヲ掌リ、
 兼ネテ畏吾字ヲ以テ西天西番ノ經論ヲ譯セシメ、伊國人マルコポロヲ
 用ヒ、使節トシテ之ヲ羅馬法皇ノ許ニ遣ハセシカ如キ、苟モ英國雄略、天
 地照シ地ヲ照シ、曠量偉度、天ヲ吞ミ地ヲ吞ムモノニ非ザルヨリハ、安ン
 ヅ此ノ如クナルトチ得ンヤ、嗚呼其規模ノ洪大ナル、驚クニ堪マリ、
 マルコポロ氏ハ、父ニコポロト共ニ亞細亞ヲ橫截シテ支那ニ達シ
 忽必烈ノ謀臣ト爲リテ支那ニ滞在スルト二十年、嘗テ忽必烈ノ皇女

チ波斯ニ嫁セシマルニ當リテ、マルコポロ父子ニ命シテ航海ノ事ヲ
 管セシメ、廣東ヨリ印度海ヲ越エテ波斯ニ達セリ、マルコポロハ其使
 命ヲ終リ海上ヨリ本國威尼斯ニ還レリト云フ、
 マルコポロノ支那ニ在ルヤ、常ニ元ノ衣服ヲ着シ、元ノ言語ヲ用ヒ、其
 他ノ風俗亦皆元人ニ倣ヒシガ、忽必烈ノ寵眷特ニ厚ク、官封疆大吏ニ
 登ル、マルコポロ屬々各地ヲ巡回シタル記録ニ據ルニ、忽必烈ガ意
 チ經國安民ノ事ニ注ギタルヲ知ルニ足ルモノアリ、其記録ニ曰ク、
 成吉思可汗ガ一族ノ封内例セハ、タフリス、撒馬爾罕、喀什喀爾及ヒ
 支那等ニ於テ、耶穌教徒ヲ視ル、甚ハ多ク、就中唐古特ノカンビ
 アント名クル都府ノ如キハ、宏壯美麗ニシテ、其住民多クハ、偶像崇
 拜ノ習体ナリ、其教法、此ノ如ク異教ナレド、更ニ宏大ナル耶穌教院
 三ヶ所アリ、
 又曰ク

又曰ク、
支那ノ南部ト北部ト往來ノ便ヲ計リ、大溝ヲ通整シ、海ニ依ラズ、

元政府有本有信
有威

又曰ク、
支那ノ南部ト北部ト往來ノ便ヲ計リ、大溝ヲ通整シ、海ニ依ラズ、
テ商品ヲ運搬スルヲ得セシメ、又國內ノ大道ニハ驛遞ヲ設ケ、且
ツ紙幣ヲ發行セシニ、支那地方殆ント通用セサル所ナシ、
又曰ク、

國內各地ニ委員ヲ派シ、民情ヲ觀察セシメ、若シ五穀ノ登ラズ、家畜
ノ疫病若クハ禍災ヲ被ル地方アレハ、當ニ其地方ヨリ其租稅ヲ徵
収セサルノミナラズ、却テ許多ノ恩恤救助ヲ與ヘタリ、
忽必烈ノ心ヲ人民ノ生活ニ用ヒシヲ尋常ニ非ザルヲ知ルセシ、亦之
レニ由テ、政府ノ人民ヨリ信用ト德望トヲ得タルヲ察スルニ足ル
ベシ、マルコポロモ亦能ク啓沃ノ益ヲ盡シタル人ナラン歟、
蓋シ鐵木眞ハ、宇内ヲ混一シ、世界ヲ經略スルノ志アリ、シテ故ニ其人ヲ

純以術數籠絡人々
去使人不知其端
倪

用ヒシトモ亦一邊ニ偏シ、一局ニ拘ラザリシナリ、亦其ノ宗教ノ如キモ、
百宗同一ノ保護ヲ與ヘテ、毫モ偏私スル所ナカリシナリ、特ニ鐵木眞ノ
兵隊ヲ編制セシ時ニ、一種民ヲ偏用セス、國中無數ノ種民ヲ混同シテ、各
隊ニ編成セシメタリ、其編兵ノ事ニ就キテ之ヲ云ヘハ、各十戸ヨリ各一
人或ハ二人ヲ募ルヲ例ト爲シ、百夫千夫、万夫隊共ニ各人種ヨリ編制セ
リ、又善ク憎侶ノ民心ヲ籠絡シテ、頗ル名望アルヲ知り、親疎厚薄ノ別ヲ
爲サズ、皆同一ニ之ヲ保護シタリ、鐵木眞ノ人ヲ用ユルニ妙ヲ得タルモ
、實ニ後世政事家ノ模範ト爲スニ足レリ、

鐵木眞ノ遺訓ニ曰ク

汗ニ撰立セラル、モノハ、一族中、最モ博識多才ノ人ナルベシ
ト然ルニ後來此堂々タル宇内ノ大帝國ノ四分五裂セテ、各自ニ獨立シ、
以テ大汗ノ統轄ヲ離レタルモノハ、其子孫、恬熙怠惰、文武ノ政共ニ廢弛
シタルニ賴ルト離田、抑モ亦善ク人ヲ識リ、善ク人ヲ用ヒ、善ク人ヲ任シ、

善ク其才ヲ盡サシメ、善ク其能ヲ展ヘシメ、善ク其略ヲ逞クスルヲ得
セシムルノ道ヲ誤リタルニ由ルノミ、嗚呼國家ノ盛衰興亡一〇人オノ
如何ニアリ、區々タル制度、瑣々タル空文、虛名豈活機ヲ収スルニ足ンヤ

第九章

鐵木眞ノ逸事及雜聞

鐵木眞ハ、政治ノ才ニ長シ、其侵攻ヲ逞クシ、吞嚙ヲ謀ルニ當リテハ、政治
上各種ノ權謀ヲ用ヒ、特ニ人種ヲ混同シ、協和セテ、其團結復讐ノ患ヲ杜
絶スルニ勉メ、故ニ當時其征服セル人民、甚ク混滑シ、今世ニ至リテ
ハ、中央亞細亞北部ノ府名ノ如キ、僅ニ奇爾稽思、土耳其曼等人種ノ稱號
ニ於テ其名ヲ存スルノミ、其雄圖宏量亦以テ想見スルニ足ルベシ

鐵木眞ハ、渺漫タル曠野ニ於テ、從來慣例トスル所ノ款待ヲ固守シテ止
マザラントテ、欲シ特ニ法例ヲ設ケ、申若シ其食ヲ分ツコト肯ンセザレ
ハ、乙ノ目前ニ於テ、之ヲ食スルコト禁シ、又許可ヲ乞ハズシテ、獨食スル
モノアルトハ、其食ヲ奪フコト問ハサリシ、蓋シ鐵木眞ガ此ノ如キ令ヲ
發シタル者ハ、貧人飲食ニ乏シク、飢渴ニ苦ムニ際シテ、富人ヲシテ、之レ
ニ食ヲ與ヘシメンガ爲メナリト知ラル、現時奇爾稽思人ノ間ニモ亦此
ノ例ヲ存セリト云フ

鐵木眞ハ、各種民ノ每一千戸ニ就キテ、飽麗ナル貴女、或ハ穢見アル女子
各一人ヲ撰ビテ、年首ニ於テ、各種民ノ酋長若クハ、万夫長ヲシテ、汗ニ謁
見セシムルノ例ヲ設ケ、其女子ヲ汗及ヒ其諸子ノ妻妾ニ擧テ、以テ各種
民ノ酋長ト相親ミヌリト云フ、蓋シ鐵木眞ガ此ノ如キ例ヲ設ケタル所
以ノモノハ、諸種民ノ心術如何ヲ察スル方略ヲ兼有スルモノナルベシ
鐵木眞、常ニ收攝ヲ以テ、其兵ヲ練レリ、故ニ其子孫ヲ戒ムルノ言ニ曰ク

一 敗績ハ、是レ王者ノ業ナリ——ト而シテ其敗績タル常ニ初冬ニ於
 タン、兵士ハ中軍右翼ノ三隊ニ分テ、將軍各々之ヲ指揮セリ、但シ將校ハ、
 妻妾ヲ携ヘルヲ許サル、諸兵運動スルニ當リテ、諸將野獸ノ頭數ト、之
 ヲ逐ヒ集メタル場所トヲ以テ、之ヲ汗ニ報シ、漸ク圍線ヲ縮窄スレハ、鐵
 木眞、妃嬪及ヒ其扈從ヲ率テ、線内ニ入り、先ツ其獸ヲ屠リ、已ニシテ退
 キ、特ニ線外ニ設ケル所ノ高臺ニ登リ、公侯將校以下士卒ノ游獵ヲ望見
 セリ——

鐵木眞、蒙古人ノ酒ヲ嗜ムヲ戒メテ曰ク——酒ヲ飲ムモ、一月三四日
 リ多カルベカラズ、若シ之ヲ節シテ一回トセバ、大ニ可ナリ、然レモ寧ロ
 之ヲ飲マザルノ愈レルニハ如カズ、然レモ此ノ如キ人アヲザルヲ憚ム
 ルノミ——ト——

鐵木眞ノ時、内外科醫術ヲ以テ、其名ヲ博シタルモノハ、テレングイトイ
 ト云ヘル人ナリ、此人ハ、初メ從軍醫ニ登用セラレ、汗及ヒ都紳ノ侍醫ニ

リシト云フ——テレングイトイハ加爾摸克、或ハ蒙古人種ノ血統ナル
 ベシト云フ——

鐵木眞、一日將校ノ品格ヲ論シテ曰ク——武勇イサタイニ優レルモノ
 アルヲ見ズ、彼レ山川ノ險阻ヲ冒スモ、之レニ屈撓セズ、饑ユルモ食ヲ求
 メズ、渴スルモ飲ヲ欲セズ、其耐忍力ノ剛壯ナル、眞ニ稱スルニ堪タリ、然
 レモ彼レ自ラ以爲ラク士卒皆之レニ堪ユベシト、是レ其大軍ニ將タル
 丁能ハザル所以ナリ——ト評シ得テ適切ナリト謂フベシ——

鐵木眞曰ク——善ク十人ニ長シタルモノハ、亦當ニ千人ニ長ク、百人
 ——ト名語ト謂フベシ——

成吉思ハ、尊號ナリ、武略絶倫、特ニ世ニ顯ハレ、汗位ニ上ルノ時、受ケル所
 ノ稱、コレテ猶ホ王中ノ王ト云フガ如シ——彼ノ唐ノ太宗隋ニ代リテ
 中原ヲ定一シ、武威ヲ四表ニ輝カシタル時ニ當リテ、突厥ノ汗等、太宗ニ
 尊號ヲ上リテ、天可汗ト稱シタルモ、亦之ト同シ、可汗トハ、北方君主ノ稱

コシテ猶ホ漢時ノ單于——單于トハ廣天ノ意ナリト云ネ——ト云フ
 カ如シ、
 史ニ曰ク——太祖深沈有大略、用兵如神、故能滅國四十、其勳績甚衆、史
 之記載不備惜哉——、太祖ノ事績元史及ヒ支那ノ書籍等、更ニ其精
 確明詳ナルヲ見ズ、露人及ヒ獨人ノ著ハシタル鐵木具ノ傳、稍々人意
 ヲ快クスルモノアリト雖、其人名國號等、若クハ鐵木具ノ世系、氣象
 等ニ至リテハ則チ、往々隔靴搔癢ノ憾アルヲ免レズ、
 宗室世系表ニ曰ク——元之世系、藏之金匱石室者、甚秘、外廷莫能知也
 ——ト其金匱石室ニ藏スル秘書ヲ讀キテ以テ之ヲ歐洲人士ノ紀載
 ニ徴シ、以テ其傳ヲ草スルハ、大快事ナルベシ、

第二篇

政事家——政治的社會

比君士斐兒德侯、埴士禮立ノ傳

第一章

埴士禮立ノ系統、生活及其氣象

比君士斐兒德侯、埴士禮立ハ第一流ノ政事家ニ非ズ、其人物ハ、俾士麥以
 下ニ位シ、而シテ其才幹ハ、彪的ト伯仲ノ間ニアリ、然レモ彼レ、豈平凡ノ政
 事家ナランヤ、

埴士禮立ガ叱咤縱橫、迂儒ヲ掌上ニ弄シ、論客ヲ議院ニ壓シ、眼中復シ、一
 人ヲ見ザルカ如キ時ニ於テハ、實ニ其才力絶倫、氣魄天ヲ衝ントスルノ
 概アルヲ見ル、——又鉄血翁、俾士麥ト、快心のノ事ヲ談シ、歐洲ノ平和ヲ
 維持スルニ苦心セラレタルカ、如キ時ニ於テハ、實ニ其術略一世ニ高シ、

眼光犀利、當ルベカラザルノ概アルヲ見ル、——又露相伍爾查格弗ト、智勇ヲ中原ニ争ヒ、容易ニ屈撓セザリシカ如キ時ニ於テハ、實ニ其膽氣雄大、一時ニ傑出スルノ概アルヲ見ル、——達士禮立ハ、宇宙獨歩ノ政事家ト稱スルヲ能ハザルヤ、固ヨリ論ナシト雖、凡、歐洲ノ局面ニ於テハ、亦、一個ノ大立者ナリト謂ハザルベカラズ、

比君士斐兒德侯 達士禮立ハ、其家系、歐洲人士ノ爲ニ輕侮セラレタル猶太族ヨリ出ツ、千四百年代ノ頃ニ當リテ、數世ノ祖、西班牙ヨリ返ハレテ、威尼斯ニ居リシガ、千七百四十五年、大父ノ時ニ至リテ、始メテ英國ニ移ル、父チアイザック、ヂスレリト稱シ、工師シヨージ、ハセツ井ヤノ女ヲ娶リテ四子ヲ生ム、長ハ女子ニシテ、サラト云ヒ、千八百二年十二月二日ヲ以テ生ル、次ハ即チ比君士斐兒德侯 達士禮立ニシテ、千八百四年十二月十一日ヲ以テ生ル、其次チアルフト云ヒ、千八百九年ヲ以テ生レ、其次チシエムスト云フ、千八百十三年ヲ生ル、千八百十七年、アイザック猶

太教ヲ脱セリ、由テ是歲七月三十一日、達士禮立ハホルボロンノセントアンドリー寺ニ於テ洗禮ヲ受ケ、一個ノ基督教信者ト爲ル、年甫メテ十二ナリ、

疾ハ祖父ノ名ヲ繼キテ、便雅民 達士禮立ト稱ス、初メ祖父十八歳ノ時、伊國威尼斯ヨリ英國ニ徙リテ商估ニ從事シ、巨万ノ富ヲ重キヨリ、父アイザックハ達士禮立ノ十二歳ノ時、キングスロイドニ住セシガ、後チブルームスバリーニ轉セシモ、千八百二十五年、復タバウキンガム、シアル州ノブラデンハム、ハウスニ移レリ、因テ達士禮立ハ、久シク其姓氏ノ名コブラデンハム、ハウスノ肩書ヲ有セリ、後チ夫人ヲ迎ヘルコ及ヒテ、ヒュイゲンデン、マールニ移ル、

千八百二十一年、達士禮立、一狀師ニ就キテ、代官事務ヲ習ヒシモ、其豪放不羈、區々トシテ法律ノ事務ナドニ離解スルヲ肯ンセズ、遂ニ之ヲ止メヨリ、

父アオザツク文藻ノオアリ「文學之奇」ト稱スル書ヲ著ハシ、聲譽ヲ博セリ、坪士禮立、幼ニシテ文章ニ嫻ヒ、心ヲ詞藻ニ凝ラシ、嘗テ怠ルヲナカリシカハ、文才大ニ進ミタリ、千八百二十六年「ピビアン、グレー」小説第一卷ヨリ三卷マデヲ著ハシ、翌年五卷マテ發刊シ、頗ル才名ヲ博シタリ、坪士禮立時ニ年二十四、千八百二十八年ニハ「カヒ、テレン、ボバニ」航海記ヲ著ハシ、翌千八百二十九年英京ヲ發シテ南歐ニ遊ビ、生京君士但丁堡、亞爾伯尼亞、亞里亞、埃及、西班牙等ヲ遊歴シ、名山大川ヲ跋渉シ、英雄ノ舊蹟ヲ吊シ、名都ヲ遺墟ヲ探リ、大ニ感發スル所アリシト云フ、千八百三十二年、歸國シ「ゼ、レボリ、ユニ、ヨナリ、イ、ユビツク」時一著ハシ、又「ゼ、ヤング、デ、エー、ク」及「ビ、コン、タリ、ニ、フレ、ミ、ン、グ」小説一著ハシ、千八百三十七年「アルロイ」小説一著ハシ、千八百三十七年「ヘンリ、エツク、テムプル」小説一著ハシ、翌年、又「ベ、ネ、ヤ、ア」小説一著ハシ、後チ又「コ、コン、グ、ス、ビ、シ、ビ、ル、ダ、ン、ク、レ、ツ、ド」

ノ三小説ヲ著ハセリ、此等ノ諸小説ハ、皆自ラ爲ニスル所アリテ作リシモノニシテ、或ハ貴族ノ醜行ヲ嘲リ、或ハ風俗人情ノ微ヲ穿テ、或ハ政府ノ腐敗ヲ罵リ、或ハ暗ト自己ノ主義政論ヲ發露スル等、所謂ル自己ノ發憤ヲ文字ニ描キ出シタルモノナリ、故ニ讀者ヲシテ、覺ニス、奇ト呼ビ快ト叫ハシメタリ、

其後チ坪士禮立ハ、姑ク筆ヲ文學社會ニ揮ハザリシカレ、其才氣ノ横溢スル處、深思ノ湧出スル處、政海ノ風雨交々至ル時ト雖、尙ホ其縁ヲ文學海ニ絶クシメザリキ、千八百七十年、五月「ロシア」小説一著ハシ、倫敦ノ紙價、爲ニ貴キヲ致セリ、後チ千八百八十一年ニ至リテ、エソヂミオン小説一著ハシ、坪士禮立時ニ年七十八、是レ侯ガ最後ノ著述ナリキ、

抑モ坪士禮立ノ、足ヲ政海ニ揚ケ、垂天ノ翼ヲ振ハントセシハ、實ニ南歐ノ漫遊ヲ畢リテ歸國セシ時ニアリ、千八百三十二年、坪士禮立、ウヰ、コ、ム

ノ候補ト爲リテ、選舉ヲ争ヒシカニ、前後二回共ニ失敗シタリ、千八百三十四年ニモ、亦失敗シタリ、百敗シテ百勇ヲ生シ、千跌シテ千策ヲ出スハ、政事家ナリ、培士禮立、豈二三ノ失敗ヲ以テ其志ヲ屈センヤ、千八百三十五年、ソノメルンヤット州、タウンントン區ノ候補者ト爲リ、復々選舉ヲ争ヒシガ、是レモ亦前ノ如ク失敗セシカバ、千八百三十七年ニハ、ウヰンヤドハム、レウヰンヤド夫妻ノ聲援ヲ藉リ、セント州、メイドストンノ候補者ト爲リ、始メテ漸ク當選スルヲ得タリ、培士禮立、功名ノ心、勅々トシテ噴火山ノ如ク、其撰擧ヲ争フ、前後五回コシテ、始メテ其志ヲ得、維克利女皇陛下ノ第一回議院ニ出席セリ、時ニ年三十四ナリ、其後千八百四十一年ニ至リ、シユウリスバリー區ノ候補者ト爲リ、當選セリ、培士禮立ノ始メテ内閣ニ入りタルハ、千八百五十三年コシテ、ロードテルビー卿ノ内閣ニ拔擢セラレテ、大藏總裁ト爲リ、兼テ下院ニ於ケル内閣黨ノ首領ナリ、然レモ是歲、内閣員ト共ニ其職ヲ辞シ、千八百五十八年

復タデルビー卿ノ内閣ニ入りテ同シク大藏總裁ト爲リシガ、翌年内閣員一同ト共ニ其職ヲ辞セリ、後千八百六十六年アルビー卿ノ内閣ヲ組織スルニ及ビテ、培士禮立復々入テ大藏總裁ト爲ル、之ヲ侯ガ第三回ノ内閣ト爲ス、

千八百六十八年、デルビー卿病ヲ以テ職ヲ辞セリ、女皇乃チ培士禮立ヲ迎ヘ、之ニ托スルニ内閣組織ノ任ヲ以テセリ、培士禮立、勅ヲ奉シ、三月五日、始メテ英國內閣総理大臣ト爲ル、時ニ年六十五、然レモ是歲十一月二日、議院開會ノ前ニ當リテ、培士禮立自ラウヰンヤドノ皇居ニ赴キ、辞表ヲ捧ゲタリ、抑モ新議院開場前、内閣ノ辞職スルノ例ハ、未ダ曾テ有ラザル所ナリ、培士禮立ニ次キテ、第一回ノ内閣ヲ組織セシハ、額拉特、斯頓ナリ、千八百七十四年三月、培士禮立復々入テ内閣ヲ組織ス、是ヲ侯ガ第二回ノ内閣ト爲ス、

千七百七十八年、培士禮立ハ東邦論ノ破裂ニ由テ外務大臣ソルズブリ

一、其隨ヒテ日耳曼ニ赴キ、伯林會議ニ臨ミタリ、翌千八百八十九年三月復タ其職ヲ辭セリ。

埴士禮立ハ、千八百三十九年故ウヰンロ公、レウヰニスノ寡婦ト結婚シ、之ヲ埴士禮立夫人ト爲ス、夫人時ニ年五十、才德兼備ナリ、埴士禮立年三十六、即チ夫人ノ侯ヨリ長ゼルコト十四歳ナリキ、千八百七十五年埴士禮立比君士斐兒、德侯ニ封セラレ、千八百八十一年四月十九日ヲ以テ薨ス、年七十八ナリ。

埴士禮立ノ家ハ、元ト是レ富裕ナリキ、然レモ埴士禮立、性放棄ニシテ、華奢自ラ喜ビ、殆ント其家産ヲ擧ケテ、之ヲ蕩盡セリ、而シテ其夫人多ク財產ヲ有セシカバ、其財産ヲ器ゲテ、之ヲ侯ノ有ニ歸シタリ、是レモ亦幾ナラズシテ、之ヲ失ヒタリシガ、其後チアリセス、ウヰリヤムノ老寡婦、侯ノ人ト爲リテ、自ラ十五万圓ノ家財ヲ盡シテ、之ヲ侯ニ贈リ、カバ、埴士禮立、幸ニシテ終始身ヲ政界ニ投シ、其伎倆ヲ逞シクスルコトヲ得タリ。

然レモ埴士禮立ノ總理大臣ヲ辭スルヤ、消費ニシテ、曾テ一タビ、一万圓ノ年金ヲ受クルノ已ムベカラザルニ至リシコトアリト云フ。

埴士禮立、天資英邁、機敏ニシテ、察シ、剛果ニシテ、善ク斷ス、其事ヲ成スヤ、變化出沒、閃電光ノ如ク、擊石火ノ如ク、一世ヲ顛倒シテ、其端倪ヲ知ラザラシム、又勝敗ノ運ニ臨ム、毎ニ氣力盈滿、之ヲ抑ユレハ、益々揚ガリ之ヲ弱スレハ、益々激シ、倦マス挽マズ、頗ル其才ノ非凡ナルヲ顯ハス、蓋シ埴士禮立ノ人ニ過グル所ノモノハ、豪放豁達ニシテ、區々タル毀譽褒貶ニ關セザルニアリ、(其一)英毅果斷ニシテ、毫モ躊躇逡巡セザルニアリ、(其二)氣力精悍ニシテ、匪懈怠ヲザルニアリ、(其三)一局ニ偏セズ、一邊ニ滯ラズ、一方ニ拘泥セズ、變通自在ノ作用ヲ有スルニアリ、(其四)故ニ能ク猶太ノ卑族ヨリ起リテ、風雲ヲ叱シ、群雄ヲ壓シ、滔々タル政治界ニ於テ、搏虎屠龍ノ伎倆ヲ顯ハスコトヲ得タリシナリ、苟モ一世ニ傑出スル政治家ニ非ザルヨリハ、安ソフ能ク此ニ至ルコトヲ得ンヤ。

堉士禮立、軀幹雄偉、狀貌俊秀、音吐洪鐘ノ如ク、辯舌洗麗人ヲ動カシ、最モ應對辭令、ニ巧ナリ、故ニ一見スルモノ、其風采ヲ稱セザルハナシ、然レモ好ミテ邊幅ヲ修飾シ、一個ノ指輪、一髮ノ具合、亦細密ナル意匠ヲ凝ラシ、時アリテ、衣裳ヲ異常ニシ、恰モ俳優ノ如ク、スト云フ、是レ堉士禮立ノ動モスレハ、倫敦的政事家ノ舊套ヲ脱スルヲ能ハズ、世界第一流ノ大政事家ト爲ルヲ能ハザル所以歟。

是堉翁不及俾翁處

第二章

堉士禮立ノ文才

堉士禮立ハ、嘗ニ政治界ニ於テ、天縱ノ奇才ヲ顯ハシ出セシノミナラズ、文學界ニ於テモ亦天縱ノ奇才ヲ顯ハシ出シタリ、一方ニ於テハ、雄辯卓

論ヲ以テ、一世ヲ顛倒シ、幾多ノ政事家ト、其智勇ヲ角シ、他ノ一方ニ於テハ、妙文快筆ヲ以テ、時事ヲ批評シ、人物ヲ褒貶黜陟セリ、堉士禮立ノ勢力ヲ、政治界ニ張テ、天下ヲ風動シタルモノ、豈偶然ナランヤ。

堉士禮立、才情富瞻、錦心繡腸、之ヲ描キテ、鏡花水月ノ文ト爲ル、其小説タル、情致纏綿、行文流暢、意到リ筆隨フ、而シテ其結構必ズシモ、男女ノ痴情痴態ヲ主トセズ、或ハ政治的ノ意見ヲ、縹緲神韻ノ間ニ洩ラシ、或ハ磊塊ノ氣宇ヲ、婉麗閑雅ノ中ニ吐キ、一トシテ俗流ノ小説ニ似タルモノナシ、是レ堉士禮立ノ小説ノ他ニ異ナリテ、最モ勢力アリシ所以ナリ。

堉士禮立、弱冠ノ時ニ著ハシタル「ヴィアン・グレイ」(Vivian Gray)ハ、族晩年ニ至リテ自ラ之ヲ冷笑セルモノナリト雖モ、意匠絶妙、文辭婉曲、一タヒ之ヲ讀ムモノハ、手之ヲ釋ルニ忍ビザル程ナリト云フ、故ニ評判噴噴トシテ、人口ニ上リ、忽チ第十版マテ刊行スルニ至レリ。

「カピタイン・ポパニラ」航海記 (The voyage of Captain Popanilla) ハ、千八百二

サミオンヲ翻譯シテ、政海之清波ト稱ス。此書ノ結構、聖士禮立自身ト、拿破崙第三世及ヒ、俾士麥ヲ以テ三英雄ト爲シ、ユーゼーニ皇后——拿破崙第三世ノ皇妃——比君士斐兒德夫人ヲ以テ、双美人ト爲セルナリ、其立意高尙、情趣兼備ナル、真ニ政治小説ノ最上乘ナルモノナリ。

フレツェントン夫人文筆傳ニ曰ク

聖士禮立ハ、宴會ニアル毎ニ沈着ニシテ言語寡ナシ、併シナカラ、彼レハ、一坐ノ談話、及ヒ其容子ニ注意スルヲ、至テ深ク、少シク「キワ」立テタル事柄起レハ、彼レ直チ口ヲ開キテ雄辯ヲ揮フ、其意揚ガリ氣激スルニ及ビテハ、言辭雄快、嘲諷靈妙、坐客ヲ惹テ我ヲ忘レテ歎服セシムルニ足ル。

ユルギー、セフレリソン亦聖士禮立ヲ評シテ曰ク、

其捲キ縮レタル毛髮ハ、濃黒ニ染メラレタル絹糸ノ如ク、澄ミ輝ケル眼瞳ハ、黒ク其唇ヨリ漏ル、音響ハ、温和ニシテ「スキ」透レリ、黒天鵝絨

上ノ衣ニ、雪白ノ裏ヲ附ケ、白キ羊皮製ノ手袋ヲ箝メ、金ヲ象箝セル象牙柄ノ「スタツキ」ヲ携ヘタリ。

又曰ク

彼レハ、最モ婦人ニ喜ハレタリ、男子ハ皆彼レハ、虚飾ヲ嗤笑スレ、凡婦人ハ之ヲ評シ、虚飾中ノ最モ佳ナル虚飾ナリト云ヒ、男子ハ彼レヲ輕侮スレ、凡婦人就中精細ナル眼瞳ヲ有セル婦人ハ、彼レガ將來大ニ立身スベキヲ豫言セリ、

ウキリス亦聖士禮立ヲ評シ曰ク、

聖士禮立ノ顔色ハ、余ガ是レマテ見タル顔色中ニ於テ、最モ奇異ナルモノナリ、彼レノ色ハ、甚ク青黒シ、若シ其精神活潑、肺臟强健ナラザレハ、彼レハ必ズ癆症ヲ病ミテ死スル人ナルベシ、其眼睛ハ、黒クシテ常ニ嘲笑ノ色ヲ含ミ、其唇ハ、絶ヘズ、震ヒ動キテ、今ニモ人ヲ嘲弄セントスルノ勢ヲ示セリ、其毛髮ノ奇異ナルハ、其胸衣ノ好ミノ奇異ナルガ

名評是冷評

如ク、魔シク捲キ縮レテ左ノ肩邊ニ垂レ、之ヲ頭ノ右ニ分テ少女ノ念入レテ其髮ヲ梳ルカ如ク、叮嚀ニ之ヲ梳レリ、其談話ノ容子ハ、今ヤ其局ヲ結ハントスル競馬ノ如ク、勢強ク、一辯句、一言句ニモ亦皆滿腔ノ精神ヲ注ゲリ」

評シ得テ咄々興ニ逗ル、妙ナリト謂フベシ」

第三章

瑛士禮立ノ辨論

瑛士禮立ノ辨論
客文士口吻

瑛士禮立、小説ノオニ長シ、亦辯論ノオニ長ズ、而シテ其辯論タル、最も比喩、嘲弄、諷刺、攻撃ニ長ゼリ、一單句ヲ以テ反對黨ノ弱點ヲ攻撃スルカ如キハ、實ニ寸鐵人ヲ殺スノ妙アリ、瑛士禮立ノ潜龍田ニアリ、未タ其志ヲ

撰擧コ得ザルヤ、"The Crisis Examined"ト題シテ一場ノ演説ヲ試シ、シガ其中左ノ如ク内閣ヲ評セリ曰ク

之ヲ聞ク、前内閣ハ、改革主義ノ内閣ニシテ、悉ク改進黨ノ諸名士ヲ網羅シタルカ故ニ、甚々結合堅キ内閣ナリシト、所謂ル改革主義ノ内閣ナルモノ果シテ如何ノ抑モ彼ノ結合堅キ内閣ハ、其組織セラレタル後チ、間モナク、内閣員中、最も果斷ノ名アリシデルハ、ム卿ノ辭職セルアリ、併シナカラ、結合堅キ内閣ハ、尙ホ甚々結合堅キ内閣ナリキ、彼ノ内閣員等皆曰ク、卿ハ病ノ爲ニ辭職セルノミ、故ニ暫クニシテ復タ内閣ニ入ルベシト、然レド一月又一月、數月ヲ經ルモ、卿ハ復タ入閣セザリキ、蓋シ卿ノ病ハ、卿ガ輕侮セル所ノ人物ト、頭ヲ並ベテ、内閣ニ立ツカ爲ニ、起リタル病ナルベシ、故ニ余ハ恐ル、卿若シ再タビ内閣ニ入ラハ、復前ノ如キ病ヲ得ンコトヲ、斯クテデルハム、卿ガ結合堅キ内閣ヲ去リシ後チ、間モナク、院中、最も有力ナリシ内閣員二名ト、上院中、最も有

カナリシ内閣員二名ノ辭職アリ、嗚呼是レ果シテ何事ツ、然レモ是レ唯タ細事ヨリ起レル小不和ノミ、他ノ大事ニ至リテハ、内閣ノ結合尙ホ極メテ堅カリシト云ヘリ、斯ノ如ク、重立タル内閣員ガ五人マテ改革主義ノ内閣ヲ去リシカモ、グレイ卿ノ名望ト、アルソルフ卿ノ佳名トハ、能ク改進黨内閣ヲ維持シ、或ハ國民多數ノ信用ヲ有セザルモ、尙ホ稍々其敬重ヲ得タルカ如シ、然ルニ何ソ圖ンヤ、此二人ノ内閣員マテガ、突然内閣ヲ去リテ、流石ニ結合堅キ内閣モ、殆ント根本ヨリ震撼セラレントハ、後チニアルソルフ卿ノ再タヒ入閣スルコト及ビ、結合堅キ内閣ハ、遂ニ千古未曾有ノ奇觀ヲ呈セリ、大法官ハ、國璽ヲ持セシ儘漫遊ニ出テ掛ケ、他ノ内閣員ハ、内閣ニ留マリテ、夜モ晝モ爭論セリ、此ノ如キ失態ハ、一私人ノ家ニ於テスラモ尙ホ耻辱トスル所ナリ、然ルニ況ンヤ、堂々タル英國ノ内閣ニシテ、茶番狂言一般ノ陋態ヲ露ハスニ於テチヤ、左レハ彼ノエリー氏スラ、茲ニ留ルコト能ハズシテ遂ニ

與近來條約改正
前後日本内閣相
即幾何

極端極端

結合堅キ内閣ヲ去レリ、而シテ氏ノ辭職ノ名目ハ、唯タ一ノ咽喉加答兒ノミ、世亦奇ナラズヤ、後チ間モナク總理大臣メルホルン卿ハ、狼狽シテ宮中ニ賤ケ込ミ、陛下ニ奏シテ曰ク——結合堅キ内閣ガ、寺院改革案ヲ提出セルニ、ランズドウン卿トスプリングライズ氏等、異議ヲ唱ヘ、既ニ辭職セントスト抑モ此二人ノモノハ、内閣員中稍々優等ノモノナリ、故ニ若シ此二人ニシテ去ラハ、内閣モ亦一個ノ人物ダモノナルベキニメルホルン卿ハ、尙ホ鄭重謹嚴ナル顔色アルヲ以テ、他ノ内閣員ハ、尙ホ堅ク結合セルヲ奏上シ、又ジョンラツセル卿ヲ以テ下院ノ首領ト爲サンコトヲ請フ、諺ニ曰ク——腐醋能ク、銘酒ニ化ス——トラツセル卿モ亦此諺ノ如ク、第十流ノ小操觚者ヨリ、一變シテ第一流ノ大政事家ト爲レルモノナリ、陛下ノ此請ヲ容レサセ給ハス、保守黨代リテ内閣ヲ組織スルヤ、メルホルン卿ハ、厚カマシクモ、此間ニ揚言シテ曰ク——陛下余輩ヲ放逐セリ——ト然レモ陛下何ツ彼

無何有之類必有
冷笑者

等ヲ放逐センヤ唯ク之ヲ笑倒サセ給ヒタルノミ嗚呼リシモ虚名
高カリシ改革内閣モ陛下ノ一笑ニ由テ吹キ倒サル豈亦憐ムベキノ
至リナラズヤ併シナカラ是レニハ其原因アリ初メ結合堅キ内閣ヲ
組織セル人物ハ一人去リ二人去リ漸次ニ辭職シテ殘レルハ唯メ價
値ナキ連中ノミ而シテ此連中モ亦日夜相爭論シ居リシカバ遂ニハ
全ク統一セザル所ノ混雜内閣ヲ現ハシ出セリ陛下ノ爲ニ吹キ倒サ
レ給ヒシハ即チ是ナリ諸君ハ彼ノ一鞭六馬ノ事ヲ聞ケル乎ダクロ
イタフ男曾テ堂々トシテ吹聴シテ曰ク——一鞭善ク六馬ヲ御スト
人爭ヒテ其奇技ヲ見ント欲シ錢ヲ投シテ來觀スダクロー乃チ一本
ノ鐵鞭ヲ提ケテ場ニ上リ俾馬六頭ヲ牽出ス衆客先ツ拍手喝采ス一
馬俄ニ疾ム駟馬ヲ以テ之レニ代ユ然レモ衆客尙ホ其奇技ヲ演セン
テテ望ム既ニシテ二馬復タ足疾ヲ痛メリ復タ駟馬ヲ以テ之レニ代
ユダクロー尙ホ揚々トシテ伎倆ノ巧妙ナルヲ吹聴ス暫クアリテ

三馬復タ痛ム是ニ於テ場中唯ク六馬ノ驢馬ヲ餘スノミ而シテダク
ロー鞭ヲ揚ケテ之ヲ撻チ足ヲ擧ケテ之ヲ蹴リ或ハ首ヲ擱ミ或ハ足
ヲ攫ミ縱横ニ之ヲ投セリ時ニ一驢ハ客ニ向テ低ク嘶キ一驢ハ怠臥
シテ草ヲ食ス是レ之ヲ稱シテ一鞭六馬ヲ御スト云フメルボルン卿
ノ事豈此類ニ非ズヤ其始メハ大言壯語シテ世人ヲ驚カシ未ダ一事
ヲモ成サザル間ニ世人ノ拍手喝采ヲ得タリト雖モ後ニハ雪白ノ駿
馬皆去リテ老羸怠鈍ノ驢馬之レニ代レクニ

煙土禮立復タ議院ニ於テ政府ガ苛酷ノ政ヲ以テ自ラ強シトスルヲ駁
シテ曰ク

政府ガ漫ニ苛酷ノ法ヲ用ユルハ自ラ不鞏固ナルヲ示スモノナリ
眞成鞏固ナル政府ハ大變ニ臨ミテ驚カズ小變ヲ見テ狼狽スルハ政
府ノ怯弱ナル證據ナリ細小ナル變乱ヲ鎮ムルガ爲ニ苛酷ナル法ヲ
施スハ政府ノ怯弱ナル證據ナリ議院開會ノ期ニ迫リテ議院ニ留マ

ル議員、僅ニ六十名ニ過キザルニ方リテ、軍費ヲ課スルハ、政府ノ怯弱ナル證據ナリ、小民ノ烏合セルヲ見テ、俄ニ非常法ヲ發シ、及ヒ巡查隊ヲ編制スルハ、政府ノ怯弱ナル證據ナリ、内閣員ノ更迭常ナキハ、政府ノ怯弱ナル證據ナリ、

千八百四十八年ロベルト・ピール氏が従前ノ主義ヲ豹變シテ、殺法改革案ヲ提出セル時、堯士禮立ハ、氏カ主義ヲ變シテモ、尙ホ總理大臣ヲ辭セザルヲ責メテ、曰ク、

土耳其機ニ一名將アリ、精銳無雙ノ艦隊ヲ率キテ、海港ヲ出ヅ、人皆以爲ラク、彼レ一舉シテ敵艦ヲ殲シ、土耳其機ノ光威ヲ輝カサント、然ルニ何ソ圖ン、彼ハ一彈九ヲモ發セザルニ、早ク三桅檣頭ニ降旗ヲ懸サントハ、土耳其機政府、其罪ヲ責ムルコ及ビシニ、彼レ揚々トシテ曰ク――陛下臣ニ命ズルコ、闔國ノ人民ヲ戰爭ヨリ拯ハンヲ以テス、故ニ臣ハ陛下ノ敵旨ヲ奉シテ、無用ノ抗戰ヲ爲サズ、直チニ敵ニ降レルノミ、是

レ即チ戰ヲ止ムル唯一無二ノ妙計ニシテ、我國民ハ、之レカ爲ニ、戰爭ノ不幸ヲ免ルベシ、臣カ陛下ニ盡シ、國民ニ盡スノ道、之ヲ措キテ他ノ策アラズ、徒ニ人ヲ殺シ、財ヲ費シ、勝算ナキコ尙ホ敵ト戰フハ、拙ノ最モ拙ナルモノナリ、――ト思フニ、我が總理大臣閣下ハ、此土耳其機將軍ノ變生ナラン、何ツ其ノ相肖タルノ太甚シキヤ、

總理大臣閣下ハ、曾テ自分ニテ意見ヲ創定セシ、ナキ人ナリ、唯風潮ヲ觀望シテ、未ダ嘗テ前途ヲ豫定セザル人ナリ、其畧ホ風潮ノ向フ所ヲ知ルヤ、倉皇トシテ鎗ヲ擧ゲ、帆ヲ張りテ、之ニ乗り込ム所ノ人ナリ、此ノ如キ人ハ、或ハ内閣ニ立テ政權ヲ把ルヲ得ベシ、然レ且其大政事家タルヲ到底能ハザルモノナリト謂ハザルベカラズ、何トナレハ馬車既ニ發シテ、後チニ寢床ヲ出ツル馬丁ハ、遂ニ大御者タルヲ能ハザレハナリ、

當時威權聲望赫々トシテ飛ブ鳥モ墜チントスルロベルト・ピールヲ罵

殺スルヲ此ノ如シ、而シテ其嘲弄極メテ冷カニ、極メテ妙ナリケレハ、是レヨリ堙士禮立ノ罵詈嘲弄ニ巧ナルノ名ハ、大ニ世人ノ知ル所ト爲リ、皆其言ヲ傳誦スルニ至レリト云フ。

千八百四十八年ノ國會ニ、政府歲計豫算ヲ提出スルヲ、前後四回ニ及ビシ時、堙士禮立、復々得意ノ快辯ヲ以テ、之ヲ嘲弄セリ、其中ノ一節ニ曰ク、余ハ一生運此奇觀ヲ忘レマシ、余ハ之ヲ思フ毎ニ、大藏總裁閣下ト同シク、四回ノ試験ヲ爲シテ其最後ノ試験ガ、最モ不出來ナリシ彼ノ高名ナル人物ヲ思ヒ起ササルヲ得ズ、高名ナル人物トハ何人アヤ、曰クドンキー翁是レナリ、流石ノドンキー翁モ第四回ノ失敗ニハ落膽シ會期ノ初メニ於テ、吾人ヲ屠リ、其中頃ニ於テハ、吾人ヲ踐蹂シタル所ノ勇氣モ挫ケ、今ハ唯首ヲ帖レ尾ヲ搖カシ、手ヲ拱スルノ外ナカリキ諸君ハ、今ヤ吾人ノ云フ所ヲ記憶セラルベシ、此章ニ於テハ、最初無雙ノ理財家否俠客ナリト自稱セルドンキー翁モ、自ラ悟リテ、武勇若シ

ハ理財ニ關スル自負心ヲ失シ、失意落膽ノ餘リ、武者修業ノ志ヲ變シテ我村ニ歸レリ、而シテ其村人ハ、恰モ吾人反對黨ノ如ク列テ成シテ、彼レヲ迎ヘタリ、作者曰ク、村人ハ皆彼レカ臆病ナルヲ知ルト雖モ、尙ホ懇ロニ之ヲ遇セリト、彼レカ親友ナル戸長、理髮師、代言人、其役目ハ大藏大臣、外務大臣、商務大臣、之ヲ勤ムルハ、宜シカラシ、等相集マリテ故ヲニ尊崇愛敬ノ容貌ヲ裝ヒ、以テ彼レカ無事ノ歸村ヲ祝セリ、彼レ始メテ村人ト別ル、ヤ、意氣充滿、到處強ヲ挫キ弱ヲ扶ケ、昔時ノ眞成武士ノ如クナルベシトテ、之ヲ衆人ノ前ニ高言セルモ、今ヤ一事ノ爲スベキモノナク、蕭然トシテ歸村セシカバ、彼レ自身ノ心中ニハ、村人皆嗤笑スベシト恐レ居リシニ、案外ニモ、村人朋友等、皆出テ、之ヲ迎ヘシノミナラズ、戸長、理髮師、代言人等、皆歡聲ヲ舉ケテ、之ヲ祝セシカバ、ドンキー翁ハ、大得意ト爲リ、漸ク氣ヲ取リ直セシ、時一婦人走リ出テ、曰ク、汝ハ讒ラレ叩カレタルモ、汝ノ之ヲ意ニ介

ネレヨ勿レ、汝ハ必ず多少金獲チ充シ歸リシナラン、金サヘアレハ、汝ガ俠名ヲ賣ラザルニハ、豈耻ルコ足ランヤ——ト、然ルコ何ソ圖ンヤ、金ハ、最モ是レ大藏總裁ノ欠乏ヲ患ヒシ所ナラントハ、彼ノ第四即チ最後ハ、此ノ如クニテアリキ、第四即チ最後ノ豫算案モ亦豈此ノ如クナラザランヤ、大藏總裁ハ、此會期中、勇者ノ金甲ヲ齎ラサズニテ常ニ理髮師ノ水瓶ヲ齎ラシ以テ其獲物ノ多キヲ誇リシガ、後チコハ、其性質、職務、出所ニ違ハズ、剩餘ヲ生セズシテ、不足ヲ生シ、租稅減少ノ代リ、第二ノ國債ヲ以テ第二ノ會計年度ノ紀念碑ヲ建ツルニ至レリ、一千八百五十五年露西亞戰爭、即チ哥里米亞ノ役アリ、議院ノ辯論、沸騰潮ノ如キ時ニ當リテ、聖士禮立ハ、立チテ當時ノ總理大臣巴米爾斯致チ嘲弄シテ曰ク、

我カ大英國ニハ、果シテ一箇ノ政府ヲツモ、ハアリヤ、否ヤ、余ハ之ヲ總理大臣閣下ニ問ント欲ス、首チ回ラセハ、僅々一週日ノ前ナリキ、世人

聖士禮立ノ辨論

聖士禮立ノ辨論

皆我カ英國人民ニ向ヒテ施政ノ才能ニ富ミ、且ツ改進黨主義ニ熱心ナル政府ヲ組織セラレタリシヲ賀セリ、然ルニ内閣員ノ三人ハ、早ク其職ヲ棄テ、去レリ、余ハ再クヒ總理大臣閣下ニ問ント欲ス、政府ノ主義果シテ如何ント、今ヨリ僅々一週日前ノ事ナリキ、總理大臣閣下ハ、査理委員設置ニ反對スルヲ主義トシテ其内閣ヲ組織セリ、然リ而シテ今ヤ査理委員ヲ設置スルヲ以テ内閣ヲ維持スルニ、颯強ナル根本ト爲シ、爲ニ最モ貴重ナル内閣員三名ヲ失ヒタリ、此ノ如クニシテ尙ホ國ニ政府アリト謂フベキ乎、抑モ亦尙ホ政府ニ其主義アリト謂フベキ乎、

聖士禮立復々會テソールス、ブリー侯——當時クラン、ホルント稱セリ

「ナ嘲リテ曰ク、

貴公子ハ、大過失ニ陷レル大智者ナリ、諸君若シ狂癡院ニ至リテ、院中ノ患者ヲ調査セハ、世人皆狂セリ、我レ獨リ狂セズト濟マス所ノ大狂

者アルヲ見ルヤ、余ノ貴公子ヲ尊敬スルヤ、實コ世人ヨリモ甚シ、併
シナカラ、余ハ此貴公子ヲ以テ、方ニ此ノ大狂者ト同一ノ病ニ罹レル
モノト爲サザルヲ得ズ、

堉士禮立ノ辯論、叱咤縱橫、一言一句、皆其犀利ヲ極メ、其疾キト風ノ如ク
其勁キト鏡ノ如ク、曲ケント欲スルモ、曲クベカラズ、抑ヘント欲スルモ
抑ユベカラズ、風雲舌端ニ迸ハリ、雷霆耳邊ニ轟クニ似ヌリ、堉士禮立、氣
力勇健ニシテ、其辯論ヲ爲サントスル前ニ嘗リテハ、沈思冥想、恰モ死人
ノ如シ、然レモ其趣向一ニ成リ、起テ其唇ヲ開クヤ、滔々汨々トシテ、長
江大河一瀉千里ノ勢アリ、縱橫晝夜ニ亘リテ、屈撓スルノ色ナシ、特ニ其
政府ニ立ツコ及ヒテハ、詳カニ施政ノ方針ヲ述ベ、議案ヲ説明回護シテ
反對論ヲ駁スルカ如キ、渾々皆侯ノ一身ニ於テ之ヲ擔當セリ、故ニ自黨
及ヒ反對黨ニ至ルマテ、皆其精悍無比ナルニ驚カザルモノナカリント
云フ。

第四章

堉士禮立ノ政略

堉士禮立ハ、卓落不羈ノ政事家ナリシナリ、豪華自ラ喜ブ才子ナリシナ
リ、雄辯人ヲ壓スル論客ナリシナリ、權略一世ヲ籠蓋スル策士ナリシナ
リ、故ニ其舉動活潑非、凡、磊々落落々トシテ、怪巖長松ノ如ク、人ヲシテ變動
セシムルモノアリ、

堉士禮立ハ、毫モ區々タル政黨ニ關セズ、亦瑣々タル主義ニ拘ラズ、唯々
其爲サント欲スル所ヲ爲シ、其行ハント欲スル所ヲ行ヒ、更ニ之レニ顧
慮セザリシ、堉士禮立、初メ保護主義ヲ主張セリ、ロベルト、ヒール氏ガ、穀
法改正案ヲ提出セシ時モ、侯ハ、農利ヲ主張シテ痛ク之ニ反對セリ、然レ
モ未ダ幾ナラズシテ、其説ヲ放棄セリ、又其議院ニ於テ、爲セル演説
ノ如クモ、常ニ勉メテ衆人ノ意表ニ出デ、衆議員皆侯ガ長演説ヲスベ
ト期スル時ニハ、極メテ簡單ナル演説ヲ試ミ、亦其簡單ナル演説ヲ爲ス

ベント期スル時ニハ、却テ精詳ナル演説ヲ爲シ、或ハ激シキ駁撃ヲ爲スベシト思フ時ニハ、沈黙シテ一語ヲモ發セズ、或ハ黙止スベシト思フ時ニハ、却テ滔々タル駁論ヲ下スカ如キ、常ニ衆議員ノ耳目ヲ顛倒シテ其端倪ヲ知ラザラシメタリ。

英國ノ政治世界ニ於テ、英士禮立ト相馳驅ニシテ、雄ヲ中原ニ争ヒタルモ、唯マ一ノ額拉特新頓氏アリシノミ、額氏ト侯トハ、其氣象ニ於テモ、材幹ニ於テモ、主義ニ於テモ、全ク相異ナレリト雖モ、非凡ノ奇才ヲ以テ、雄辯卓論、一世ヲ顛倒シ、智謀權略、群雄ヲ籠蓋スルノ伎倆ニ至リテハ、殆ト相讓ラザルカ如シ、故ニ侯ト氏トノ争ハ、恰モ双龍ノ珠ヲ争フカ如ク、實ニ絶大ノ奇觀ヲ極メタリ。——千八百七十三年、額氏ノ愛蘭大學改正案ヲ提出スルヤ、侯ハ最モ激烈ナル最モ壯快ナル演説ヲ以テ、之ヲ駁撃セシニ、激論殆ント四夜ニ亘リテ、額氏僅ニ三名ノ小數ヲ以テ敗北セリ、是ニ於テ、侯氏ハ直チニ總理大臣ノ職ヲ辞セシカバ、英士禮立ハ之ニ代

リテ人開スベキ筈ナリシモ、當時議院ニ於テ、侯ノ黨派甚メ衆カラザリケレハ、英士禮立ハ、内閣組織ノ困難ナルベキヲ察シ、且ツ額氏ヲシテ議院解散ノ責任ニ當ラシメ、已レ却テ政權ニ戀々タラザルノ名ヲ博セシト欲シ、百方口實ヲ設ケテ女皇陛下ノ囑托ヲ辞セリ、額氏ハ顧ニ侯ノ舉動ノ先規舊格ニ違ヒ、憲法ノ慣例ニ戾ルヲ責メタリト雖モ、侯ハ泊然トシテ之ヲ顧ミザリシカバ、額氏乃チ依然トシテ其職ニ復シタリキ。——千八百七十四年、英士禮立ガ内閣ヲ組織スルヤ、曩キニ痛ク侯ニ反對シタルソルスブリー卿ヲモ巧ク之ヲ籠絡シテ内閣ニ入レ、任スルニ印度軍務大臣ノ職ヲ以テセリ。——侯ノ舉動、事物ニ拘泥セズ、曠懷偉度、一世ヲ顛倒スルノ術、皆此類ナリ。——英士禮立ハ、内政ニ於テ、汲々力ヲ出シテ、非凡ノ伎倆ヲ顯ハセシト同時ニ兼テ、外交ニ於テモ、稍々其名ヲ博シタリ、蓋シ英國ニ於テハ、改進黨——即チ自由黨——ハ主トシテ内治主義ヲ取リテ外交主義ヲ取ラズ

個人の自由主
我何官國家的自
由主義何嘗拘々
著天下皆然

堽士禮立ノ政略

自由平和主義ヲ取リテ、強梗進取主義ヲ取ラズ、之ニ反シテ保守黨ハ、外交主義ヲ取リテ、内治主義ヲ取ラズ、強梗進取主義ヲ取リテ自由平和主義ヲ取ラザルナリ、堽士禮立ハ保守黨ノ政事家ナリ、故ニ内ニ對シテ保守主義ヲ取ルト同時ニ、兼ネテ外ニ對シテ強梗主義ヲ取レリ、然レモ英國ノ如キ黨派的ノ國体ニ於テハ、改進黨モ、保守黨モ、亦決シテ進取的ノ主義ヲ取リシモノナク、亦進取的ノ主義ヲ取ルトテ得ズ、左レハ進取強梗主義ト云フモ、徒ニ防禦的ノ政略ニ於テ強梗ナリシナリ、堽士禮立ハ露鷲南下ノ勢、益々迫ルヲ憂ヒ、専ラ意ヲ印度及ヒ中央亞細亞ニ注ギ、先ツ女皇陛下ニ奉ルニ、印度女皇ノ尊號ヲ以テシ、又皇太子ヲシテ印度ニ漫遊セシメ、海陸ノ兵ヲ一振シテ、威ヲ中外ニ示シ、隱然露人ノ侵略心ヲ凌キ、一世ノ耳目ヲシテ震懾セシメタリ、英人ハ、動モスレハ、佛人ヲ忌ムノ一癖アリ、而シテ英政府ト佛政府トノ間、相親密ナラズ、堽士禮立以テ之ヲ不可ナリト爲シ、常ニ佛國ト相聯合

シテ以テ強露ヲ屈セシムベシト云ヘリ、又蘇士運河開鑿ノ事アルヤ、堽士禮立ハ、外務大臣ヲシテ佛政府ニ通牒シ、英政府ハ、固ヨリ埃及政府ガ發シタル、運河株券ヲ要セズト雖モ、重要ナル運河ヲ壟ゲテ、一ニ之ヲ佛政府ノ專有ニ歸スルヲ能ハズ、ト云ハシメ、直ニ埃及ニ電通シテ、彼レカ所有セル悉皆ノ株券ヲ買収セリ、其間、僅ニ五日ヲ費セシノミ、歐洲列國皆其神速果斷ナルニ驚カザルハナシ、流石ノ佛國モ茫然トシテ、自ラ失シタリト云フ、

當時歐洲外交ノ牛耳ハ、始メ佛國ニ歸シ、拿破侖第三世專ラ其霸權ヲ握リシモ、堽士禮立ガ一マヒ伯林會議ニ於テ、列國ノ使臣ヲ叱咤シ、雄名一時ニ轟キシヨリ、外交世界ノ中心ハ一時英國ニ移リ、堽士禮立ノ一舉手、一投足ハ、殆ント列國ノ外交家ヲシテ、其喜憂ヲトセシメタリ、

堽士禮立ノ政治界ニ雄飛セントスルヤ、時ノ總理大臣メルホルン公、或ル宴會ニ於テ、堽士禮立ニ問テ曰ク、貴下ハ何故ニ議院

入シトスルヤ、抑モ議院ニ入リテ、何事ヲ爲サントスル乎。ト、堉士
 禮立直チニ之ニ應テ曰ク。――他ノ意ナシ、唯タ大不列顛ノ内閣總理
 大臣ヲラントスルノミ。――ト公及ヒ坐ニアルモノ、皆心ニ之ヲ嗤笑
 シ、其大言ニ呆キ果テマリシモ、後來侯果シテ内閣總理大臣ト爲レリ
 又堉士禮立ノ初メテ議院ニ入リシ時ニ當リテ、衆議員皆侯ヲ輕蔑シ
 其説ヲ聞カズ、嘲笑シ叫呼シ、勉メテ、其演説ヲ妨ケマリ、堉士禮立佛然
 トシテ怒リ、放言シテ曰ク。――諸君笑ハント欲セハ笑フベシ、余ハ少
 シモ之ニ驚カズ、余嘗テ事ヲ成シ、屢々其志ヲ得ザリシモ、後チ遂ニ成
 功セシト甚ク多シ、今ヤ余ハ厭ソ余カ坐ニ復スベシ、然レモ早晚必ズ
 諸君チシテ余カ言ニ敬服セシムルノ時節到來スルトアルベシ。――
 ト其言果シテ驗アリ、侯ノ演説ハ滿場ノ議員チシテ敬憚ノ意チ生セ
 シメマリ。

堉士禮立ノ病ニ臥スルヤ、尙其演説筆記ヲ校正シテ、怠ルトナシ、曰ク

――語音文法ヲ誤リタル演説ヲ爲セリトテ、天下後世ノ指摘ヲ受ク
 ルハ、余ノ深ク耻ル所ナリ。――ト病愈々重キニ及ビテモ、尙ホ自ラ新
 聞紙ニ送ル病狀誌ヲ檢査シ、世人チシテ空シク望チ驚シムルカ如キ
 矯飾ノ文字ハ、總テ之ヲ改竄セシメマリ、侯ノ薨スルヤ、反對黨ノ首領
 額拉特斯顿氏ハ、悲愴淋漓ナル演説ヲ爲シテ、侯カ生前ノ功業ヲ頌シ
 國典ヲ以テ之ヲ葬ムルベシト云ヒ、遂ニ議院ノ一致ヲ得マリ、然レモ
 侯ノ親戚等、堅ク侯ノ遺言ヲ守リ、之ヲ辞シ、極メテ簡素ナル儀式ヲ以
 テ、威權赫々タル政事家、比君士斐兒德侯堉士禮立ヲ、其夫人ノ側ニ葬
 リマリ。

第五章

伯林會議ノ概況

伯林會議ノ起因ハ、露土ノ戦争ニ由ル、而シテ露土ノ戦争ハ、千八百七十七年四月ヲ以テ始マリ、千八百七十八年三月ニ終ル、東邦論潰裂シ、其平和ヲ維クベカラズ、露帝大軍ヲ擁シテ日夜銳意、土境ニ逼リ、連戦連勝、防クモノ皆破碎セザルハナシ、ブレウヰキナノ堅城ヲ陥レ、將ニ驚影ヲ土京君士但丁堡ニ翻サント欲ス、土耳其機ノ朝廷、氣屈シ力竭キ、和約ヲ乞ヒ、露國ノ要求ニ應シテ條約ヲ訂結セリ、有名ナルサン、スタフアノ條約即チ是レナリ、

初メ英政府ハ、嚴正中立ヲ布告シ、苟モ我カ利益ニシテ損傷セラル、所ナケレハ、決シテ露土ノ戦争ニ干與セザルヲ明言シ、漠然トシテ露土ノ戦争ヲ傍觀セシガ、露軍、縱横奮迅、到處、土軍ヲ壓ニシ、已ニシテブレウヰキナヲ陥リ、君士但丁堡モ亦將ニ危迫ナラントスルノ勢アルヲ以テ倉皇

大ニ驚キ、國會ヲ開キ議員ニ告グルニ、若シ露土ノ難ニシテ、久シク解ケズンハ、或ハ之レニ處スルノ方法ヲ講セザルヲ得ザルニ至ルヲアルベキ旨ヲ以テシ、遠カラズシテ、海陸軍ノ特別費、六百万磅ヲ請求スヘキヲ述ベタリ、

未ダ幾ナラズシテ、露國土廷ニ迫リテサンスタフアノ條約ヲ訂結セシカハ、英廷益々驚キ、漸ク主戰ノ方嚮ヲ示シ、塙國ト共ニ此條約案ヲ承認セズ、將ニ歐洲列國ノ大會議ヲ開キテ露土ノ關係ヲ定メ、東歐ノ問題ヲ決セントス、露相伍爾查格布固執シテ肯ンセズ、英廷モ亦屈セズ、勢益々迫ル、埒士禮立乃々急ニ海陸ノ兵ヲ修メ、四月一日、外務大臣ソールズブリー卿ヲシテ列國ニ通牒シ、列國會議ニ於テ、サンスタフアノ條案ノ存廢ヲ議セシメサレハ、英國ハ之ヲ開クノ意ナシト云ハシメ、候直ニ命ヲ下シテ印度ノ兵ヲ地中海ニ航セシメ、露國モ亦兵ヲ増シ、ホスフオラスノ海峡ヲ扼セリ、英露ノ關係、益々迫リテ愈々激シ、將ハ山

襲テ海軍ヲ慘雲妖雨ノ大活劇ヲ演出シ來ラントス時ニ露國ノ大臣カ
ウシトシヨロロツフ英露ノ間ヲ調停シ五月三十日ヲ以テ秘密條約ヲ
結ビ漸ク將ニ破裂セシントスル兩國ノ禍機ヲ一掃スルヲ得タリ是ニ
於テ列國皆相俾士麥公ノ招キニ應シテ使節ヲ柏林ニ派遣セリ是レテ
柏林會議ノ起因ト爲ス

柏林會議ハ千八百七十八年六月十三日ヲ以テ開カル埵士禮立以爲ラ
シ此會議ハ實ニ列國ノ使臣ヲ壓倒セテ我カ伎倆ヲ試ムヘキ機會ナリ
ト乃チ外務大臣ソルスブリー卿ヲ從ヒテ倫敦ヲ發セリ總理大臣ニシ
テ自ラ使節ト爲リテ他國ニ赴クハ異例中ノ異例ニシテ英國ノ舊規ニ
於テ之レヲキ所ナレハ英國ノ人士皆其耳目ヲ駭カサルハナカリシ
時ニ露相伍爾查格弗病ニ寢セシカ埵士禮立ノ柏林ニ來ルト聞キ以爲
テ是レ露ノ大事ナリト病ヲ力メテ士格別費弗將軍ヲ隨ヒテ同シク伯
林ニ至リタル此會議ハ俾士麥公ヲ以テ議長ト爲シ英相埵士禮立ソル

開會

スブリー卿露相伍爾查格弗士格別費弗將軍ヲ始メトシテ佛ノワツナ
ントン煥相安特刺西伊ノアルキ土ノメヘメツトアリ等皆其議員タリ
凡ソ是等ノ人士ハ皆國家ノ安危榮辱ヲ舉ケテ一身ニ負擔スルノ人ニ
シテ各々一堂ニ會シテ東邦論ノ大題目ヲ議ス實ニ曠古ノ偉觀ナリト
謂ハザルベカラズ左レハ當時俾士麥公ハ人ニ謂テ曰ク——此會議ハ
古今未曾有ノ奇觀ナルベシ而シテ此會議ニ於テ之レカ主位ヲ占ムベ
キモノハ英ノ比君士斐兒特侯埵士禮立ト露相伍爾查格弗ナリ其他ハ
皆客位ヲ占メテ第二流ニ居ランノミ——ト
嗚呼大丈夫將ト爲リテ馬チ吳山第一峯ニ立テザレハ使ト爲リテ敵ヲ
稱祖ノ間ニ挫ク亦大快ナラズヤ埵士禮立ノ如キハ豈其人ナル歟此時
ニ當リテ埵士禮立ノ聲名赫々トシテ列國ノ間ニ振ヒ大陸ノ人々皆其
風采ヲ想望シ一タヒ嚮嚮ニ接セント欲ス故ニ埵士禮立ノ將ニ柏林ニ
入ントスルヤ途上到處觀者雨ノ如ク雜還熱鬧帽ヲ捧ケ手巾ヲ振ヒ競

ヒテ之ヲ迎ヘケル、抑モ堉士禮立ノ俾士麥ニ遇フヤ、實ニ舊職ノ後十五年ノ星霜ヲ經タリ、因テ俾公ノ功ヲ稱ス、俾士麥公突如トシテ問ヒテ曰ク、
「願クハ冗話ヲ止メヨ、抑モ足下ノ此ニ來レルハ、和ヲ得ントスルカ爲メ乎、將テ戰ヲ得ンカ爲メ乎」
ト堉士禮立從容トシテ之レニ應テ曰ク、
「亦和ヲ得ント欲スルノミ、然レモ我が望ム所ヲ達セズンハ戰モ亦辭スル所ニ非ス、余ノ胸中ニ和戰兩面ノ難備アリ」
ト是時露人以爲ラシ、露國ノ榮辱如何ハ、一ニ比君士斐兒德侯ノ掌中ニアリト慷慨悲歌ノ徒、往々易水ヲ唱ヘテ伯林ニ來リ、侯ヲ視ヒ之レヲ刺サント欲スルモノアリ、普國政府深ク萬一ノ變ヲ虞カリ、侯ノ旅館ヲ護衛セリ
「堉士禮立一日、秘書官ノ室ニ入り、其ニ郊外ノ散策ヲ促カス、秘書官驚キテ答フル所ヲ知ラズ、堉士禮立笑テ曰ク、
「君モ亦露客ノ刀ヲ恐ル、乎、余ハ既ニ旅館ノ禁錮ニ飽キタリ、出テ、曠野ノ斷頭臺ニ上ルモ亦可ナラズヤ」
ト悠然トシテ門ヲ出テ、毫モ顧慮スル所ナカリント

して之ヲ迎へケル。都モ厚土禮立ノ傳士。朝ノ朝ニ襟袖ノ後十五
 年ノ星霜ヲ經ケリ。内テ仲公ノ功ヲ戰ニ傳士妻公突如ク。之ヲ問ヒテ曰
 ク。一。此ノ元寇ノ止メヨ。我モ是下ノ此ニ亦ヒルヘ在リ。傳士トスル
 公。呼聲ヲ聞キ得シカ爲メ乎。ト厚土禮立。從容トシテ之レヲ應
 答曰ク。一。亦相テ得ツト。然ルノミ。感レシ我ガ數ノ所ヲ達シズ。マ
 ハ。戰モ奇蹟スル所ニ非ス。奈ノ難中ニ。知。恩。田。國。ノ。導。編。ア。リ。ト。是。時
 諸人。以。爲。テ。ク。當。國。ノ。榮。辱。如。前。ハ。一。比。傳。士。妻。公。傳。士。中。ノ。ア。リ。ト
 報。復。思。慮。シ。非。徒。女。姑。求。テ。明。ク。自。信。ト。幸。リ。使。テ。觀。レ。之。レ。ナ。リ。ト
 欲。ス。ル。モ。ノ。ス。リ。普。同。政。治。家。ト。爲。一。ノ。役。ノ。爲。ケ。リ。傳。士。旅。館。ニ。設。席。セ。リ
 下。厚。土。禮。立。一。日。表。書。官。ノ。室。ニ。入。リ。其。ニ。對。シ。テ。散。策。ヲ。記。カ。ス。表。書。官
 驚。キ。テ。答。フ。カ。聞。ク。知。ク。ス。傳。士。表。書。官。ト。曰。ク。一。君。モ。亦。傳。士。ノ。刀。ヲ。恐
 ル。ト。受。余。ハ。既。ニ。旅。館。ノ。對。面。ニ。備。キ。タ。リ。酒。ヲ。一。酌。野。ノ。朝。頭。室。ニ。上。ル。モ
 終。ニ。一。日。ノ。事。ヲ。一。日。ノ。事。ト。爲。シ。テ。一。日。ノ。事。ト。爲。シ。テ。一。日。ノ。事。ト。爲。シ。テ。



圖の國歸てしふ全を命使の議會林伯候ドルイフスゴビ

L. Cho. by Nishimura, Tokyo.

云フ

禮語如前

保潔不可奪亦不可曲

此會議ニ於テ、英露ノ最モ争ヒシ所ハ、勃爾俄利亞ノ問題ナリ、キ、激論三回ニシテ、未ク決セズ、英露各々固ク自己ノ意見ヲ執リテ、毫モ譲ルノ色ナレ、廷士禮立、悉然トシテ曰ク——露國若シ、我が意見ヲ、聽カスンバ、口舌ヲ以テ之ヲ争フニ及ハス、宜シク戰場ニ於テ之ヲ決センハ、ミ——ト決然執チ拂ヒテ去ル。俾士麥公、來リ之ヲ慰藉シテ曰ク——連日ノ議事ハ或ハ足下ヲ勞セシ乎——ト、廷士禮立、答ヘテ曰ク——否、余、事ニ苦マザレド、時ニ苦ムノミ、口舌會議ノ甚ク長キニ苦ムナリ——ト、公乃チ少シク歩ヲ讓リテ露使ト調和センヲ勸ム、廷士禮立曰ク——余ハ來ルハ、我が政府ノ意見ヲ述ベントスルハ、之ヲ枉ゲテ以テ他邦ノ意見ニ屈從スルガ爲メニ非ズ——ト、公其述ニ奪フベカラザルヲ知リ、去リテ露相伍爾查格弗ヲ訪ヒ、百方之ヲ勸ムルニ、唯タ一步ヲ英國ニ讓ルベキヲ以テス、時ニ露帝命ヲ下シ——勃爾俄利亞ノ事、已ムヲ得ス、ハ、英

伯林會議ノ概況

廷ニ讓ルハ、トハ、飛報アリ、是ニ於テ伍爾查格弗ノ雄邁ナルモ亦之ヲ
 奈何ハスルヲ能ハス終ニ枉ケテ堽士禮立ノ意見ニ從ハシテヲ約セリ
 翌日第四回ノ會議ヲ開クニ及ビテ勃爾俄利亞ノ問題始メテ決セリ、伍
 爾查格弗憤激ニ堪ヘズシテ病愈々重ク終ニ會議ニ列席スルヲ能ハザ
 ルニ至ル凡ソ會議ヲ開クニ二十回七月十三日ニ至リテ之ヲ終リ八月
 三日各國ノ皇帝及ヒ大統領ノ批准ヲ得テ之ヲ交換ス所謂伯林會議
 ナルモノ即チ是レナリ、
 堽士禮立伯林會議ニ於テ硬語ヲ以テ虛名ヲ博シ、虛榮ヲ競ヒ、虛勝ヲ獲
 テ歸リ七月十六日英國ドーヴァー港ニ着スルヤ英人ハ山ノ如クニ群
 集レ侯ノ馬車ヲブライケイヲ將テ壇メタル途上歡呼喝采ノ聲洋々トレ
 テ崩ル、許リノ中ニ迎ヘタリ堽士禮立車上ヨリ群衆ニ對シ演説セリ、
 其中ニ曰ク
 余ハ豈管ニ平和ヲ嚮ラシ歸レルノニナランヤ亦實ニ榮譽ヲ齎ラシ

尙敢今日失
 者在此一語
 非英雄

テ歸レリ、豈管ニ榮譽ヲ齎ラシ歸レルノニナランヤ亦人民ノ榮譽ヲ
 齎ラシテ歸レリ
 而シテ堽士禮立ノ倫敦ニ着スルヤ、女皇陛下ヲ始メトシテ、人民皆狂奔シ
 テ侯ノ大功大勝ヲ賞揚シ、特ニハツタリウチ公ノ如キハ實ニ左ノ如ク
 侯ヲ稱賛シ盡セリ、曰ク
 我ガ比君士斐兒德侯ハ、戰亂ヲ未タ起ラザルニ征定シテ、平和ヲ齎ラ
 シ歸レル勝利將軍ナリ、
 然レモ伯林會議ハ、英國ニ取リテハ、勝利ヲ獲タリト謂フヲ得ズ、管ニ
 其勝利ヲ獲タリト謂フヲ得ザルノニナラズ、却テ歐洲就中英國ノ
 爲ニ不幸ナリト謂フベシ、余近著土耳其機史ニ於テ、左ノ如ク評論セリ、
 曰ク、土耳其機ハ伯林條約ニ由テ、管ニ勃爾俄利亞及ヒ琉米尼亞ノ
 兩國ヲ失ヒタルノニナラズ、亦ボスニヤ、ヘルセコヴナノ兩地ヲ失
 ヒ其代トシテ、バルカンヲ占領スルヲ許サレタリト雖モ、之ヲ占領

セント欲セハ、勃爾俄利亞及ヒ琉米尼亞ノ兩敵ヲ南北ニ受ケザルベ
 カラズ是レ到底出來ベカラザル事ニ非ズヤ、之ニ反シ、露國ハ此條約
 ニ由テ、アララツト以南ノ一帶地ヲ擲棄シタルカ爲ニ、波斯ニ至ルノ
 道ヲ失ヒタリト雖、一方ニ於テハ此一帶地ニ沿ヒテ疆土ヲ擴張シ
 波斯街道ト僅ニ兩日程ノ地ニ達セリ、又此條約ニ由テ、ハトームヲ得、
 并ニ其近傍ニ散在スル蠻族ヲ臣屬セシメタリ、戈登將軍ノ言ニ曰ク
 『ハトームハグルナウトサイノ一ブトノ中間ニアリ、黒海中唯一
 ハ港場ナル、コモ拘ラズ、諸大國ハ坐シテ、露國ノ之ヲ占領スルヲ妨ケ
 ズ同地ハ無用ナル地ナリ、猶ホ熱セサル葡萄ノ如シトテ之ヲ看過セ
 タリ』ト然ラハ、則チ伯林條約ハ、露國ノ爲ニ大ニ利スル所アリ、
 土耳機ノ爲ニハ、秋毫ノ利益ナシ、歐羅巴ハ爲ニハ、無限ノ損害ヲ蒙リ、
 タリト謂フモ、可ナリ、夫レ露國ノボスニヤ、塞爾維亞、勃爾俄亞等ヲ統
 合シ、由テ以テ土京君士但丁堡ニ熱彭ヲ翻サント欲スルヤ久シク志

ヲ達セシカ爲ニ、施ス所ノ政畧ハ、終始一定シテ、間斷アルトナシ、然ル
 ニ土國ノ君相前緒ヲ紹恢シテ以テ大計ヲ立ルヲ知ラズ、苟且偷安
 禮樂刑政大ニ壞レ、主柄下ニ移リ、民心渙散ス、是ヲ以テ朝ニ塞爾維亞
 兵ヲ擧ケテ叛ケハ、夕ニモンテチゴロ旗ヲ提ケテ起リ、貪欲厭クヲ
 知ラザル露國ヲシテ愈々其隙ニ乘シ其志ヲ逞クスルヲ得セシム
 嗚呼土耳其機ノ運命極マレリ、ト噫比君士斐兒德侯、侄士禮立ハ、虛
 名ヲ竊ムニ長シタル人ナル哉、而シテ英人徒ニ平和ノ二字ニ眩迷セ
 ラレテ遠永ノ利害ヲ看破スルヲ能ハズ、侄士禮立翁ノ爲ニ魅セラレ
 テ、自ラ知ラズ、豈憫ムベキノ至リナラズヤ、但シ當時ニ於テ、改進黨ノ
 名士諸氏、侄士禮立翁ノ虛喝政畧ヲ非難シタリト雖、凡國人大多數ノ
 聲ニ應セラレテ、聽クモノ希レナリシ、故ニ余嘗テ侄士禮立ヲ詠シテ
 曰ク

隻手収來蓋世功、爛牛角上稱英雄、將下斯顛一時術、不出露相籠絡中。

第六章

瑛士禮立ノ夫人

比君士斐兒德侯、瑛士禮立ノ夫人ハ實ニ侯ト共ニ傳フマキ女次夫ナリ
 蓋シ瑛士禮立カ蓋世ノ偉業ヲ建テ、絶代ノ奇才ヲ展ハセシ所以ノモノ
 ハ、夫人ノ内助、與リテ力アリ、夫人モ亦一世ノ傑女ナラヌヤ、
 瑛士禮立ノ婦マリト、アトシハ、元ト是レメイドストンノ代議士タリシ
 ウヰン、トハム、レウヰスノ夫人ナリシガ、レウヰス死スルコト及テ、侯ニ嫁
 セシナリ、時ニ千八百三十九年ナリ、夫人時年五十、侯ノ歳三十六、
 夫人ハ常ニ满腔ノ愛情ヲ以テ、其夫タル瑛士禮立ニ捧ケ、凡ソ夫ノ爲メ
 ト云ヘハ、毫モ心身ノ勞苦ヲ厭ハザリキ、夫人ハ素ヨリ著名ノ美人コシ
 テ、加フルコト、才智超群、應對流ル、カ如ク、當時交際社會ノ女王トマテ稱
 セラレタリ、左レハ侯ガ其内助ヲ得タルヤ、實ニ非常ニテ、侯自ラ常ニ夫
 人ノ徳ヲ稱賛シテ、左ノ如ク云ヘリ、

我ガ今日ノ如ク、榮譽ヲ負ヒ、聲望ヲ博シ、内閣總理大臣トマテナリシ
 ハ、實ニ夫人内助ノ力多キカ爲メナリ、

現ニ侯ガ、シビルテウ小説ヲ著ハセシ時ノ如キモ、侯ハ、之ヲ夫人ニ捧ケ
 卷首ニ、最精ノ批評家、最善ノ細君ニ捧ク、ト特筆セリ、

千八百六十八年、女皇陛下ヨリ瑛士禮立ヲ貴族ニ列スベシト仰アリシ
 時、瑛士禮立ハ、榮爵ハ、臣ノ望ム所ニ非ズ、何トナレハ、臣ハ、之ヲ拜受
 スルタケノ功アラザレハナリ、然レモ、陛下ノ恩寵優渥コレテ、若シ強弁
 テ臣ノ微忠ヲ賞シサセ玉ハントセハ、願クハ臣ノ妻ニ特恩ヲ下サセ賜
 ハシコトヲト、女皇之ヲ容レ、乃チ夫人ヲ封レテ貴族ト爲シ給ヒシカ
 瑛士禮立ハ、尙ホ依然タル平民ナリシ、而シテ夫人ハ、ハイカウシテス、ヒ
 ーコンスフヒルドテウ榮爵ヲ、身ニ帯ビタリ、

瑛士禮立ノ一タヒ演説ヲ試ムルヤ、議論横生、叱咤風ヲ生シ、恰モ積水ヲ
 千仞ノ壑ヨリ決スルカ如キ勢アリ、然レモ其演説ノ構思ヲ爲スニハ、沈

思冥想ノ後、精細ナル案ヲ草シ之ヲ夫人ニ草シテ批評ヲ乞フニ、夫人ハ
緻密ナル思想ヲ以テ精嚴ニ批評シ、侯ハ之ヲ見テ改竄潤色シ、然ル後、
始メテ腹案ノ完璧ヲ成スヲ常トセリ、又怪士禮立ガ、議院ニ入りテ演説
スルヤ、夫人ハ必ず傍聽席ニ入り、衆婦人ニ擬シテ、身ヲ欄外ニ出シ以
テ其演説ノ如何ニ注意セリト云フ、

夫人ハ侯ガ、議院ニ出ル毎ニ必ラズ馬車ヲ共ニシ、既ニ議院ノ門ニ入ル
ヤ、侯ハ議員扣席ニ入り、夫人ハ分レテ傍聽席ニ入ル、而シテ歸ル時モ亦
叔々相擁シテ車上ニ入り、一日議院ニ出ル時、侯ハ馬車ノ前面ニ座
ヲ構ヘシカバ、夫人ハ横キテ其後面ニ坐セントセシニ、窓ノ戸、落チテ夫
人ノ指ヲ壓セシカバ、夫人ハ痛ミヲ忍テ、一語ヲモ發セズ、指ヲ挾マレシ
マ、樂リ行キケルガ、途上、車輪ノ石ニ激スル毎ニ、一低、一昇、其痛殆ント
言フベカラズ、左レモ夫人ハ尙ホ堅忍シテ色ヲモ變セズ、終ニ議院ノ門
ニ達セシカバ、夫人ハ、漸ク摩察セシ指ヲ取り、快ヨク微笑シ、侯ニ分レテ

傍聽席ニ入レリ、夫人ガ此如ク心慮ヲ勞セシ所以ノモノハ、侯ガ車中沈
思シテ憲匠慘愴タル時、若シ其痛ミヲ云ハ、眞摯惻切ナル侯ハ、痛ク心
配レテ夫人ヲ慰ムベシ、果シ然ラバ、折角ニ侯ノ默考ヒシ構思ヲモ妨ク
ルカ故ニ、夫人ノ眞實親切ナル、斯クハ忍ビテ一語ダモ發セザリシナリ、
此夕侯ハ活潑壯快ナル演説ヲ爲シ、全勝ヲ得テ家ニ歸リ、始メテ夫人ガ
指ヲ痛メタルヲ知リシトゾ、

嗚呼マリー、アーン夫人ハ、何人ゾ、能クモ怪士禮立ヲ雌伏ノ日ニ知り、是
レゾ後來英國ノ政治界ニ雄飛スベキ俊傑ナリトテ、遂ニ其年齡ノ如何
ヲモ問ハズ、許多ノ財産ト、許多ノ名譽トヲ擧ゲテ、一ニ之ヲ當時落魄ナ
リシ、矯激ナリシ一平民怪士禮立ニ捧ケタル眼光コソ、實ニ驚服スベキ
ナレ、唯タ此一事、以テマリー、アーンノ人ト爲リ如何チ知ルニ足ルベシ
想フニ、侯ガ大英國ノ内閣總理大臣ト爲リシ時ニハ、夫人ノ喜ビハ、果シ
テ如何ナリシゾ、侯ガ伯林會議ニ於テ、列國ノ使臣ヲ叱咤シ、平和ト榮譽

トテ齋ヲシテ倫敦ニ歸リシ時ニハ、夫人ノ靈ハ、如何ニ喜バシク感ゼシ
ツ、(當時夫人ニハ已ニ)嗚呼マリイ、アーン夫人ハ賢婦人ナル哉。

第七章

堽士禮立ノ逸事及雜聞

堽士禮立身ヲ猶太ノ卑族ヨリ起シ、英國大宰相ノ地位ニ上リ、常ニ硬語
ヲ以テ歐洲ノ平和ヲ維キ、屹然トシテ一國ノ望ト爲ル、故ニ英人、俟テ稱
シテ之ヲ大壁ト云フ、
初メ堽士禮立、保守黨ノ候補者ト爲リ、議員タランコトヲ望ミ、四方ニ幹旋
スルニ當リ、愛蘭ノ俊士オーコンネル氏ガ、己レヲ助ケザルヲ恨ミ之ヲ
稱シテ——殘忍ナル反賊ナリ——ト公言セシカバ、オーコンネル氏之
ヲ聞キ、堽士禮立ヲ指シ——其行爲ハ、十字架上ニ磔セラレタル頑梗ナ

ル盜賊ノ嗣子ト稱スルコソ、適當ナルベシ——ト嘲リタリ、堽士禮立大
ニ怒リ、斷然、絶交書ヲオーコンネル氏ニ贈リテ決闘ヲ挑ミタリシガ、オ
ーコンネル氏之レニ應セザルヲ以テ果サス、然レハ堽士禮立、不平ナル
ヲ能ハス、其オーコンネル氏ニ贈レル書翰ヲ公ニシタリ、其中ニ云ヘル
コトアリ、曰ク

吾輩ハ、フイリビ——昔時羅馬ノ大將安息尼ノ不慮太士及ヒ加索斯
等ヲ破リテ以テ該撒ノ譬ヲ復セシ所ナリ——ニ會合スベシ、而シテ余
ハ足下ガ余ニ蒙ラシメタル耻辱ヲ雪クニキ機會ヲ得ンコトヲ欲ス
ト其後チ幾モナクシテ代議士ト爲レリ、

千八百五十九年二月、堽士禮立ハ、改革議案ヲ提出シ、——更ニ投票權ハ
區域ヲ擴充シ、且ツ財產ノ多少ヨリモ、學ヲ教育ノ厚薄ニ由リテ此權ヲ
附與センコトヲ——論ゼリ、其議案ハ國會ニ於テ否決セラレ、俟亦其職ヲ
退キグリト雖、千八百六十六年七月、ロードアルビーノ首相ト爲ル

及ビテ、侯亦大藏大臣ニ任セラレ、其改革議案モ亦異議ナシ實行セラレ
邑ニ於テ一家屋ヲ有シ、郡ニ於テ四十、シルリングノ借地稅ヲ收ムルモ
ノ、ハ總テ撰舉權ヲ有スルモノト制定セラレタリ、是レ實ニ孫士禮立ノ
偉功ニシテ最モ嘉ニスベキ事タリ、

孫士禮立ト俾士麥トハ、平生最モ親密ナル交ヲ結ビクリ、千八百六十二
年ノ事ナリキ、倫敦ニ於テ萬國博覽會ノ開設アリ、各國ノ皇族貴顯ハ皆
倫敦ニ集マリシガ、其中ニサクスハイルムル國ノ大公モアリシガ、露國
大使ブルノ一男爵ハ、盛大ナル宴會ヲ開キテ、大公ヲ饗シケルニ、來賓ノ
内巴里駐劄李漏士公使フオン、ピスマーシ、スクリンハウセン氏——即
チ俾士麥——モ亦列席セリ、俾士麥ハ、食事ヲ畢リタル後チ、孫士禮立ト
餘程ノ長談ヲ爲シ居リシガ、其後チ孫士禮立ハ、人ニ語テ曰ク——俾士麥
ハ、余ニ向ヒテ曰ク——余ハ近キカ中ニ、李漏士政府ノ總理大臣ノ重任
ヲ執ラザルベカラザルニ至ルベシ、然ル時ハ、余ノ第一ノ方畧ハ、國會ノ

諸否如何ニ拘ラズ、先ツ兵制ノ組織ヲ改良スベシ、抑モ兵制ノ改良ハ、國
皇ノ保有セル大權ナリト雖トモ、現時ノ内閣ニテハ、國皇モ其大權ヲ實
施シ給フヲ能ハズ、扱テ兵制ヲ改良シテ軍隊ノ威力ヲ要スル時ニ至ラ
ハ、先ツ第一ノ辭柄ヲ求メ、埃太利ニ向ヒテ開戦シ、獨逸聯邦ノ制ヲ破リ
テ、其小國ヲ征服シ、李漏士ノ方嚮如何ニ由テ、獨逸全國ノ統一ヲ圖ルベ
シ、余ハ密カニ此事ヲ英皇ノ内閣ニ告グルカ爲メ、來賓ニナリ——ト
云ヘリ、孫士禮立ハ、其方畧ヲ悉ク進メテ、遂ニ實行スルヲ察シタリト
見エテ、某氏ニ向ヒ——彼ノ男ニ注意セヨ、彼レカ口ニ言フ所ハ、即チ彼
レハ心ニ思フ所ナリ、
事ヲ知レルモノ哉、俾士麥ハ、亦孫士禮立ノ心事ヲ知レルモノ哉、兩雄ノ
肝膽、相映射ス畏ルベキ哉、

孫士禮立、嘗テ曰ク、
國ガガヲ中央亞細亞ニ遷ルニ、
國ガガヲ中央亞細亞ニ遷ルニ、
國ガガヲ中央亞細亞ニ遷ルニ、
國ガガヲ中央亞細亞ニ遷ルニ、

所辭
其知

ノ。ナラシ、露國ノ中央亞細亞ヲ經略スルハ當然ノ理ナリ、其之ヲ、經略スルハ當然ナルハ、我ガ英國ガ印度ヲ經略シタルハ、正理ナルガ如シト

聖士禮立ノ功於一
時不願遠水
長計故有此

聖士禮立又嘗テ曰ク、一人或ハ實地決シテ現出セザル所ハ危害ヲ豫想シテ己レハ生涯ヲ不愉快ニ爲スモハアリト政事家ノ斷ナリト謂フベシ

聖士禮立ノ言往々名斷アリ、然レモ大言人ヲ欺クモノ多シ、逆識者ニ非ザレバ恐クハ其能緒ニ陷ルルヲ免レザルベシ、是レ亦深ク察セザルベカラズ

附錄

維廉、義瓦爾特、額拉特斯頓ノ傳

額拉特斯頓ハ其術畧聖士禮立以下ニ位セル政事家タリ故ニ記者之ヲ百傑傳ニ挿入セズ、然レモ聖士禮立ト角逐シテ英國ノ政治舞臺ニ獨得ノ伎倆ヲ演出セルモノハ實ニ額氏ニアリ、額氏前後五十餘年、身ヲ以テ英國ノ安危ニ任シ、鞠躬盡瘁ノ志益々老テ益々壯ニ、愈々窮シテ愈々伸ブ、亦一世ノ雄ト稱スルコ足ル、故ニ今マ其言行ヲ掲ケテ聖士禮立傳ノ附録ト爲スト云フ

第一章

額拉特斯頓ノ系統、志行、生活及其氣象

維廉、義瓦爾特、額拉特斯頓ハ、千八百九年ヲ以テ、リバープールニ生ル

額拉特斯頓ノ系統、志行、生活及其氣象

父ヲ約翰額拉特斯頓ト稱ス、其先ハ蘇格蘭人ヨリ出ヅ、額拉特斯頓家ハ、世々商業ヲ營ミテ大ニ繁盛ニ赴キ、特ニ約翰額拉特斯頓ノ如キハリハーブル中屈指ノ豪富ナリキ、額拉特斯頓ノ母ハ、ストーリーノウヰーノマンドリウ、ロバードソン氏ノ女ニシテ、才能ニ富ミ、技藝ニ長セリ、或人書ヲ額拉特斯頓ニ贈リテ、其蘇格蘭人タルヲ辱シメケレバ、額拉特斯頓直ニ之ニ答テ曰ク——蘇國若シ其子孫ニ耻ツルヲナクンバ、子孫モ亦蘇國ニ對シテ耻ル所ナケン、余ハ余ヲ生ミタル父母ヲ思フ毎ニ、未タ嘗テ余ノ尿管中ヲ循行スル所ノ血液ガ、特ニ蘇格蘭ヨリ流出セルヲ喜ビ、之レニ謝セズンバアラス——ト

英國著名ノ政事家、カンコング氏ハ、頗ル奇僻アル人士ナリキ、常ニ一室中ニ坐シテ水面ヲ見詰ムルヲ數時間、人皆其非凡ナルニ驚カザルハナシ、曾テカンコングガミーフオールノ別墅ニ在テ、例ノ如ク水面ヲ見詰ムルヤ、當時池邊ニ一兒童アリ、沙礫ノ間ヲ馳驅シテ、遊戯ニ餘

念ナカリキ、是レ此兒童ハ、特拉特斯頓ニシテ、後來遂ニカンコングノ名ヲシテ不朽ニ垂レシメタル政事家ナラントハ、當時何人タリトモ思ヒ付カザリシナルベシ。

額拉特斯頓ハ、德行完備ナル清潔ノ君子ニシテ、其志望ノ高大純美ナル、其性格ノ正確溫粹ナル、他ニ其比ヲ視ザル所ナリ、額氏ガ數十年來、英國ノ政治世界ニ立脚シテ、正々堂々ノ議論ヲ主張シ、侃々諤々トシテ屈スル所ナク、常ニ斯民ヲ拯ヒ斯國ヲ護シテ、平和幸福ノ域ニ躋ラシメント努力シタル功績ハ、世界人士ノ善ク之ヲ知ル所ナリ、而シテ額氏ハ、其夫人ヲ敬愛シ、亦其兒孫ニ仁慈ニ、一家團圓、和氣洋洋トシテハ、ウーヰ——額氏ノ邸宅——ノ城頭ニ、一朶ノ瑞雲ヲシテ、靉靄タラシムルハ、是レ亦英國人ノ常ニ欽仰シテ措カザル所ナリ、此一點ヨリ、之ヲ評スレハ、額拉特斯頓ハ、其レ、范仲淹、郭子儀、流亞ナル歟、何ソ、其ハ善ク、身ヲ修メ、善ク、家ヲ治ムルヤ。

額拉特斯頓最初ノ志望ハ、全ク其身ヲ幽玄奧妙ナル哲學及ヒ宗教界ニ委セントスルコアリシナリ、然ルニ其父之ヲ止メ、必ズ額氏ヲ國會ニ出シテ國家有用ノ政事家ヲラシメント望ミシカハ、額氏其教ニ從ヒ、兼テノ志望ヲ放擲シ去レリト云フ。又額氏ノオクスフォールド大學ニ在ルヤ、曾テ書ヲ父ニ贈リテ、經典ヲ誦スルヲ好ミ、數學ヲ修ムルヲ喜ハズト云ヒケレバ、父之レニ復書シテ曰ク——爾ノ志ハ、誠ニ悲ムベシ、余ハ爾ノ望ヲ聞キテ悲ムニ堪ズ、大凡ソ數學ヲ知ラザルモノハ、何ツ人タルヲ得ンヤ、蓋シ數學也者ハ、之ヲ人事百般ニ應用シテ、實ニ其基本タルモノナリ、然ルニ今マ爾之ヲ修メズト云フハ、何ツヤ、爾果レテ之ヲ修ムルヲ能ハザル乎——ト細カニ數學ノ修メザルベカラザルヲ告ゲヌ、是ヨリ額氏奮然激勵シ、數學ヲ修ムルニ志シ、未タ幾ナラズシテ數學ヲ以テ嶄然其頭角ヲ露ハスニ至レリ。想フニ後來、額氏ノ大藏大臣トシテ當時——否殆ント古今ニ通シテ——英

國第一ト呼バレシモノハ、天稟ノ才能ニ由ルヲ多シトハ云ヘ、其實數學ヲ修メタルノ結果、此ニ至レルモノニ非ザルナキヲ得ン乎、左レハ額氏モ後チ屢々人ニ語リテ曰ク——余ノ初メテ數學ヲ修ムルヤ、唯父ノ心ヲシテ喜ハシメント欲スルノ外、更ニ一個ノ念慮ダモナカリシナリ、然レロ當時若シ父ノ志ニ從フノ意ナカリシナラシニハ、余豈今日ノ如クナルヲ得ンヤ——ト、實ニ名言ト謂フベシ。

曾テカントーブリー寺ノ寺長ニ空位ヲ生セシ時、額氏ハ、ベンソン氏ヲ舉ゲテ其候補者ヲラシムベシトノ説アリ、時ニ自由黨ノ土來リテ其不可ヲ争フ、額氏其故ヲ問ヒケルニ、其人曰ク——トルーローノ僧正、——ベンソン氏ヲ云フ——ハ過激ナル保守黨員ニシテ、且ツ向キニカンブリッジノ撰舉ニ於テ、閣下ニ對シテ、劇シク身上攻撃ヲ加ヘタル彼ノ反對黨員レーク氏ノ爲メニ盡力シタルモノナリ——ト、額氏曰ク——足下曾テ余ニ向ヒ、ベンソン氏ハ、高德ノ名僧ナリト賞賛

セシニ非ズヤ、足下ハ果シテ之ヲ記憶セザルヤ否ヤ、若シペンソン氏
ニシテ假令俗人ヲラシムルモ、豈スル輕卒ナル事ヲ爲サンヤ——ト
其人茫然シシテ退ク、額氏ハ襟懷脫灑、亦想フベシ。」

額拉特斯頓ノ生活ハ極メテ整齊ナル規則ヲ守リ、毎日午前七時ニ朝
餐ヲ喫シ、八時ニ歩シテ寺院ニ詣リ、歸リテ机上ニ推積セル文書ヲ閱
覽シテ其應答ヲ爲シ、右終リテ後、家族ト共ニ團樂シテ質素ナル小餐
餐ヲ爲ス、午後ニハ後庭中ヲ逍遙スルヲ數回、八時ニ晚餐ヲ喫シ、十時
ノ鍼鐘鳴リテ間モナク臥床ニ入ルヲ例ト爲ス、小餐餐ノ時ニハ強キ
麥酒ヲ飲ミ、晚餐ノ時ニハ葡萄酒及ビ「ボルト」酒ヲ、一二盞、傾ケ、煙草
ハ、少シモ之ヲ用ヒズト云フ。」

額氏ノ演說ヲ爲サントスルヤ、夫人自ラ綿密ナル注意ヲ以テ、シエリ
「酒ニ卵ヲ和レテ、之ヲ額氏ニ飲マシム、額氏之ヲ飲ムヤ否ヤ、長江一
瀉沿々タル雄辯ヲ以テ、巧ニ演說ヲ爲シ、毫モ差溢スル所ナシ、但シ近

年ニ至リテ、大ニ記憶力ノ減退セシヲ歎スト、雖ヒ其精緻、尋常人ノ
企テ及ブ所ニ非ズ。」

額氏ノ書ヲ讀ムヤ、毎時三冊ヲ控ヘテ彼此ヲ會得シ、之ヲ轉讀シ、其記
應スベキ箇所ニハ、一々鉛筆モテ標號ヲ付シ、異議アル箇所ニハ、×符
ヲ記シ置キ、且ツ讀ミ終リタル書籍ノ末ニハ必ズ記憶ヲ要スル所ノ
小引ヲ附記セリ。其思慮ノ周到ニシテ遺ス所ナキモノ、亦實ニ此ニ由
ル。」

額氏、其睡ント欲スル時ハ、直チニ睡リ、睡起ノ後、精神ノ活潑ニシテ智
力ノ顯敏ナル實ニ驚クベシ。蓋シ額氏ノ大ニ人ト異ナル所ノモノハ
其身ヲ椅子ニ凭セタルマ、ニハンケチーフモテ顔ヲ掩ヒ、眠ルヲ僅々三
十「セコンド」——半「ミニュート」——覺ムルヤ否ヤ、胸中爽然トシテ醉魔
拭フカ如ク、眼光爛々トシテ再々ヒ活潑壯快ナル事務ニ當リ、少シモ
倦厭スルノ色ナキニアリ、抑モ額氏數十年來、政治上ノ苦心ハ、世人意

料ノ外ニアリト雖モ、曾テ眠ラザルカ如キヲナシ。但シ、戈登將軍ノ事件ニ當リテ、少シク睡眠シ得ザリシコトアルノミナリト云フ。

第二章

額拉特斯頓ノ文章及其辯論演說

額拉特斯頓ハ、獨リ雄辯政事家ナルノミナラズ、亦實ニ巧妙ナル文學者ナリシナリ。額氏、幼時ヨリ已ニ文才ヲ以テ聞ユ、其十七歳ノ時、作レル一篇ノ文アリ、其中左ノ一節アリ、曰ク、

余カ現今ノ計畫ニ付キテハ、一灣正ニ前ニアリ、余ハ之レニ溺レンコトヲ恐ル、何ヲカ一灣ト謂フ乎、リイス是レナリ、又一流アリ、余ハ其流レニ逆ヒ難キヲ恐ル、一流トハ何ゾヤ、輿論是レナリ、余ハ勇進セリ、然レモ是レ實ニ妄進ナリシナリ。

Like little wanton boys that swim on bladders to try my fortune in a sea of glory.

But for beyond me depth.

余ヤ余ヲ學ヒ揚ラシムルモノハ、唯ダ希望心ノミ、直接ノ助ケヲ得ルコトハ多ク自己ノ勞力ニ由ル、而シテ文學上ノ地位ニ於テハ、勞其酬ヲ要セズ、此勞ナル自己ノ物ナルガ故ニ、何モ心配ニ及ハズ、唯ダ余ハ余ノ胸中ニ於テ、輿論ノ末流ニ漂蕩センコトヲ慮カルノミ、ニイートンミセフコト。

「フツナンナム新聞」曾テ曰ク、——額拉特斯頓ハ、温良ナル性質ヲ具シ、非凡ナル才能ヲ有セリ、我輩ハ、些少ノ過褒ヲモ爲サズシテ斷言セントス、氏ハ、他年、我カ英國議院ニ於テ最モ堪能ナル政事家ノ一ニ列スベシ、——ト或ル學者社會ノ人々會合セル時、某學士ハ曰ク、——余若シ英國政事家ノ列傳ヲ記スルコトアラバ、エドモンド、バーク氏ヲ推レ

テ第一ト爲レ、賴氏ヲ以テ其次ニ置カシト云ヒケルニ、一學士曰ク——否、余ハ賴氏ヲ以テ第一位ニ置キ、パーク氏ヲ第二位ニ置クノ適當ナルヲ知ル、此兩政治家ハ、實ニ多ク相肖タル所アリテ、特ニ其主義ヲ固守スルヲ政治上ノ運動ニモ、哲學的及ヒ神學的ノ思想ヲ持スルヲ辯護ニ熱心老練ナルヲ等ノ點ニ於テハ、勿論兩氏ノ間ニ其軒輊アルヲ見ズト雖モ、賴氏ハ、演說討論ニ於テパーク氏ニ優レリ、又家ニ於テモ、議會ニ於テモ、學會ニ於テモ、教會ニ於テモ、亦無學ナル州郡ニ於テモ、其演說ノ聽衆ヲシテ感動セシムルヲ、兩氏ノ間ニ優劣アルヲナシ、パーク氏ノ演說筆記ヲ讀メバ、我輩ハ、實ニ大ニ感覺スルヲアリ然レモ、パーク氏ノ演說中ノ第一演說ナリト稱スル——彼ノ米國革命ノ頃、パーク氏ガ、英國議院ニ於テ演說シタル時ハ、議員ハ、大抵椅子ヲ離レテ戶外ニ立テ去リシガ故ニ、議場ハ寂寞タリシト云フニ非ズヤ、パーク氏ハ、亦グラスゴ―大學ニ於テ講談セル時、大ニ學生ヲノ倦

厭セシメタリト云フニ非ズヤ、然ルニ賴氏ノ講談ハ、果シテ此ノ如キ事アルベシト想像スルヲ得ル乎、賴氏ハ、巧ニ瑣細ナル事ヲモ處分シ、亦大ナル主義ヲモ包括スルノ量アルハ、パーク氏ニ優レルモノナリト謂ハザルベカラズ、且ツ賴氏ハ、索然興味ナキ財政上ノ統計問題ニ就テモ、衆議員ヲシテ、耳ヲ傾ケテ謹聽セシムルニ足ルト雖モ、パーク氏ハ、斯ル伎倆ナシ、是レ蓋シ賴拉特斯頓ノ獨自特得ノ長技ニシテ、パーク氏以下、世人ノ遠ク及バザ所ナリ——ト

約翰・布雷士ノ卒スルヤ、賴氏ハ、英國下議院ニ於テ、左ノ如キ吊詞ヲ述ベラル、其文ニ曰ク、

——「ライトオノレーアル約翰・布雷士ハ、實ニ幸福ノ時ニ於テ、吾人ニ先ナテ逝ケリ、君ハ君ガ心血ヲ注ギテ經營セル大事業ノ總テ生前ニ於テ、其勝利ヲ奏セルヲ見タリ、君ハ我が全國中ノ最上者ヨリモ、無識者ヨリモ總テ欽仰ヲ受クベキ材料ヲ作りタリ、余カ特ニ

感服シ、亦特ニ稱頌セント欲スル所ハ、君ガ高尚ナル獨立ハ人物ニ
シテ、生涯一タビモ曇リヲ受ケシトナク、亦何物コレモ此獨立ハ一
分一釐ヲモ殺シテ能ハサルコアリ。

凡ソ人ナレバ感服セシムベキ資性ハ頗ル多シ、然レ此ノ如ク一
人——布雷士氏——ノ上ニ多ク聚マリシハ、稀レナル幸福ナ
リ、余ハ君ノ資性ヲ一箇ツ、陳述スルモ、世界ヲ驚スコ足ルベキ
美妙ノ肖像ヲ作り得ハシト信ズ、况ンヤ其淡泊ナル其堅固ナル其
不撓ノ勇氣、其不磨ノ節操ハ、總テ吾人ニ明鑑ヲ示シ、訓誡ヲ垂レ、吾
人ナシテ一種高尚ナル空氣中ニ躋ラシムルカ如キモノアルヲヤ
君ノ俠氣ハ、管ニ強盛ナルノミナラス、終始意盈チ氣足リテ、之ヲ用
ユル時ヲ俟ツノ俠氣ニ非ズ、雄辯ト勇氣トヲ以テ強力ナル助ヲ與
フベキノ場合ヲ求ムル俠氣ナリ、君ハ愛蘭ヲ助クルモノ少ナキ時
ニ當リテハ、愛蘭ノ爲ニ、又印度ノ土人ヲ助クルモノ、最モ少ナキ時

ニ當リテハ、印度ノ爲ニ、又千八百六十一年、米國大戦争ノ破裂セシ
ニ先見シテ、當時國民多數ノ意見ナリシニモ拘ラズ、學者社會ニ
贊成者甚タ少カリシ意見ヲ主張シタル時ニ當リテハ、米國ノ爲ニ
君ハ、我カ身ノ是非爲ササルベカラスト云フ境ヲ超エテ踏込メリ、
總シテ諸厄路撤避民族中ノ一人トシテ、君ノ感覺ニ觸レ、又一ノ問
題トシテ君ノ感覺ニ觸レシモノハ、求メズシテ君ノ精神ヨリ出ツ
ル熱心ノ助カヲ得ザルモノハナカリキ。

何事ニテモ、君ノ強力ナル贊成ヲ受ケシモノハ、著ルシク、世界ノ贊
稱ヲ受ケ、亦著ルシク全勝ノ道ニ進メリ、左レハ其勝利ノ巧チ嘆美
スルヨリモ、君ハ、今一層ノ嘆美ヲ受ケタリキ、蓋シ其勝利ヲ得タル
君ノ如キモノハ、稀ニシテ、亦其智力モ非凡卓越ナリシナリ、然レ
モ君ノ品格ハ、口ヨリ顯ヘレ、身ヨリ顯ハル、モハヨリモ、遙ニ深處
ニ在テ存ス、君ニ對スル適切ナル贊稱ハ、君ガ政事家ノ境界ノ品格

チハ、其最モ高尚ナル所マデ、——從前ヨリモ一層高尚ナル水平線
上ニ躋ラシメタルト是レナリ。君ハ實ニ一個ノ人物ヲ與ヘタリ。此
人物ハ、唯ダ欽仰ノ標頭ト爲ルベキ人物ナルノミナラズ、——余ハ
強ク之ヲ誇張スルニ非ザレド——實ニ尊崇スベキ位ヲ有セル人
物ナリトス。諸方ヨリ來ル稱賛ノ辭ハ、異口同音、一點モ異ナル所ア
ルヲ見ズ。余ハ、余ノ時代ノ政事家ニシテ、浮世トノ離別——死——
ニ斯ノ如ク稱賛ヲ得タルモノアルヲ知ラス。然リト雖モ、如何ナル
稱賛ノ辭ニテモ、到底、君ニ對シテ盡スベキモノヲ盡スル能ハザル
ベシ。何トナレハ、君ガ生前ノ功業ハ、君ノ國及ビ其國ノ人民ガ早ク
已ニ其配録ニ存シタル功業ニシテ、君ノ名ハ、特筆シテ當時ノ歴史
ト、君ガ同胞タル大民族——君ガ其廣ク増殖スルヲ見テ、喜ビ、又其
勢力ヲ得テ、一般人類ニ最上ノ利益ヲ與フルノ名譽ヲ得ベキ望十
分ナルハ、君ノ信シテ疑ハザル所ノ此大民族ノ心情ニ存シテ決シ

テ、消滅スルコトナケレハナリ——

獨立高潔ノ君子、布雷士ヲ吊スルコトハ、此ノ妙舌ナカルベカラズ、嗚呼
八十ノ老叟ニシテ、此ノ如キ清麗絶妙ナル辯ヲ有セリ、是レ殆ント天
授ニシテ、人力ニ非ザル也。

頤氏、初メ、「イートン」大學及ビ、「オクスフォード」大學ニ入りテ、其教育ヲ
受ケ、特ニ、「オクスフォード」大學ニ於テハ、最モ榮譽ナル卒業ヲ爲セリ、
然レモ、後年ニ至リテ、頤氏ハ云ヘリ、曰ク、——往時余ガ、「オクスフォード」
大學ニ在リシ日ヲ追思スレハ、實ニ大ナル欠點アリキ、思フニ是レ
余ノ過乎、然レモ余ハ、「オクスフォード」大學ハズシテ、其後ニ至テ學ビ
レモノアリト云フベシ、其學ビタルモノトハ何ゾヤ、人權ノ不磨ノ道
理ニ、適當ノ價值ヲ付スルコト是レナリ。概シテ之ヲ云ヘハ、學校内ニテ
ハ、猜忌ヲ以テ自由ヲ待ツコト一般ノ例ニシテ、未ダ心頭ヨリ恐懼ノ念
ヲ去ルコト能ハズ、保守黨ノ主義ハ、蓋シ自由及ビ人民ヲ猜忌スルモノ

コシテ、即チ恐懼ニ由リテ成リシモノナリ、自由黨ノ主義ハ、即チ人民ノ信任ニ出デレモノニシテ純粹ナル智力ニ由テ成レルモノナリ、余ハ斷言ス、余ハ今マ、人權伸暢ノ議場ニ立ツモノナルガ故ニ、近日出ヅベキ憲法ノ擴張ニ向ヒテハ、余ハ聊モ恐懼スルコトナク、進ミテ之ヲ取ント欲ス、而シテ余ガ、古人ヲ敬スルコトハ、猶ホ余ガ他ノ政論ヲ唱ベレ時ニ劣ルコトナカルベシ、何トナレハ、赫々タル榮譽アル改革ハ、我が祖先ガ吾人子孫ニ遺傳シタルモノナレバナリ、余ハ已ニ人權ノ上ニ眞成ノ價值ヲ付スベキコトヲ知ル、余ガ改革セルモノ、豈其理由ナカラシヤ——ト史家リツチー氏之ヲ評レテ曰ク——賴氏ノ言ハ、美コシテ光アリ、賴氏ガオクسفオード大學ニ在ルヤ、其眼光唯ダオクسفオードニ屬シ、オクسفオードノ見識ヲ以テ、オクسفオードノ思想ヲ以テ、發言セリ、賴氏ノ生涯中、眞成ナル教育ハ、眞ニオクسفオードヲ去レル日ヨリ始マレリ——

埜士禮立ノ演說ハ、論鋒天矯コシテ、痛快ナリ、其奔逸セルコト、天馬ノ空ニ翔ルガ如ク、其飄忽ナルコト、秋鶴ノ天ニ沖ルガ如ク、賴拉特新頓ノ演說ハ、喬岳長江ノ如ク、正々堂々、向フ所前ナク、周緻精妙、寸毫モ餘ス所ナク、一分モ假ス所ナク、名優ノ技ヲ演スルガ如ク、良將ノ兵ヲ弄スルガ如ク、兩雄同時ニ出デ、同時ニ力ヲ政治世界ニ争フ、亦一世ノ壯觀ナラズヤ——

賴翁ノ内治策ハ、得タル所アリ、然レモ其外交ハ、略ニ至リテハ、記者未ダ之ニ感服ノ意ヲ表スルコト能ハズ、但ダ其身議院ニアルコト五十有五年、年已ニ八旬ニ垂ントスル身ヲ以テ、機智敏活、巧ニ改進黨ヲ籠蓋シ、眼光鎚錐ノ微ニ微ニ、氣力千軍万馬ヲ叱咤セントスルコト至リテハ、亦驚嘆スルコト餘リナラズヤ、記者曾テ賴氏ノ愛蘭自治案ノ爲ニ敗北シタリシ時ノ作アリ、其詩ニ曰ク、

自治何能致合同。老翁一敗苦心空。元知收攬英雄術。不在區々議案

中、

一者投機策亦奇。任他新論招群疑。丈夫何必問成敗。我自得之還失之。

巴米爾斯頓^{Barmlston}ハ年七十コシテ始メテ政黨ノ首領ト爲リシガ頓翁ノ氣力雄壯亦之ト相角スルニ足ル。

第三篇

兵家——火鐵的社會

武田信玄ノ傳

第一章

信玄ノ系統、志行及其歷史

日本足利氏ノ末世、豪傑割據シ、英雄吞噬シ、各々其ノ智勇ヲ角シ、互ニ其雄長ヲ爭フ、是時ニ當リテ、依歸ノ器ヲ有シタル英雄ニハ、豐臣秀吉アリ、英明ノ才ヲ兼テタル政事家ニハ、徳川家康アリ、經畧ノ智ヲ備ヘタル兵家ニハ、織田信長アリ、而シテ織田氏ト駢立シテ、最モ用兵ノ術ニ長ケタルモノハ、武田信玄其人ナリ。

武田信玄ハ、源義光ノ後裔ナリ、父信虎、駿河ノ豪族久島某ト戰ヒテ、之ヲ勝ツ、此日ヲ以テ男子ヲ生ム、即チ信玄ナリ、信玄初ノ名ハ、勝千代、長スル

ニ及ビテ晴信ト曰ヒ、後チ薙髮シテ信玄ト號ス、信玄幼ヨリ岐嶷、狀貌魁傑、沈毅ニシテ權畧アリ、信虎少子信繁ヲ鍾愛シ、晴信ヲ廢セントス、晴信之ヲ知リ、故ヲ疑、駿ノ狀ヲ爲シ、以テ自ヲ韜晦シ、竊カニ駿河ノ國主今川義元ト相結托セリ、義元爲メニ將軍足利義晴ニ請ヒ、晴信ヲ以テ嫡嗣ト爲シ、首服ヲ加ヘ、大膳大夫兼信濃守ニ任セラル、實ニ天文五年三月ナリ。

是時信虎、狂暴日ニ甚シク、賞罰度ナシ、國人之ニ苦マザルハナシ、晴信乃チ陰カニ老臣飯富兵部、板垣信形ト相謀リ、益々今川氏ニ結ビシガ、義元モ亦信虎ノ強亢ニ苦ミケルヲ以テ、晴信ヲ助ク、已ニシテ信虎、晴信ヲ駿河ニ逐ント欲シ、因テ之ヲ飯富氏ニ託シテ、自ラ駿河ヲ適キ、之ヲ義元ニ謀リケルコ、義元乃チ信虎ヲ留メテ、之ヲ國ニ返サズ、晴信因テ甲斐ニ自立スルヲ得タリ、實ニ天文七年五月ナリキ、
四隣甲府ノ變ヲ聞キ、其隙ニ乘セントス、信濃ノ士民、多ク去リテ村上義

清ニ附セリ、時ニ諏訪城主諏訪頼茂、深志城主小笠原長時、兵一万ヲ令テ來リ攻ム、晴信、騎將原加賀ヲ留メ、自ラ六千人ヲ率テ、之ヲ韭崎ニ拒キレガ、加賀府中ノ農商五千人ヲ募リ、一人毎ニ一紙旗ヲ執ラシメ、鼓蹶シテ出テケレハ、敵軍忽チ退走セリ、

十一年義清、長時、頼茂、木曾義高ト信濃ノ兵ヲ擧ゲテ來リ攻ム、諸將危懼ノ色アリ、晴信曰ク——四人合縱セハ、議必ズ一ナラズ、一戰シテ之ヲ破ルベキ也——ト四氏ノ軍進ミテ境内ニ入ル、晴信、夜霧雨ニ乘リテ之ヲ攻撃シ、果シ大ニ之ヲ敗ル、四氏再舉、平澤ニ至リレガ、晴信又擊テ之ヲ破レリ、

已ニコシテ晴信、其臣山本晴行ノ計ヲ以テ信濃ノ九城ヲ取ル、十三年板垣信形ノ計ヲ以テ諏訪頼茂ヲ誘殺シ、其女ヲ納レテ妾ト爲シ、明年男勝頼ヲ生ム、初メ晴信長男義信アリ、以テ嫡嗣ト爲ス、乃チ勝頼ヲシテ頼茂ノ後チ繼カシメタリ、

十四年、晴信、小笠原長時及ヒ伊奈氏ト、塩尻嶺ニ戦ヒ、擊テ之ヲ破ル。十五年三月、戸石城ヲ攻メ、レガ村上義清兵六千ニ將トシテ來リ、搦テ、晴信、晴行ノ計ヲ以テ、進環レテ之ヲ破ル。——是時上杉氏ノ將士、甲斐ノ兵、戸石ニ疲弊スルト聞キ、二万騎ヲ率ヒテ、碓石嶺ヲ險ニ、晴信、信形ヲレテ之ヲ拒カシメ、自ラ之ニ繼キ、擊テ復テ之ヲ破ル。此役、幸田幸隆及ヒ其子昌幸、最モ功アリ。

晴信又幸隆ノ計ヲ用ヒテ、村上義清ノ精兵ヲ破ル。十六年八月、晴信志賀城ヲ取ル。義清軍ヲ上田原ニ出シ、甲ヲ悉シテ襲撃セシモ、終ニ敗績セリ。十八年八月、晴信地ヲ上野ニ略シ、又小笠原長時ト、諏訪原ニ戦ヒテ之ヲ走ラス。十九年、晴信、今川義元、北條氏康ト、連和シ、尋テ駿ヲ削リテ、信玄ト號ス。

信玄連リニ村上義清ヲ攻メ、又高梨須田、島津氏ヲ攻ム。二十二年、盡シ川中島四郡ノ地ヲ略セシカハ、義清等、勢支フルコト能ハズ、上杉謙信ニ依

リテ援テ乞ヘリ。

二十二年十月、上杉謙信、兵ヲ小田原ニ治メ、八千騎ニ將トシテ、信濃ニ入り、進テ川中島ニ陣シ、信玄ト戦フ。二十三年五月、信玄小笠原長時ト、桔梗原ニ戦ヒ之ヲ降ス。長時終ニ京師ニ奔ル。信玄女ヲ以テ北條氏康ハ、婦ト爲シ、長子義信ノ爲ニ、今川義元ハ、女ヲ娶ル。是ニ於テ二氏相共ニ、武田氏ハ、翼ケテ以テ謙信ヲ、拵ク。

八月、謙信、信玄ト大ニ犀川ニ戦フ。弘治元年四月、信玄木曾義高ヲ攻メテ之ヲ降シ、女ヲ以テ之ニ妻ハス。二年、伊奈郡ヲ取リ、盡ク信濃ヲ定メ、高坂昌宣ヲ以テ、貝津城ヲ守リ、以テ謙信ヲ禦カシム。

三月、謙信復テ信玄ト河川中島ニ戦フ。己ニシテ和成ル。永祿四年、信玄復テ謙信ト戦フ。六年、信玄兵ヲ上野ニ出シテ、義輪、松枝諸城ヲ取リ、又飛騨ヲ略シ、其豪族江間常陸ヲ降ス。白谷氏、款ヲ謙信ニ納ル。謙信是ニ於テ、信玄ト飛騨ヲ分領セリ。

信玄不知長計
使家康信長
謀於中原

是時、當テ、織田信長、將軍義昭ヲ擁レテ、京師ニ入り、遂ニ近畿ニ略定レ、
 頼ニ強盛ト爲ル、然レモ信玄、謙信ノ二雄ノ、其後ヘテ、踐ソコト恐レ、百方
 意ヲ傾ケテ、信玄ニ結ビ、諸信ヲ控ヘント欲シ、使幣、甲斐ニ相題シ、信玄其
 意ヲ知リ、益々其兵ヲ西ニシ、信長ヲ圖ルノ志アリ、信長之ヲ患ヒ、乃チ其
 季子秀勝ヲ送リテ、質ト爲シ、女ヲ以テ勝頼ニ妻ハレ、信勝ヲ生ム、長子義
 信、讒死セラル、コ及ビテ、信勝ヲ立テ、嫡嗣ト爲ス、信勝ノ母死ス、信長
 又、其子信忠ノ爲ニ、信玄ノ女ヲ娶ソコトヲ請ヒケレハ、信玄乃チ織田氏ト
 婚シ、今川氏ト絶ツ、是レ信玄ノ失計ナリ。
 十一年、十二月、信玄、兵ヲ引テ、駿河ニ入り、八幡坂ニ軍セシガ、北條氏眞兵
 ヲ率テ之ヲ清見寺ニ拒キ、軍價エテ府中ニ歸リ、遂ニ掛川ニ走ル、信玄之
 チ攻メントセシモ、氏康ノ來援ヲ慮リテ、軍ヲ府中ニ止メリ、已コレテ氏
 康果レテ大軍ヲ率テ來リ、駿河ヲ爭フ、信玄、兵ヲ留メテ府中ヲ守リ、自
 ヲ與津ニ軍ス、氏康、薩埵山ニ軍シ、相持シテ決セズ、十二年、六月、信玄、駿河

ニ出テ、遂ニ伊豆ニ入り、鳴島ニ軍ス、會々大雨流潦、陣ヲ浸セシヲ以テ、引
 キ返リ、九月、兵ヲ八王子ニ下シ、敵ノ城邑ノ下ヲザルモノヲ攻メ、過キテ
 南ニ向ヒ、小田原ニ入り、火ヲ城下ニ縱テ、十月、引キ返ル、十一月、急ニ駿河
 ヲ出テ、九城ヲ拔キ、レガ、彌リ、蒲原下ヲザルノミ、信玄府中ニ赴クト宣言
 シ、兵ヲ城傍ノ山中ニ伏セテ、西ニセリ、敵城ヲ空シシテ之ヲ追フ、伏兵
 起テ之ヲ攻メ、城ヲ拔キ、遂ニ府中及ヒ諸城ヲ陷ル、是ニ於テ、徳川氏ト
 大井河ヲ割キテ、界ト爲シ、其隣交ヲ修ム、是レ亦信玄ノ失計ナリ。
 元龜元年三月、信玄、徳川家康ト隙ヲ生シ、相絶シ、是冬、氏政ノ和ヲ納ル、而
 レテ織田氏ノ聘問益々厚レ、時ニ、氏康病ヲ卒シ、氏政和ヲ信玄ニ請フ、將
 士皆曰ク、之ヲ許スコト勿レ、喪ニ乘レテ之ヲ擊チ、尽ク其地ヲ取ラ、ハ
 謙信ト雖モ、支ユルコト能ハザルベシ、ト信玄曰ク、吾夙ニ兵ヲ東
 海ニ出シ、海ヲ並テ西ニシ、旗鼓ヲ京師ニ建テ、ト欲ス、事成ラハ、死スレ
 ハ、憾ナケン、嚮ニ隣人アリ、我ガ脉ヲ診スルニ、當ニ篤疾ニ罹ルベシ、吾レ

關東ヲ經營シテ中道ニ疾作ル志成ルベカラズ信長吾輩ノ西ニセザルコ乗シ家康ヲ以テ我カ西面ニ當ラシメ陰ニ之ヲ助ク其計狡ト聞フベシ我レ氏政ト和シ西ノ方信長ヲ征セント欲スト其和ヲ賭シ氏政ノ質ヲ納レ氏眞ヲ逐ハレム

二年二月信長兵ヲ引テ東ニ出テ遠江ニ至リ高天神城ヲ攻メ四月三河ニ入り八城ヲ陷ル徳川氏出テ之ヲ援ヒシガ甲斐ノ陣嚴整コレヲ犯スベカラザルヲ見テ敢テ接戦セズ已コレテ徳川氏兩使ヲ發レテ好ヲ謙信ニ通ジ誓書ヲ載セ信玄ヲ夾撃センヲ請フ村上義清ノ子國清越後ニアリレガカメテ之ヲ贊成ス三年四月謙信万人ニ將トレテ信濃ニ出テ火ヲ長沼ニ縱テ遂カニ徳川氏ノ聲援ヲ爲ス勝頼伊奈ニ在リ警ヲ聞キ兵八百ヲ以テ赴キ拒ク謙信曰ク彼レ肯テ寡兵ヲ以テ我ニ當ル真ニ信玄ノ兒タルコ愧ナス吾レ其勇ヲ成スベシト兵ヲ引キテ退ル

十月信玄復々遠江ニ出テ二敗城ヲ拔ク信長潛カニ兵ヲ遣ハレテ徳川氏ヲ援ケシム十二月信玄進マテ三形原ニ陣シ濱松城ニ逼リ火ヲ城下ニ縱ナテ戰ヲ挑メ兵出テズ信玄伴リ退キレガ城兵之ヲ見テ大ニ出ツ上原能登小山田昌行ニ謂テ曰ク徳川氏ノ陣單ナリ織田氏ノ旗動ク敗ルベキ也ト昌行之ヲ信玄ニ告ケケレハ信玄乃テ旗ヲ返シ昌行勝景及ヒ山縣昌景馬場信房ト先鋒タリ昌行昌景先ツ合シテ部キ勝景信房之ヲ承ケテ麾下ヲ衝ク信玄又米倉丹後ヲ遣ハシテ間道ヨリ横撃シテ大ニ破ル諸將遂ニ濱松ヲ攻メンヲ請フ高坂昌宣曰ク不可ナリ我之ヲ攻ムルニ二旬拔ケズンハ信長必メ大舉シテ來リ扱ハン相持スルヲ數月コシテ謙信信濃ニ出ツルハ我レ還リ救ハザルヲ得ズト信玄乃テ退キテ刑部ニ次ス

天正元年正月信玄野田城ヲ拔キレガ疾作リテ歸ル信長將軍義昭ニ請ヒ信玄ニ諭シテ兵ヲ弭メシム信玄之ヲ辭シ信長ノ五罪ヲ訴フ二月秋

山崎近シテ岩村城ヲ勝降セシム、城將ノ妻ハ信長ノ始ナリ、晴近奪ヒ
 テ之ヲ納ル、三月信玄疾愈ニ復タ發シテ曰ク、——此行、必ラス京師ニ入
 ラン——ト兵三万ヲ督シテ美濃ニ出ツ、信長万人ヲ以テ之ヲ拒キレガ
 山縣昌景八百騎ヲ以テ之ヲ馳驅ス、信長戰ハズレテ走り、和ヲ乞フニ益
 ヲカム、信玄聽カス、轉シテ三河ニ入り、平谷ニ次ス、四月疾復タ作り、自ラ
 起タザルヲ知リ、諸將ヲ召シテ後事ヲ屬シ、勝頼ヲシテ衆ヲ攝シ、信勝ノ
 長スルヲ俟タシム、之ヲ戒メテ曰ク——汝ヲ慎テ、兵ヲ弄シテ以テ我國
 ナ亡ボスヲ勿レ、吾死セハ、天下獨リ一謙信アルノヨ、汝和ヲ請ヒ、國ヲ以
 テ之ニ托セヨ、彼レ一タヒ汝ノ託ヲ受ケハ、必ズ隣國ト合シテ以テ汝ヲ
 侵サ、ルベシ——ト言畢リテ昏迷ス、已ニコレヲ、山縣昌景ヲ呼ビテ曰ク
 〓明日汝ノ旗ヲ瀬田ニ樹ヨ——ト澁然トシテ逝ク、年五十三、諸將遺命
 以テ喪ヲ秘シ、信玄ノ弟信綱ノ狀貌信玄ニ肖タルヲ以テ昏夜ヲ以テ
 四方ノ使者ニ延見セシム、信玄又豫シメ空頭花押數百紙ヲ具レテ以テ

謙信知信玄心
 事信玄亦知謙
 信心事共可謂
 快調丈夫矣

書問ニ備ヘシカハ、四隣肯テ來リ犯スモノナカリシト云フ。

天下、信玄ノ死ヲ聞キテ皆賀ス、北條氏政使ヲ馳セテ、之ヲ謙信ニ告グ、謙
 信食スルニ方リ、箸ヲ合テ、欺レテ曰ク——我が好敵手ヲ失セリ、世間復
 タ此英雄男子ア、フンヤ——ト因テ涕淚潸然タリ、
 徳川家康モ亦信玄ノ死ヲ聞キ嘆シテ曰ク——信玄兵法ヲ研究シ、幽
 指ノ向フ所、敵ナシ、故ニ常ニ欽慕シテ言ク、信玄ハ我師ナリト、今ヤ澁
 然トシテ逝ク、良ニ惜ムベシ、——ト蓋シ當時信玄ノ死ハ、天下ノ大勢
 如何ニ關スルヲ、實ニ少小ナラザリシ、信玄死シテ、信長始メテ志ヲ天
 下ニ伸ブルヲ得タリ、

第二章

河中島ノ戦況

河中島ノ戦況

事到、鄧門、須、與、奪、基、遂、敵、手、定、唯、黃、——嗚呼、信、玄、ト、謙、信、ト、ハ、實、ニ、一、代、
 ハ、名、將、ナ、リ、兩、將、同、時、ニ、生、レ、各、々、其、伎、倆、ヲ、爭、フ、猶、ホ、双、龍、ハ、珠、ヲ、爭、フ、コ、
 異、ナ、ラ、ズ、信、玄、正、ヲ、以、テ、ス、レ、ハ、謙、信、奇、ヲ、以、テ、シ、謙、信、虛、ヲ、以、テ、ス、レ、ハ、信、
 玄、實、ヲ、以、テ、シ、信、玄、週、ヲ、以、テ、ス、レ、ハ、謙、信、敏、ヲ、以、テ、ス、謙、信、ノ、膽、天、ノ、如、ク、
 信、玄、ノ、智、海、ノ、如、ク、信、玄、ノ、眼、光、三、軍、ノ、外、ニ、逸、シ、謙、信、ノ、義、氣、萬、夫、ノ、心、ヲ、
 感、セ、シ、ム、實、ニ、一、時、ノ、奇、觀、ヲ、極、メ、タ、リ、
 上、杉、謙、信、カ、村、上、義、清、ノ、請、ニ、應、シ、テ、兵、ヲ、小、田、濱、ニ、治、メ、八、千、騎、ニ、將、ト、シ、
 テ、信、濃、ニ、入、リ、信、玄、ト、戰、ハ、ン、ト、レ、タル、ハ、天、文、二、十、二、年、十、月、十、二、日、ナ、リ、
 キ、是、歲、十、一、月、朔、謙、信、更、ニ、武、田、氏、ト、戰、ハ、ン、ト、欲、ス、進、ヲ、河、中、島、ニ、陣、セ、
 リ、是、レ、ヲ、兩、雄、對、陣、ノ、始、ト、爲、ス、信、玄、此、報、ヲ、聞、キ、援、兵、ヲ、今、川、氏、ニ、請、ヒ、步、
 騎、二、萬、ニ、將、ト、シ、テ、兩、宮、渡、ニ、出、テ、山、本、晴、行、等、ヲ、シ、テ、之、ヲ、規、ハ、レ、ム、晴、
 行、返、リ、報、シ、テ、日、ク、——北、軍、ノ、銳、氣、甚、ク、盛、ナ、リ、宜、シ、ク、厚、ク、其、陣、ヲ、築、メ、
 戰、ハ、ズ、シ、テ、之、ヲ、屈、ス、ベ、シ、——ト、信、玄、之、レ、ニ、從、ヒ、兩、軍、水、ヲ、挾、ミ、テ、陣、

相持スルヲ二十七日ニ至ル、謙信乃チ使者ヲ遣ハシ、之ニ告ケテ曰ク、
 吾聞ク、公ノ兵ヲ用ユルヤ、向フ所留陣ナシ、而カモ何ゾ我ト決戰セザル
 ヤ、我レノ公ニ於ケルハ、怨仇アルニ非ズ、特ニ義清輩ノ爲メナルノミ、敢
 テ問フ、公何ヲ以テ彼ノ地ヲ奪ヒタル乎、公、我ト戰フヲ欲セザレハ、請
 フ地ヲ彼ニ還スベシ、苟モ地ヲ還スヲ欲セザレハ、來リテ吾ト戰ヘヨ
 ——ト、信玄答テ曰ク、——公義清ヲ庇スルハ、真ニ高義タリ、然レモ晴信
 ニシテ未ク死セザレハ、公志ヲ成スヲ能ハザルベシ、公戰ヲ欲スレハ、公
 ヲリ始メヨ、——ト、謙信曰ク、——諾セリ、——ト、乃チ議ヲ決レテ、詰朝會
 戰センコトヲ約シ、即夜傳發、七隊ヲ以テ合シテ圍陣ト爲シ、橋ヲ度リテ進
 ム、信玄十四隊ヲ勒レ、迎ヘ戰ヒ、卯ヨリ未ニ至ルマテ橋ヲ爭ヒテ相角逐
 レ、勝敗決セズ、謙信兵ヲ分テテ上流ヲ渡リ、甲斐ノ軍後ニ出テシカバ、甲
 軍披靡シテ退キ、横田源助、板垣三郎等及ヒ駿河ノ七將、皆戰死セリ、而シ
 テ越後ノ軍モ亦死傷多ク、遂ニ軍ヲ引キテ歸ル、是ヲ信玄、謙信ノ初戰ト

爲ス。

廿三年八月、謙信復々八千騎ヲ率テ信濃ニ入ル、曰ク——此行ヤ、必ズ
 信玄ト親戰シテ、雌雄ヲ決センノミ——ト進ミテ犀川ヲ渡リテ陣セリ、
 信玄二万人ヲ以テ出テ、之ト對シ、壘ヲ固クシテ出テザリシガ、謙信村上
 義清等ヲシテ、夜兵ヲ伏セシメ、拂曉樵者ヲ出シテ甲軍ニ逼ラシム、甲軍
 出テ、之ヲ追ヒシガ、忽チ伏ニ陥リテ退ク、諸隊尋テ出テ、共ニ戰フ、終日十
 七台、迭々勝敗アリ、信玄潛ニ垣ヲ屏川ニ張リテ渡リ、旗幟ヲ伏シ、蘆葦叢
 裡ヨリ直チニ謙信ノ麾下ヲ襲ヒケレハ、麾下潰散シテ逃ル、信玄勝ニ乘
 レテ進ムニ當リ、敵將宇佐美定行等、手兵ヲ以テ横撃シテ之ヲ拒キ、將ニ
 之ヲ河中ニ擠セントス、信玄數十騎ト走ル、忽チ見ル、一騎黃襖白馬、其勢
 雲ヲ穿ツノ俊、鶴ノ如ク、白色ノ布ヲ以テ顔色ヲ包ミ、其手ニ携ヘタル劍
 光ハ陸離トシテ目ヲ奪ヒ、紫氣空ニ迸ハル、其騎信玄ヲ注視シ、一刻ヲ千
 金ニ期シテ來リ、シガ忽チ叶ヒテ曰ク——信玄何クニ在ルヤ——ト信

玄馬ヲ躍ラシテ將ニ河ヲ亂リ、逃レントス、其騎モ亦河ヲ亂リ、罵リテ曰
 シ——益子茲ニ在ル乎——ト霜乃ヲ閃カシテ之ヲ擊ツ、信玄事急ニレ
 テ刀ヲ拔クニ違ナク、其持スル所ノ塵扇ヲ以テ之ヲ扞キシガ、扇折レ、又
 塵ヲ其肩ヲ斫ラル、從士之ヲ救ハント欲スルモ、湍水急ニシテ近クモカ
 ラズ、隊將原大隅守、其騎ヲ刺セテ中ヲズ、槍ヲ擧ケテ之ヲ打チシガ、恰モ
 其馬首ニ中ル、馬驚キ、跳リテ湍中ニ入ル、是ニ於テ信玄緩カニ免ル、一
 チ得テ、武田信繁、信玄ノ危急ナルヲ聞キ、之ヲ返籠シ、騎ヲ呼ヒテ戰ヲ
 索メ、遂ニ之ニ戰死セリ、是役ヤ、兩軍ノ死傷之ニ當ル、而シテ信玄創ヲ被リ
 夜兵ヲ收メテ退ク、後チ越後ノ捕虜ヲ獲テ、櫛キノ騎者ヲ問ヘハ、是レ主
 將謙信ナリ、
 元弘二年、信玄、謙信復々出テ、河中央ニ對壘ス、信玄、山本晴行等ト謀テ
 曰ク、——我兵ヲ分チテ、越後ノ軍後ニ透リ出テ、鼓噪シテ之ニ逼リ、本軍
 ヲ以テ之ヲ夾撃セハ、必ズ奇捷ヲ得ン——ト乃チ信濃ノ客將保科輝正